猶太研究

表紙の説明

一、中央にある水色と白との二色旗は猶太國の國旗。

二、右の旗は猶太の穏健派『シオン』團の旗。

三、左の赤旗は過激共產主義の猶太團隊『ブンド』の旗。

四、三ケの旗竿の要めに位置せる記號は、猶太の定紋『ダビデ』の楯と其の保護する『シオン』の神

編輯後記

本研究の發表は或る必要上大に急を要するものありて字句を練るの暇なく、剩へ句讀點の位置適當ならざるもの、活版校正の足らざる點ありて通讀の困難なるべきを察す、他日訂正增補の機會に於て之等の缺點を除かん事を期す

北滿洲特務機關

大正十年（紀元二五八五一年）十月
（猶太紀元五六八二年一月）

猶太研究

北滿洲特務機關

DS
134
.Y83

Asian

猶太研究目次

緒言

曩に當機關は對過激派政策上猶太問題研究の必要を認め、北滿憲兵隊と協力して着々其歩を進めつつありし際、偶々浦潮派遣軍より上田歩兵少佐を北滿に於ける猶太の中心たる當地に派遣し、當機關にあつて猶太問題の研究を爲さしむる所あり、研究稍々其緒に就くに方り、少佐は人事の都合にて内地に歸還することとなれり。

當機關は猶太の時事問題に關し其都度之を通報せる外上田少佐の研究を頒ち又酒井通譯官の著述のを配布して參考に資する所あり、其後四王天大佐をして引續き現實的方面より、酒井通譯官をして神秘的方面より研究せしめつつあり、之か完璧を期するは一朝一夕の能くする所にあらさるも、近來猶太問題研究熱の勃興に伴ひ本邦各方面より情報を當機關に求め來るもの少からす、即ち

一、之か要求を充す爲

二、今後本邦人か露人と政治通商其他の關係を結ふに方り猶太人を解すること頗る緊要なるものある事

に鑑み研究の未た徹底せさるを顧みす之を要路の關係者に頒つ事とせり。

玆に頒布を受けたる各位の注意を煩はし度件あり。

一、情報の出所殊に研究者の氏名を公表せさること

是れ上田少佐の研究を頒つに方り述へたる如く猶太人は肯綮に當れる猶太研究の發表を嫌ひ時

として研究者に對し非常手段にて其生命を奪ひたる實例あり、之は稀有の事にて吾人職を軍に奉するものの輕視し得へき事柄なるも最も困難なるは將來一層精細なる研究に入らんとする希望を抛たさる可らさる事是なり、何となれは吾人の研究か赤裸々に公表せらるるときは彼等は今後何等の事實を語らされはなり。

二、所謂軍國主義反對論者中には吾人の眞摯なる研究を目して一概に軍閥の宣傳として葬り去らんとするものあり曩に『マッソン』團の秘密決議なるもの軍憲の手に依り露文より譯出せらるるや、吉野博士の如きは之を軍憲の揑造なりと宣傳せるか如き是れなり、當機關の研究は極て公平なる見地に立ち人種別撤廢問題に關聯し、猶太人に同情を表し得る點は悉く同情を表するものなりと雖も前項の理由に困り已むを得す公表を憚ることあるか故に再ひ軍閥の宣傳と認められさる爲、場合により其出所を示すと共に第一項の理由を明示して誤解なからしめ又、不審、誤謬の事項は當機關に通知する樣公明正大に取計はれたし。

本研究發表は以上の次第によるを以て今後研究の進むに從ひ訂正增補する所あらんとす。

附言　本研究の筆者は猶太の寺院に出入し其熱烈なる演說と之に伴ふ慟哭と其の音樂とを味ひ或は養老院の老廢と語り或は猶太料理店にて猶太料理を取り猶太人と四六時中起居を共にし之と語りつつ本研究を綴りたるものにて決して現今日本の言論界に現はるる或種の猶太研究の如く殆んと英國猶太人、又は米國猶太人の宣傳的書物を全譯したるかと思はるるものと同一視するを得す、去りとて排猶太書物の飜譯にも非す可成眞相を闡明するに勉めたり。

猶太研究引用書目

一、Jewish life in modern times　Israel Cohen

一、New Ressurected Nations　Levin

一、Encyclopoedia Britanica

一、Les Juifs et la Guerre　André Spire

一、猶太人と其起原(露文)　Chamberlains 原著

一、猶太神話　高瀬俊郎

一、舊約全書

一、Daily Prayer Book (Heblew English)　Dr. Philips.

一、『フリーメーソンリー』の研究　管村道太郎

一、大正十年六月發行中央公論

一、大正十年八月十五日實業の日本

一、La Révolution　Dr. Louis Madelein.

一、大正十年十月日本及日本人

猶太研究

第一章　總論

世界の各地に散在する猶太人は總計千三百五十萬人にして是を世界の總人口に比すれは僅かに其約百二十分一に過きす、然るに近世に於ける猶太人の結束及活動は歐米列强の注意を惹き（猶太人を有せさる日本は別問題とし）必すや何等か世界の問題を惹起すへきことを豫想せられしか、果然西曆千九百十四年乃至十八年の世界大戰に際し猶太人は其努力奮勵の結果從來彼等を迫害せし露、獨大帝國、大陸軍國を崩壞せしめて活動の自由を收め次て過激派を利用して盛に其怪腕を奮ひ今や猶太人は東大陸の大部を領する露國を飜弄して其實權を握り西大陸の牛耳を握れる北米合衆國内三百萬人の猶太人（世界的富豪を集め金權を掌握しあり）と相呼應して世界を其掌中に收めんとす、此に於てか之か反動として反猶太熱も亦勃興し獨乙最も露骨にして勞農露國に於ても其暗流は日を逐ふて盛ならんとす。

從來絕海の孤島に退嬰して猶太問題の圈外に超然たりし我帝國も今や愈々一等國の末班に列して混亂綜錯せる世界の大洋に乘り出す時は直ちに猶太に關する二個の潮流に遭遇すへし而して反猶太に伍すへきや或は又、人種別撤廢の大道を取り寧ろ彼等に同情し之と提携して帝國の進路を拓くへきやは、遲れたりと雖も當に今日に於て熟慮斷行すへきの機運に際會せり、人往々猶太人を以て單に非國家、非愛國、憶病、拜金の權化となし、英、米、獨、露の如き形式上の國家あるを知り、之との聯盟合縱

を策するに急にして却て其强國内の大勢力となり之を一貫の血脉にて連續せる大猶太王國の現存を閑却し之か爲に猶太問題を說くを見ては神經過敏となし取越苦勞と侮り歷史か日々猶太豫言者の言の如くに進展しつゝあることを察知する能はさるものあり、而して其原因は蓋し猶太の何物なるかを知らさるに存す故に帝國の國是を定むる爲には必す先つ猶太の何物なるやを明にせさる可らす、是れ本研究を要路に須つ所以の一なり。

國是一度定まらは、爾他の事悉く之より打算すへきや論を俟たす、而して帝國の對過激策の如きは既に屢次中外に宣明せる所にして炳として日月の如し但し其實行に方り過激派と充分の連繫を有し之か指道又は宣傳の任に從ひつゝある猶太の勢力を如何に取扱ふへきかは直に來るへき問題なり、之か爲にも猶太人は如何なるものなりやを明にせさる可らす、是れ本研究を要路に須つ所以の二なり。

帝國か從來師を興するに方り連合與國軍内の猶太分子又は敵軍中の猶太分子、或は又占領地の猶太分子に關する研究の足らさりしものあるを覺ゆ而して今後の戰爭に於ては猶太人は從來とは一層異れる色彩を有するものと判斷せらるるを以て、猶太人の根本を明にし、誤解違算なきを要す、是れ本研究を要路に須つ所以の三なり。

世界の歷史殊に歐洲大戰以來の政治外交史及戰史を眞に了解するには、本研究に收めたるか如き內面的動機を知らされは、錯誤を來すことあり、是れ本研究を要路に須つ所以の四なり。

本研究に於ては主として耶蘇紀元七十年『エルサレム』を完全に失ひたる以後の歷史を基とし現在の猶太活歷史を述へ以て將來を推すに止めんとす。

第二章　猶太人の一般的研究

第一節　猶太人と其鑑別法

猶太人は現今世界各地に散在する特種の一人種にして東は日本帝國より西は亞米利加の諸國に亙り、北は勞農露國より南は南阿の鑛產地に至るまて、各國に居住して其の國籍を取るもの多し、即ち單に米國人と稱するも其内には猶太人兼米國人あるなり（本研究中に於ては此の種の人を米國猶太とも云ひ、行文の都合に依り猶太系米國人と稱ふる場合あるへし。但し嚴密に言へは、猶太系米國人とは猶太の血を混せる米國人又は猶太の方策を遵奉する純粹の米國人を含むものとす）同樣に獨乙猶太あり英國猶太あり、佛國猶太ある譯なり、今日迄日本猶太なるものなし。

猶太人は最初如何なる土地、如何なる時代に發生せるやに關し之を民族學上より討究すれは種々異論あるか如きも今より約四千年前亞細亞の西南端より亞弗利加の東北端に亙る東大陸の中心に發生し、而して今日迄他民族と血族の混淆を來たささりし特種の人種なることは諸學者の一致する所なり。

尙最も重きをなす一學說左の如し。

猶太民族は長く同民族間の結婚のみを行ひたるを以て今日に於ては確に一定不變の人種を形作りたりと雖も決して同族結婚の害を發揮せる不良民族にあらす、何となれは此民族は全然關係なかりし左の三種の民族の混血により生せるものなれはなり。

一、純『セミット』族　（ベドウアンとも云ふ）
二、『ヒテイット』族　（シリア人）
三、『アモレアン』族　（印度—歐羅巴人種）
『セミット』族は亞刺比亞の荒廢地に水草を逐ふて轉々せし民族なり。
『ヒテイット』族は小亞細亞の『シリア』地方の民族なり。
『アモレアン』族は波斯灣沿岸に發生し後『シリアに』侵入せし民族なり。
以上三種の異民族は全然混血して一の合金の如きものとなりたるや換言すれは猶太人なるものは何れも同型のものなりやと云ふに實は然らすして、猶ほ三種の原型を留むるものと全然混淆して何れとも識別し難きものの四種あり。
其比例左の如し（歐羅巴に居住するもののみにつき研究せる結果なり）

一、『セミット』型　五%
二、『ヒテイット』型　五〇%
三、『アモレアン』型　一〇%
四、混　淆　三五%

以上猶太の三種を識別すへき特徴は左の如し。（附圖第一參照）
一、『セミット』型は沙漠に住する亞刺比亞人の顏貌、體格を備へ頭蓋骨前後に長し亞刺比亞、『モロッコ』、『アルゼリヤ』等に多し。

二、『ヒテイツト』型は頭蓋骨前後に短く鼻は所謂猶太鼻なり、壯年に及へは多くは下腹肥大して麥酒樽の如く、丈は余り高からす。

三、『アモレアン』型は丈高く頭髮は金髮にして眼は碧く顏色も亦白し、頭蓋骨は長からす、短からす中等なり。

四、混淆型は全然混淆にして何れとも判定し難し例へは頭髮漆黑にして眼の碧きか如き又頭髮色、頭蓋型の形狀何れも特色なきものあり。（「チヤムバーレン」原著　創世篇四百三十九頁を敷演す）

然らは以上猶太人全部を通したる特徵ありて一見猶太人なることを確實に鑑別すへき方法なきやの問題に到着す。

之に關しては前記混淆型の如く三十五『プロセント』か最も歐羅巴人に近き『アモレアン』の型をも交へたるを以て、之等と純歐米人との識別に困難を生すると共に、歐米人にも頭髮黑く又は印度—歐羅巴型のものあるを以て、適確なる鑑別は困難なり、然れとも斯界のオソリテー『イズラエル・コーヘン』氏も、其著書第百十七頁中に、兎も角猶太人共通の謂はは最大公約數を體格上、外貌上に發見し得る以上は所謂猶太型なるものの存在することは否認の余地なしと述へたり。

學者の所說と日々猶太人に接觸して觀察せる所と最も猶太人を嫌惡する露人の常に注意を怠らす觀察したる研究とを綜合し重復を顧みす猶太人の鑑別法を略述すれは左の如し。

一、外　貌　上

(1)　鼻

最も顯著なるは鼻にして其特徴は高く、反りを有し、尖りあり側面より見れは 状を呈し此の如く顯著ならさる 狀のものに於ても常に鼻梁は小鼻より長し、即ち正面より見れは 狀を呈す。

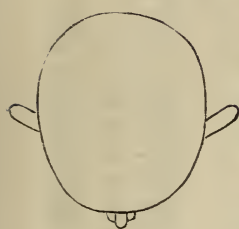
『コーヘン』の著書百十三頁にも左の如く自白しあり。

從來鈎鼻は猶太人鑑別の最大特徴ならすとするも少くも有力なる特徴と見做されありたり、然るに露西亞及『ガリシヤ』地方墺匈國の猶太人を注意して觀察するときは其の六割乃至八割は所謂希臘鼻と稱する鼻梁の眞直なるものなることを發見すへし、鈎鼻は唯猶太の惡口を描ける戯作ものの紙面を賑はすのみ然れとも『ヨセフ・ヤコブ』氏は猶太人の鼻孔は特に目立ちて大きく且つ屈曲すと明示せり。(是れ前述鼻梁の著しく下れる關係なり)

(2)　耳

耳も亦最も著しき特徴にして日本の劍術家の如く耳朶か頭部に接するは少く、頭の側面と四十五度以上の角度を呈し甚しきは直角に近く見え而して又耳の上端か頭部より遠かり下部か頭に密接し然らさるも馬耳の如く上端尖鋭なるもの尠からす。

平面圖

後面圖

此の特徴は特に小兒の時に著し、婦人に於ては頭髮の關係上之か識別容易ならさるも連れたる小兒を見るときは鑑別の一大資料を得ることあり、獨り耳に限らす鼻に就ても動物に見る間歇遺傳的に祖父母の特徴孫に至つて現はるることあり、哈爾賓在住有識階級に屬するに二露人あり、何れも餘り特徴なき猶太美人を娶りしか生れたる兒女は一は最も明瞭なる猶太耳他は最も明瞭なる猶太鼻を有す。

(3) 其　他

男女を通し『ソバカス』の顏面手及頸部に著しきものあり、然れとも近來は彼等の得意なる醫術の力により之を治療するの傾向あり、哈爾賓に住する猶太婦人にして甚たしく『ソバカス』を有し而して醫療を受けたる當分は全く治療し得たりと見ゆるも數ヶ月の後には又一面に發生するを常とするものあり、猶太教會等に於て實驗するに猶太人の約五％は顏面又は手に『ソバカス』を有するものあるか如し。

男子は『モミアゲ』を短く剃らすして自然に放置するを法則とすとの說あり然れとも從來觀察する所にては『モミアゲ』を貯ふるものは頗る稀にして殊に近來は多く『ハイカラ』式に短く切るに至れり、但し東歐に住する猶太人の堅固なる信者は或は今尙貯ふるならんか。

其他猶太通と稱する露人中には猶太人と近接せは、特種の息氣にて誤なく之を鑑別し得へしと稱するも信を措き難し。

最も有力なる猶太男子の識別法は陰部を檢するにあり是れ男兒生るるときは、第八日目に、

割禮と稱する宗教上の儀禮により、包莖切開を斷行するを以て、成年者と雖とも其の瘢痕を檢出するときは殆んと斷定的鑑別を下し得へきを以てなり、尤も回々敎徒中の韃靼族にも此習慣ありと言へは絕對にも非す、又猶太以外の成年男子にして病的包莖の爲切開せるものもあるは勿論なり、但し此の如き人權蹂躪は唯犯罪者、泥醉者、熟醉者等に就き實施し得へき特別方法のみ、而も猶太人は殆んと泥醉せさるを以て其場合益々少し。

以上列擧せる諸特徵は決して個々のものにより斷定的に鑑別し得るものにあらすして、以下列記する衣食住、言語文字等より綜合的に判斷するを要するや勿論なり。

尙外貌上一般に猶太人に接して生する感想を擧くれは左の如し。

顏面に何となく憂ひを含み、會談中に於ても眉を寄せ愁面を作る習慣のものあり、是れ千八百年來の壓迫に苦みたる結果、以心傳心的に悲哀を胸中に刻み込まれたる爲なるへし、此點は猶太人虐殺の脅威を受け歐露より極東方面に漂浪する猶太人に特に多きの感あり。

又他の反對の型は極めて慧敏にして意識明敏眼光煌き俗に所謂巾着切然たるものあり商人及ひ辯護士方面に多きこと勿論なり。

又猶太人は槪して他の歐洲人に比し品位上らさるを常とす、歐洲戰の際巴里の雜踏の場所に於て帽子を脫したる多數英米將校の雜然坐を占めあるを一瞥し其肩章を檢するに先ち顏貌、品位に就て何れか米國將校なるやを判定し、次に肩章を檢すれは、槪ね誤なかりしは大戰當時同地にありし日佛將校等の實驗せし所なり、是れ米國人中には多數の猶太人あるを以てなり、尤も鬚髯を貯へ日本の

『大學眼樂』の看板にある如き型の男子も多々あり、又女子には女優の優秀のものを出せる程なれは品位の善きもののあるや勿論なり、但し顎鬚を貯へ『フロック』又は『モーニング』を着したる立派なる猶太紳士か、時に公衆の前にて手鼻をかむことあるは多年の猶太貧民窟生活の遺風今尙ほ彼等に止まるならんかと想像せらる。

二、衣　類、持　物

猶太人と雖も現今に於ては歐米人と同一の服裝をなすを以て識別困難なりと雖とも其通有の特性を擧くれは

華かなる色合ひを好むこと男女共通にして所謂淸楚『澁さ』等の嗜好に乏しきを感す、例へは男子か赤色又は之に近き『ネクタイ』を好み女子か相當の年配をも顧みす桃色以上の服を着用するか如き其他着物の着『コナシ』及ひ『ガラ』の選擇に拙なるを以て、一見して猶太人なることを識別し得へしと稱する露人あるも、歐洲人の田舍漢か祭日の着飾りを誤つて猶太人となす虞多かるへしと信す、又頭髮黑く色淺黑く一見『セミット』型猶太人かと見誤るへき風貌を備へ而も極めて華美なる服裝（日本の雛妓の如き）をなせる婦人あるも是れ南露、匈牙利『ベッサラビヤ』等にある『ツィガン』族に屬するものなり、有名なる歌劇『カルメン』の『ヒィロイン』『カルメン』女は即ち之なり、猶太人と混せさるを要す。

最も確實なる鑑別法は『ダビデ』の楯✡印の『ネクタイ』止め、『カウス』釦又は『メタル』を有するものは猶太人と見るへく金屬の十字架を鎖にて頸に掛けたるものは基督敎徒なるを以て猶太

人に非すと判別し得へし但し猶太人にして猶太教を捨て基督教徒に歸依したるもの又は特種の目的を以て特に十字架を掛くるか如きものあらは誤らるることあるや勿論なり。

三、食　物、言　語

食物も一般歐米人と異ることなきも猶太教を堅固に信奉するものは豚を食ふことなし、但し回々教徒（露國人に少からす）も又豚を食はさるを以て此の一事のみにては斷定を誤まることあるへし。

二人以上集まり居る場合には國語以外の言語にて語り合ふことあり、希伯來語なることををを確め得さる場合に於ても一の徴候として認め得へし。

四、住　居

猶太の紋✡を屋上又は壁に掲けあるものは明に猶太人の家屋なり。

又[illegible]の如き希伯來文字を看板等に掲けあれは是亦確實に猶太家屋と見做し之に居住するものを猶太人と認定するを得へし。

其他戸を開きたるとき其の入口の柱の內側に斜に金屬の三、四寸のものを打着けあるは猶太人なり其の金物の中には守り札あり借家、間借りに於ても亦同し、信神深き猶太人は出入の度毎に最も外にある右の御守りに口を寄せ手を以て三度御守りの空氣を口に持ち來す事、淺草觀音の『オビンヅル』に手を觸れ患部の恢復を祈る習慣を想起せしむ、之と同時に彼等の生命か保證せられさりし昔、家を出るとき神に途中の守護を依賴するの必要ありしことを聯想されて可憐

し、猶太人は希臘正教信者の各室に見る如き聖像を有せさるは勿論なり。日曜日に絶えて基督教の寺院に赴くことなき外國人あらは無神論者か、『ユニヴアーサリスト』か、教會に屬せさる自由信者なるやも知る可らすと雖も又猶太人ならすやとの疑を挿み得へし。姓の語尾に『ソン』『マン』『モン』等の附きたるものは悉くは猶太人に非るも尙ほ有力なる一兆候とす例へは『サムソン』『シムプソン』『トーベリソン』『ジョンソン』『ペンソン』『ベルグソン』『リーベルマン』『カウフマン』『グロスマン』『シモン』『スミス』『モリス』等の如し。

『コーヘン』『コーガン』『カーヘン』『カガン』『カッツ』等は殆んと疑なく猶太人と見做し得へし、四王天大佐嘗て佛國に於て歸朝の途に上れる友人の紹介により『コーヘン』なる佛人を教師に傭はんとせしか戰爭中の事とて念の爲『ブラックリスト』中の人ならさるやを軍の間諜取締部にある友人に尋ねたるに、同人は『リスト』中に無きも其の姓のもの多數あり、交際せさる方萬全なりとの忠告により斷りたることあり、當時其の猶太人なるに氣附かさりしか、猶太問題研究の途中に於て『コーヘン』なる姓の多多現るるに及ひ其猶太人なりし爲交際せさる樣忠告せられしものなるを覺り得たり。

其他『サミユエル』とは猶太語にて神に聽かるるの意にて此姓は猶太人に多し。

名の最も明瞭に猶太人なることを現はすは

『イズラエル』『ヤコブ』『イザック』『アブラハム』『ダビドソン』等にて女子には『サラー』『ラヒール』又は『ラケル』『ラシエル』と呼ふものあり、之等は祖先崇拜の遺風より祖先中の英傑又は美

人の名を取れるものなり。

素より猶太人の姓名も多種多様にして殊に土地の狀態により其國風の姓に變せるもあり又は故意に僞名するものあり『クラスノシチョーコフ』か『トーベルトン』の僞名にして『トロツキー』か『ブロンシテイン』の僞名、『ハリトーノツフ』か『レーベンソン』の僞名なる如く目下僞名者多きを以て其判定は困難なり、殊に將來勞農露國又は極東共和國か特別任務を以て日本に猶太人を派遣せんとするか如き場合に旅劵其他萬事猶太人ならさることを信せしめんとせは易々たる事なるを以て姓名のみを以て判斷するは不可なりとす。

以上猶太人鑑別に就き縷々數百言を費したるは猶太人に對する時、君は猶太人なりやとの質問を發することか彼れに不快の念を起さしむる場合多きを以て先つ諸種の徵候により之を察するの外なきを顧慮し參考の資に供せんとするにあり、猶太人なること確實と認めたるものに對して宗教は何なりやと質問せは余は猶太人なりと答ふるの風潮近年漸く勃興し來れり、但し特種の事業に屬するものは明言せさるもののある可し。

以上述へたる猶太人の特質は猶太人の三原始族と其の混淆が、他の民族と全く別種の特徵を備ふるものとして述へたりと雖も事實に於ては、現今他の民族との結婚少からす獨逸の如きは純猶太人六十一萬五千に對し混血兒を加へたる所謂猶太系獨逸人なるものは百七十三萬に達したりと云ふ故に猶太混血兒と猶太人以外の歐米人との識別に至つては實際困難なるものとす。

第二節　猶太人の宗教

猶太の歴史を通観するに其興れるも宗教の爲にして其亡ぼされたるも亦宗教の爲なり而して千七百八十六年間地球上を漂浪し諸種の迫害を受けて屈せす終に『パレスタイン』復興の夢を實現するの運ひに至りたるも亦宗教の賜なりとす、極言すれは猶太の歴史は宗教歴史と云ふを得へきか如し。故に猶太に關する宗教上の記錄は頗る多く其全豹を窺ふ事は外國人殊に業務の傍ら研究するか如きものか一生を捧くるも到底及はさる所なり故に今述へんとするは其特色殊に政治上に關係を有するもののみに止むるの外なし（猶太の宗教は豫言者を信し其實現を期する點に於て神秘的宗教に屬するを以て此の方面に關しては他日主として酒井通譯官の研究せるものを公表すへきを期す）

猶太教の大體を律するものは大經典『タルムード』及『トラー』なり、前者は口述のものを筆記し後者は『モーセ』か『シナイ』山にて直接神より筆記せるものを受領せりと傳へらる『タルムード』は『ヘブリユー』語にて記述せる浩瀚なる大册頗る多數にして、猶太人も其何册なるかを知らさるもの多し英、露等の飜譯書の通讀すら容易の業に非す、猶太の信神家は暇ある每に之を繙き研究默考しつつあり。『スピノザ』の如き哲學者は其哲理を『タルムード』中より發見せりと云ふ、然れとも余りに大部にして動もすれは研究迷宮に入るの虞あるを以て、第十二世紀『モセス・メーモナイド』之を簡單に拔萃して『ミツシネー・トラー』（神の法律の寫しと云ふ義）となせり然れとも尙十四册を算す。

今年（紀元二千五百八十一年）九月二十五日哈爾賓埠頭區に新築せる猶太寺院（シナゴーグ）開院の式を見るに

舊寺より四卷の手記せる『トラー』を新寺に移せり、各卷頗る浩瀚にして、金銀を剛（チリバ）めたる王冠と共に天蓋に覆はれ一人の手にて運はれたり、途中二、三十步每に交代して之を擔ひ其榮を多くの猶太紳士に頒ちたるか如し。

此の如く『トラー』も亦余りに浩瀚なるを以て更に之を縮抄し終に『シュルチャン、アルチ』（据え膳の意）なる小冊子を生せり。

今此小冊子中より最も基礎的の信條十三個を抄譯し其敎義の大要を窺はんとす。

一、予は其名を稱ふるも有難き造物主か凡ての造られたるものの創造者にして攝理者なること及造物主のみ獨り之を爲したり、又爲しつつあり又將來凡ての事を爲すものなることを誠心誠意を以て信仰す。

二、予は其名を稱ふるも有難き造物主か統一（ユニオン）にして之に向つて結合する以外他に統一の方法なき事及ひ造物主獨り吾等の神に在したり、在しつつあり、又將來在ます事を誠心誠意を以て信仰す。

三、予は其名を稱ふるも有難き造物主は物質に非すして物質上の凡ての出來事とは全く關係なき事及ひ造物主自身何等の形體を備ふるものに非ることを誠心誠意を以て信仰す。

四、予は其名を稱ふるも有難き造物主は世の始めにして又其終りなることを誠心誠意を以て信仰す

五、予は其名を稱ふるも有難き造物主にのみ祈禱を捧くへきものにて其以外の如何なるものをも祈禱するは正しからさることを誠心誠意を以て信仰す。

六、予は豫言者の述へたる所は凡て眞實なることを誠心誠意を以て信仰す。

七、予は吾等の師『モーセ』（おお彼に幸あれ）の豫言か眞實なりしこと、『モーセ』は彼に先つて降りし二人の豫言者及彼の後に降りし諸々の豫言者の長なることを誠心誠意を以て信仰す。

八、予は吾等の現在手にする神の律法は吾等の師『モーセ』（おお彼に幸あれ）に與へられしものと同しき事を誠心誠意を以て信仰す。

九、予は此の神の律法は變らさるへき事及其名を稱ふるも有難き造物主は決て此の以外に何等の他の律法を下さる可き事を誠心誠意を以て信仰す。

一〇、予は其名を稱ふるも有難き造物主は其子供等たる人類の行ふ凡ての事を知ろしめし給ふのみならす、心中に考ふる事をも恰も口に出したると同様に知ろしめし給ふ事並に全人類の心を導き給ひ全人類の凡ての働きに注意を與へ給ふものは造物主なることを誠心誠意を以て信仰す。

一一、予は其名を稱ふるも有難き造物主は其の命令を遵奉するものを褒賞し之を犯すものを罰し給ふ事を誠心誠意を以て信仰す。

一二、予は救世主の降來を誠心誠意より信仰す縱令其降來遲るゝとも予は日毎に之を待たん。

一三、予は其名を稱ふるも有難き造物主の御心に適ふときは死者は蘇り其の名は永久に稱へらるへき事を誠心誠意を以て信仰す。

主よ—、予は汝の救を希ふ、主よー、オー主よー、予は汝の救を希ふ（尙一度主よー、より繰返す。）

即ち其根本は一神敎にして造物主即ち神と豫言者の傳ふる神の律法とを信し救主の來るを待つ間死

を怖れず正義の命ずる儘に働くを教義とせるか如く、一面他力本願に似て實は營々として倦むことなき自力本願の民族なり。

豫言者の傳へたる神の律法なるものは頗る詳密にして憲法以下の諸法律は勿論衣食住に至る迄悉く干渉的に規定しあり、其内最も有名なるは『モーセ』の十誡にして其要旨左の如し。

我は汝の神『エホバ』、汝を『エジプト』の地其の奴隷たる家より導き出せしものなり、汝我面の前に我の外何物をも神とすへからす、汝自己の爲に何の偶像をも彫む可らす、又上は天にあるもの下は地にあるもの並に地の下、水の中にある者の何の形狀をも作るへからす、之を拜む可らす、之に仕ふ可らす、我『エホバ』汝の神は嫉む神なれは我を惡むものに向ひては父の罪を子に報ひて三、四代に及ほし我を愛し我か誡命を守るものには恩惠を施して千代に至るなり、汝の神『エホバ』は己の名を妄りに口に上る者を罪せては置かさる可し安息日を守りて之を聖潔する事汝の神『エホバ』の汝に命せし如くすへし六日の間勞きて汝の一切の業を爲すへし、七日目は汝の神『エホバ』の安息日なれは何の業務をも爲す可らす、汝も汝の男子、女子も汝の僕婢も汝の家畜も、汝の門の中にある他國の人も然り、斯く汝僕婢をして汝と同く息ましむへし、汝誌ゆへし汝斯て『エジプト』の地に奴隷たりしに汝の神『エホバ』強き手と伸へたる腕とをもて其處より汝を導き出し給へり、是をもて汝の神『エホバ』汝等安息日を守れと命し給ふなり、汝の神『エホバ』汝に命じ給ふ如く汝の父母を敬へ、是汝の神『エホバ』の汝に賜ふ地に於て汝の日の長からん爲、汝に祥のあらんためなり、汝殺す勿れ、汝姦淫する勿れ、汝盜む勿れ、汝其隣に對して虛妄の證據を立つる勿れ、汝其の隣の妻を貪る勿れ、又

憐人の家、田野、僕婢、牛、驢馬、並に凡て汝の憐人の有を貪る勿れ、是等の言を『ヱホバ』山に於て火の中、雲の中より大なる聲をもて汝等の全會衆に告給ひしか、此外には言事をなさす之を二枚の石の板に書して我に授け給へり。

（註）右は基督敎徒も同様に信奉す猶太原本の通俗的のものには要點は異らさるも大に畧しあり。

右十戒の外特に注意すへき點を擧くれは左の如し。

一、幾十を以て數ふる祈禱文中殆と凡て何回となく『オー主ナル神ヨー』と『宇宙の王』とを對句として用ひあり彼等は『イスラエル』民族を以て此地球の代表民族と考へ而て對象物として宇宙を考ふる所確に規模宏大、眞に地球上の一大民族の價値ありとなすへき點あり、日本帝國なれは當に天御中主神を信仰靈拜する事に相當し一村一郷の氏神を祭ると趣を異にす。

哈爾賓市の新猶太寺院の堂內を見るに天井の半球形大圓蓋部には壁畵的に天體を描き、天の川を現はし、各星坐每に區劃を施し又大陽系の軌道をも現はし仰ひて之を見るときは正に思は俗世界を離れて幽遠の境にあるやを疑はしむ。

二、右と全く反對に地球上の一角『エルサレム』の恢復の爲に多大の努力をなし、之を以て神の使命と心得居ることを確證すへき祈禱文は少からさるか最も代表的なるは結婚式の際第二杯目の盃を蹈み壞して『エルサレム』喪失を悲み之か恢復を祈るの祈禱文にて彼等は此くして既に一千七百八十六年臥薪嘗膽を繼續し、以心傳心一子相傳的に『チオン』恢復の精神を傳ふるなり其祈禱文左の如し。

（前略）宇宙の王なる我等の主なる神に光榮あれ神は樂と喜、花婿と花嫁、開濶と悦樂、快樂と恍惚、戀愛と友愛、平和と友情とを賜へり。
遠からずして『ヱルサレム』の街に『ユダ』の町に歡樂の聲と花婿、花嫁の聲起り、祭壇よりは喜ひに滿てる夫の聲、唱歌壇よりは若き男女の美音響き渡らん。
花婿をして花嫁と共に樂ましめ給へる主に光榮あれ。
（右終つて花婿は酒盃を蹈み壞す）

三、祈禱文中に明に『イスラエル』民族か神の選民なることを言ひ現はせること。
一例を擧くれは祭日に捧くる祈禱の一節に「我等の主なる神、宇宙の王に光榮あれ－、神は總ての民族内より我等を選ひ給ひ、各國の言葉もて我等を賞賛せしめ給ひ、神の十戒を以て我等を聖め給へり」とあり。

四、世界統一、金權集中、帝王廢止を豫言せること。
『ヱザイー』書第六十章に左の一節あり。
豫言者曰く
『ヱルサレム』よ起き上れ。
光を放て汝の光諸方に及はん。
無窮の光榮は爾の上に止まらん。
諸方の國民は爾の光に向て進まん。

諸國の王も爾の光の輝く方に。
其時爾は雀躍して喜はん。
爾の鼓動は高まり心臟は膨れん。
海の富は悉く爾の方に向ひ。
諸國民の金庫は爾の許に集められん。
外國の若者は爾の城壁を築き。
外國の王等は爾の僕とならん。
爾を迫害せしものの子孫は爾の前に屈服し、爾を輕んせしものは爾の足下に膝まつかん。
爾は諸國民の乳をすすり。
爾は其の王等の乳頸を甜らん。

五、「イスラエル』民族の爲に祈る（僧侶の行ふ祝福詞中の一節）

オー我等の主なる神、祖先の神よ、神の『イスラエル』人民を祝福すへく命し給ひし御心か現在も將來も何の支障なく完全に行はれんことを（中略）

吾等の神なる「無窮」世界の王よ『アーロン』の神聖を吾等に許し其の『イスラエル』民族を祝福すへく慈愛を以て我等に命し給ひし神に光榮あれ（中略）

宇宙の王よー、予は爾のものにて、吾か夢は爾の夢なり、予は一の夢を見たれとも何を豫言するやを知らす、オー主なる吾か祖先の神よ其の夢か爾の前にて受取り得るものなることを希ふ

又予と凡ての『イスラエル』人とに關する予の夢か吉事なることを希ふ。

六、祖先崇拜孝道を勸め又皇統一貫論なること。

前述の如く神を呼ふに「吾等の神」「吾等の祖先の神」として祖先を崇め又父母を尊敬するを敎ゆること『モーセ』十戒中に明示しあり尙亡父母に祈くる捧禱文左の如し。

別れたる靈魂の追吊祈禱

神よ我か尊敬すへき亡父……の靈を追懷し給へ。

之が爲予は亡父の冥福を祈り、慈善的供へ物を捧げん、願はくは之が報ひとして亡父の靈を『アブラハム』『アイサック』『ヤコブ』及『サラー』『リベッカ』『ラヒール』『リア』其他極樂淨土にある善男善女と共に永世の樂みを享けしめ給へ而して吾等をして『アーメン』と云ふを許し給へ。

亡母、亡祖父母に對する祈禱文も定められあれとも字句と氏名の異るのみなるを以て略す。

皇統一貫に就ては猶太の有名なる王『ダヴイデ』か死に瀕し其の子『ソロモン』を呼ひて與へたる遺訓中に左の意味あり。

『モーゼ』の遺したる訓戒を守り、法律に遵ひ、決て一時の感情より不正を庇護すへからす、此の法律を犯すことあらは、汝は忽ち神の愛を失ふに至り、有らゆる事不成効に終らん。吾々の家族以外のものに『ヘブライ』人の統御を委す可らす、幾代の後迄も吾々一家の者か首長ならさるへからす。

以上の外『タルムード』には左の如く他民族を蔑視する敎義を敎へありとの說あり、『タルムード』の如

何なる部にありや調査を命したる後、數ヶ月を經るも譯文の取揃へるものなき爲か、未た適確なる回答に接せす、猶太人は否認するも猶太人を妻とせる某露人（法學士）は眞實なりと信しあり又『タルムード』の縮圖たる祈禱集にも『「チオン」の門』と稱する章の如きは一部原文の通り稱ふるを禁し之に代るへき經文を作りあり之等の事實に照すときは或は左の如き文句も以前存在したることありしか、猶太人迫害の盛なるに及んて之を改廢するに至りたるやも知れす、暫く疑を存して記述す、（猶太敎會に備へて一般の觀覽に供する『タルムード』の露國版には檢閲濟と記しあり反言すれは祕密版のものあるやも知れず。）

一、神の子孫としては唯一の猶太民族あるのみ其他の者は悉く惡魔の後胤なり。

（前記猶太人を妻とせる露人は次の如く記憶しあり）

神の選民『イスラエル』民族のみ獨り人類の靈魂を宿す其他のものは人の皮を被たる動物なり。

二、萬世無窮に價値ある生活を保持し得るものは猶太民族あるのみ（ラビ、アブラワネル）

三、猶太民族以外のものは自ら人類と名乘る權能を有せす、寧ろ不潔なる精靈より出てたる『ゴイ』（豚）と稱すへきものなり。

四、『ゴイ』は吾人の世界に於て何等の特權を收得し能はす蓋し彼等は單に獸類に過きされはなり、若し猶太人の所有に屬せさるものありとせは之れ恰も喪失したるに等し要するに宇宙の萬物は悉く優先權を有する猶太人の所有に歸すへけれはなり。

五、猶太人は『ゴイ』に對し所有權を與ふることを得且つ彼等に對する生殺與奪の權能を有す。

『汝殺す勿れ』なる戒は『イスラエル』の子孫たる猶太人を殺す可らすの意なり故に『ゴイ』は殺戮するも妨くる所なきのみならす何等責を負ふ虞なき場合には之を斷行するを最良とす、而て吾人は主として博識なる『ゴイ』の驅除に努むへきなり（ラビ、マイモニット）

六、『ユーダ』よ『ゴイ』の生命は汝の掌中にあり故に彼等の有する金は多々益々汝の有に歸すへきなり。

七、吾人は『ゴイ』の心臟を裂き取り且つ基督敎徒の權威者を虐殺せさる可らす。

八、『ゴイ』を屠り其血を流すは神に犧牲を供するなり。

九、猶太人を故意に殺害したる『ゴイ』は全世界を破滅したる者と同一の罪に服すへきものなり。

猶太敎の特色に就て猶太人の誇りとするもの二あり。

一、神か眞に一にして基督敎の如く基督を神とし敎義を晦迷せしむることなきこと（彼等は今日尚基督を猶太人の宗敎革命家の領袖なりと公言しあり）

二、猶太敎は五千六百年の歷史を有する世界最舊の宗敎なるに拘はらす未た他の宗敎の如く宗派爭ひ起らす是れ誠は一にして二三なければはなり、哈爾賓の二ヶの猶太敎會の如き互に五、六百米を距つるのみなるを以て新敎會は宗派にても異るかと見れは新敎會は從來の敎會より『トーラ』を遷坐し全然一宗派なり他の宗敎殊に基督敎徒、佛敎徒は之等に就て反省せさる可らすと考ふ。

猶太人の宗敎觀は概要右述ふるか如きも現今に於て果して舊約全書時代の如く熱烈なる宗敎心を保存しありやは注意の値あり。

西歐諸國基督教文化の盛なる地方殊に科學の發達せる國に於ては懷疑派の學者勢を伸ふるに伴ひ、猶太人の信仰心も基督教徒のそれと同樣に減退しつゝあるを說くものあり、現に資本論を以て有名なる過激思想の元祖獨逸猶太人『カルル・マルクス』は明に『宗教は人心の阿片なり』と呼號せり、哈爾賓地方にも稀には之に感染したるか或は之を裝へるか無神無靈魂を信する猶太青年に遭遇す、然れとも一萬餘の人口に對して二ケの大寺院を要すること及新寺院開院式に於て猶太群集の熱狂して負傷者を出さんとせし現場を認めたるものは何人も未た容易に猶太の宗教墮落を輕信せさる可し。猶太人より宗教的信念を除かは全然一介の非國民、亡國の民たるに過きす是決して彼等の多數か同意し能はさる所ならん。

尙猶太の宗教に就て一言すへきは、一般に其寺院の質素なるにあり、今回開院せる哈爾賓の新寺院も二階建煉瓦造の大建築なるに拘らす僅に十五萬圓の建築費にて足れりと云ふ是れ金銀の裝飾なき爲此く安價なりしならん。

（此の寺院を參觀して直に起る感想次の如し、日本の社寺も神道本來の建築の如く、白木を以てする方、質實にして自然を現はし得へく基督舊教の寺院又は日光の東照宮の如く輪煥の美を極むるは、益々宗教が愚民を惑はす方策なりとの宣傳を助くるに至らん）

第三節　猶太人の言語、風習

猶太人の言語文字は特種にして而も世界の猶太人に共通なり、西伯利に出征せし米國兵中には多數の猶太人あり一も露語を知らさるも猶太人の店に至れは充分用を辨し得たりと云ふ、尤も西班牙語の訛

りを有するに至りたる爲此系統の猶太人即ち東歐諸國にあるものには西班牙訛りを交ゆるものありと云ふ（Judeo-Spanish）

又露西亞系猶太の殖民せる所には獨逸訛を交へたる Yiddish or Judeo-German と稱する猶太語を生し獨逸語に堪能ならさるものの耳には獨逸語かと誤る位之と酷似せる字あり、此種の猶太語を話すものは全猶太人の半數あり。

此の如きを以て近來猶太人は『エルサレム』恢復の近けるを感し國語の統一を努むるの觀あり。千九百十四年『イズラエル・コーヘン』も之を絶叫せり（Jewish life in the modern times 322頁）

日本にも神戸に『スプートニック』なる猶太の印刷所ありて猶太文字の書物を刊行す其出版物は哈爾賓にも入り込みあり。

近來は哈爾賓市內の廣告塔に猶太文字の廣告文あり、猶太人の軒を並へて棲息する町には看板の露字に猶太文字を並記せるもの尠からす、又猶太語を以て談話するもの漸く增加せり、露人の面前にては此言語を用ゆれは耳語に依らすして秘密の相談を遂け得へし（大戰間猶太間牒は別に暗號を用ひす猶太語にて秘密通信をなしたりと云ふ說あり）

從來經典研究の外要なかりし猶太語も此の如くにして復活し來れり故に我邦に於ても單に古典研究者にのみ委することなく猶太語學者を造るの必要あり陸軍に於て殊に然りとす。

『アルファベット』は母音七、子音三十一、計三十八文字より成る尤も子音の內五ヶは語尾に用ひらるゝ場合の特別の形を取る爲なり。

書體は楷書と草書とあり、何れも歐文の如く横文字にて、行は上より下に進めども、字は凡て右より左に書くを特異の點とす。

猶太には固有の數字なし『アルファベット』の若干に數の値を持たしめあるを以て之を排列して使用す

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
アレフ	ベト	ギメル	ダレト	ヘ	ヴァウ	ザイン	クヘト	テート	ヨッド		
א	ב	ג	ד	ה	ו	ז	ח	ט	י	יא	יב

即ち猶太人の内には今尙ほ柱時計に右の猶太數字にて時を現はし以て居常祖先の用字を忘れざらんと勉むる跡見ゆるものあり、此の如き時計を有するものあらは他の徵候と對照し猶太人なることを判定する一資料となし得べし、暦(コヨミ)にも亦右の如き數字を使用す。

猶太人の風習中、識別の資料となるへき事項は衣食住、宗教の部に於て既に之を略述せり、之より其以外日常の風習等に就き述ふる所あらんとす。

猶太人は回教徒以上に潔癖なり毎朝起床するや手を洗はさる間は寢臺より六尺以上を離れ又は顏に手を觸れさるを方則とす（嚴守せさるものもあるは勿論なり）之れ汚れたる手を提けて神の前に出るを不可とするなり。

手を洗ふに方りては三度水を手に注き其の乾く間に「宇宙の王は十戒を以て我等を聖め我等に手を洗ふことを命し賜ふ」と稱ふ、其後朝の祈禱をなす前には必す用便を爲し而して神に向ひ保健上必要な

る機關を備へしめ給ふたるを謝す。
用辨の後及常に覆はれたる肉體に觸れたる後は必す手を洗ふ（一般西洋人には然らさるもの多し）
以上は宗敎上に關係を有するは勿論なれとも衞生上極めて可なりと認む。
沐浴も亦一般西洋人に比し稍頻繁なり、朝の祈禱は敎會の近きものは敎會に至り、然らさるものは自宅に於てす、二十分乃至三十分間一種特別の音調にて經文を稱ふること我邦の神佛信者に同し。
入寢前亦祈禱を行ふ其經文中に聯か異様に感するものあり、曰く我は汝の手に我か魂を委す云々と述へたる後、三度「『イスラエル』の守護神よ居睡り給ふな寢入り給ふな！」と繰り返すなり（此處にも亦人類の守護神と言はすして『イスラエル』の守護神と云ふ所に注意を要す）
尙特別なる風習は正月元日が概ね九月に來る事なり、猶太暦は大陽暦及陰暦と異なる一種の暦なり、猶太暦の正月元日は大正九年には陽暦の九月十三日なりしが大正十年には陽暦の十月二日なりき此日宗敎上に儀禮嚴かにして而も一同寺院に集まるを以て廻禮の必要もなく從て日本帝國の如く泥醉者の通行を認めさりし。
　因に記す：一般に猶太人には別に倶樂部あれとも寺院も亦之に利用せらるゝ場合少からす。
猶太暦の八月一日より九日間猶太人は肉を食はす是れ『エルサレム』喪失の悲みを意識せんか爲なり、然れとも此間は日常の業務に從ふを得れとも八月十九日には『エルサレム』の本山破壞の紀念日なるを以て皮製の靴類を穿つを得す、又此日には御目出度うと云ふを得す。
猶太人の男子か生れて八日目に包莖切開を爲すことは鑑別法の部に於て之を述へたるか之には宗敎上

民族上の問題をも伴ふを以て更に之を再說せん。

包莖切開の主旨は哈爾賓に於て聞く所にては小兒ノ蟲氣を發生せしめさる爲に案出したる神の律法なりと說明するものあるも『コーヘン』の著書には花柳病統計が猶太人の此の病に罹る率少なきを示すは確に全員包莖者なき爲なりと說明しあり、然れとも猶太人の埃及脫出前の記錄を檢するに『ヤゴブ』は『ハモル』親子か其息子の爲に『ヤコブ』の娘を所望したる際明白に拒絕して曰く「我等には割禮（シルコムシジョン）の習慣あり此の禮無き國の男子には妻を與ふること能はす』と。

此の割禮にも約五頁に亘る嚴しき祈禱あり其內に『之にて始めて祖先「アブラハム」の仲間に入り得たり』との文句あり、之を『ヤコブ』の拒絕文句と對照するときは恰も此禮を行はさる男子は畜類の雄と何等異らすとの皮肉を含むか如く響くなり。

西歐文化の中心に永住する猶太人は逐次西洋人風の結婚を行ふもの多きか如し、然るに東歐其他邊僻の地にある猶太人は今尙ほ日本の如く媒介者による結婚をなすもの多し。

尙日本に似たる點は結婚せる女子は子供を生むを樂みとし所謂石女なるものは神に祈願して子を設くるに腐心す、就中男兒を設くるを希ふ、又十年兒なけれは去ると云ふ勿論此點も西歐文化の發達し生活難の甚しき處にては逐次壞れ行きつゝあるか如し。

猶太人の生活狀態中特種なる點を觀察せんとせは是非共猶太人部落即ち Community（コムムニティー）を視察せさるへからす、西洋の大都市には特に之に鐵柵を設けて他と隔離し之を Ghetto（ゲット）と名付く。

『ゲット』の中にては猶太新聞を發行し全然同族の如く暮らすものあり外部の迫害愈々甚たしけれは同

民族の結合益々强くなるへきは當然にして佛國大革命に於ける Commune de Paris の働きの注目に値せし事 Communism か此方面より發達する事は敢て怪むに足らす。

紐育邊の『ゲット』には多く貧民の居住するありと雖も其大部は永住者に非すして新たなる來住者か一時之に入りて糊口を凌き其間に他に職業を求めて他の方面に發展し其の空となりし『ゲット』内の家には更に新移民の居住するを常とすと云ふ故に單に『ゲット』を猶太の貧民窟と見るは中らさるへし、又紐育の『ゲット』の中には警察權及はす犯人一度之に潜伏せは其の捕縛は殆んと不可能なりと云ふ。

男女關係に就ては信仰堅固なる猶太人は極めて潔白にして東洋の男女七歲にして席を同うせす流の點あり、例へは娘か舞踏をなすに男と直接手を握らす『ハンケチ』の端を持ち合ひて支點とするの風習あり、然れとも實際に於ては男女關係は逐次亂れ行く感あり、北京の有力なる一猶太人友人の妻を盗み交際場裡より排斥せられたる實例あり、又哈爾賓に於ても猶太婦人の亂行を耳にすることあり。

然れとも猶太敎會には必す二階あり(棧敷)婦人は棧敷に男子は下階にあり是れ祈禱の際雜念を生せす專念神に仕ふる爲なりと云ふ、此事は現に實行しつゝあり、二階なき禮拜所の如きは幕にて仕切り男を前に女を後にせり。

以上述へたる所により觀察するに言語か多少の轉訛を生したるにせよ世界各地に散亂後一千七百八十六年を經て兎に角其原形を保存し來りたるは其中心點として宗敎上の大經典を有し之に向て終始求心力的に働きありしに原因することと明なり又其風習の特異の點も悉く宗敎上に關係を有することを見ば益々猶太人と宗敎との不可分なることを悟り得へし。

北満洲特務機関編

猶太研究　全

金五八〇〇円

1976.6
購入

第四節　猶太人の性質

世界の四隅に散在する猶太人千三百五十萬人の性質を一局部の觀察により斷定する事は素より困難なりと雖も之を敢てする所以のものは世間殊に日本に於て猶太人の性質を誤解し或は悉く『ヴェニス』の商人の『シャイロック』の如き高利貸、射利家、非愛國家にして取るに足らさるかの如く考へ或は又全然陰險なる大陰謀家にして恐れて怖るへき人種なりと信するものありて何れも群盲古器を評する感あるか故に茲に小範圍なからも日常猶太人に接して觀察せし彼等の通有性を書物に記錄せる一般的研究と對照して公平に解剖し一は國策樹立に献し一は之より盛ならんとする猶太人相手の通商貿易に資せんとするに外ならす、而して彼等に共通一貫の文化ある爲之か研究は比較的容易なるを覺ゆと雖とも猶太人個性の異るに應し其性質を異にすること尙ほ面の同しからさるか如くなるは素より其所なり今先つ彼等の美點七項を擧け次に欠點六項を數へんとす。

一、宗教心に厚く祖先を崇拜し從て結束の堅き事は既に宗教の條に於て述へたる所なり、又父母に孝なる點も既に說きたるを以て彼等の家族主義なることは略推知するに難からす、然れとも之を補足する爲尙一言を附加すへし。

哈爾賓の猶太婦人にして常に其兒を愛し如何なる不幸も兒の爲に忍ふ可く家庭教育にも亦必らす自ら當るへきを決心し寄宿舍教育の不良を力說する所恰も日本の婦人と異らさるものあり。彼の共產黨一味の唱導する小供國有の如きは猶太人の最も反對すへき點なるに注意するの必要

あり、此の件は『コーヘン』か其著書に於て猶太婦人の大部は交際の爲奔走せすして家庭の主婦と子守役とに滿足しある美點を擧けたる所に一致す、實に猶太人は血統を重んし幾多の祈禱文中にも祖先の名を列擧し父祖の名を辱めさらんとする點に於て恰も我邦の「我こそは人皇何代何某より何代の裔」と名乘れる心持を保持しありと謂ふ可し、從つて共同の祖先を崇拜する民族主義なるへき事も明瞭に了解し得へし。

二、頭腦緻密なること。

之か爲彼等は算數天文に長す遠くは埃及文明旺盛時代に於て奴隷となりて彼地に赴くもの多かりしが、却て埃及文明に貢献し埃及の政治實權を掌握せんとせし史績あり近くは『コロムブス』の如き潔士を出し近世の哲學方面に於ても『メンデルスゾン』『ベルグソン』等を出し世界の文化に貢献せること少からす、猶太人か露國に勢力を張るに至りしも實は露人の『ニチエオー』式放漫主義の空氣中に於て緻密なる頭腦を運らしたる賜と謂ふを得へし。

三、勤勉なること。

神の選民たる使命を果すの自覺と、外部の壓迫と之に對する千七百八十六年間の臥薪嘗膽とは彼等を驅つて自然に勤勉家たらしめたり。

近く亞米利加より渡來せし一猶太人、露國人の仕事に不熱心にして解決遲きを憤慨して曰く、商用にて午後露國人を訪へは(午前は露國人の起床遲きを以て)大抵『サモツール』の口を開いて紅茶を勸め次て『リキョール』となり三十分、一時間を雜談に費す、終に堪へ難くして問題の解決

を迫れは既に耳熱しありて明日に讓られたしと答ふ、翌日指定の時刻に行けは復た前日と同樣の事を繰返すのみ、露國人は終に仕事(ビジネツスマン)の人に非す云々と、此の事も亦前述頭腦の緻密と相俟つて猶太人か露國を征服したる理由の一に數へさる可らす實に純露人は殿樣に適し猶太人は勘定奉行又は今日の事務官に適すと謂ふ可し。

又猶太人に泥醉者なきことも吾人の範とすへき點なりとす。

四、勇敢なること。

日露戰爭當時露軍よりの投降者中に猶太人の少からさりしを見て猶太人を臆病者、非國民と嘲るものあらは未た猶太人を了解せさるものなり、猶太人は其民族の將來に關し何等の關係なき兩帝國の戰爭は何れか勝つも差支なしとせるなり、否寧ろ壓迫、虐殺を同族に加へたる軍國主義の大帝國露西亞の崩壞は却て彼等に都合善しと考へたるならん、然らさるも生命を全うし、子孫を增加して他日自己民族の繁榮を計るに如かすとなし投降せりと考ふる方至當ならん。見よ今回の大戰爭に於ては英佛側の猶太人は進んて軍務に勉勵せしも獨乙側のものは『カイゼル』か波蘭と猶太人との解放を約したるに拘らす餘りに大なる努力をなさす獨乙人をして敗戰の原因は實に猶太人に在りとの憤慨を漏さしめたるに非すや今佛國軍方面に働きし模範的猶太勇士の實例二、三を引證せんとす。

(A) 猶太神學校長の義兄『シャルル・レーマン』は六十一歲の高齡を以て志願從軍し戰傷の結果陣歿せり。

(B)　青年詩人故『アンリー・フランク』の父『ルネ・フランク』は五十六歳の高齢を以て出征し徒步獵兵大隊を率ひ一年半に亘りて『ヴェルダン』及『アルザス』方面に奮戰せり。

(C)　『ラウル・ブロック』は其の二人の兄弟か普佛戰爭の際十七歳、十六歳にて志願從軍し一は戰死し一は負傷せるものなるか氏も今回四十八歳の高齢を顧みす志願により兵站勤務を免せられて戰線に立ち中尉の階級に甘んじ軍隊を指揮して『ヴェルダン』の激戰中死人山（モールトンム）に名譽の戰死を遂けたり。

(D)　巴里にありし中立國の猶太人三萬五千乃至四萬人中一萬人は佛軍に編入を出願し内七、八千人は許可せられて逐次佛軍に入りたり。

(E)　開戰後約一年半（千九百十六年二月十八日調）の間に佛國猶太人及外國猶太人の佛軍義勇兵中

感狀を受けたるもの　六八三

『レジョン・ドンノール』勳章受領者　一三九

武功紀章（メダイユ・ミリテール）を受けたるもの　一二〇

戰　死　者　一二七六

(F)　飛行家特務曹長『ブロック』の奮鬪

猶太人にして飛行家となり勇敢なる働きをなせるもの尠からさるか軍曹『マルセル・ブロック』は敵の繋留氣球燒落しに妙を得、戰友をも驚かせり、是れ一通りの大膽は飛行家に通

有の事なれとも彼の動作は人間業にあらさりしを以てなり。
彼は高度千五百米を有する獨乙繫留氣球の攻擊を命せられて其上空に達するや早や敵は燒夷を恐れ地上に向ひ引卸し始めたり、大膽なる彼は之を追擊し約五百米の高度に達したるとき氣球に追及して之を攻擊せり勿論其前より氣球防禦の飛行機射擊砲、機關銃は一齊に彼に向けられたれは雨霰の如き彈丸を犯して急角度の降下をなせるなり、將に『ピストル』を以て燒夷彈を發射せんとせし刹那一彈は彼の拇指を持ち去れり、之か爲狙ひ外れて目的を達せす、彼は之に屈せす更に降下飛行を連續し、其間飛行機は蜂の巣の如く機關銃彈に貫かるるをも顧みす地上百五十米の邊にて燒夷彈を氣球に向け發射せり、時に一彈彼の腿を貫通せしも尙ほ發射を連續せしに氣球より火の柱立ち始めたり、此に於て始めて一散に飛行場に向ひ、着陸するや戰友に向ひ『任務は達成した、氣球の燃えるを見屆けた』と述へ其儘氣絕せり。

以上の如き勇氣は何れより來れるか此處に喋々する迄もなく佛軍の爲に戰ふは猶太民族の爲に戰ふに等しとの自覺を持ちたれはなり。

『サロニカ』方面軍に從軍せる猶太從軍僧『ベルマン』の演說の末段に左の一句あるは看過す可らさる事に屬す。

普魯西人の創めたる鐵拳主義の凋落は諸國民の血を涸渇せしむる軍國主義を衰へしめ此に於て始めて人道か我等の豫言者の理想通りに實現するを得るなり。

人あり尚も猶太人の勇敢を疑つて言はん過激派内の猶太人『コミッサール』連は常に後方にあつて第一線に立たさるに非すやと是一應起るへき疑問なれとも彼等は現今の革命的內亂を對獨戰爭の如く重視せさることに注意するを要す、他日我帝國か第二の獨乙なる濡れ衣を被せられて正々堂々陣頭に立つの日あらは吾人は米、英、佛至る所より猶太の志願兵敵軍に加はり飛行家『グロック』の如き働きを爲すものと覺悟し置かさる可らす。

以上は戰場に於ける勇敢のみを述へたるか今回の過激派騷動に於て彼等は政治家としても平然敵地に乘り込むの慨に於て猶太人を交へさる反過激派露人を淩くこと著しきを認む彼の『クラスノシチョーコフ』事『トベリソン』か幾度か喀血をなすも醫師の力諫を排して政務に熱中し一再ならす知多より西方への大旅行をなせし如きは啻に職務に忠實なるのみならす其勇氣の點に於ても賞讃の價値あるものと認めさる可らす。

五、同情心に富み慈善事業を好む。

猶太人は自己か多年强者の壓迫を[illegible]け具さに艱苦を嘗め盡したる爲、他人の困苦を座視せす、相互扶助の精神旺盛なり但し勿論自己民族の間に厚く他民族に薄きは止むを得さる事なりとす哈爾賓に於ても養育院の如き設備は比較的良く完備し猶太人一萬一千と稱する內に馬車の馭者をなすもの一人もなく乞食僅に二人なり而も此の二人は精神に異狀ありて養育院に落ち付かさる變り者なりと云ふ。

大正十年九月の始め山東の窮民群、黑龍江省より歸鄉の途次、輸送の關係上數日間哈爾賓埠頭

區の空地に獸類の如く露營せるを見たる一猶太人、眉を顰めて曰く、支那の大官、富豪等は自己のみ自働車にて驅け廻り、此の饑民を此の如き狀態に置きて耻かしとも思はざるやと、是れ極めて善く猶太人の心事を言ひ現はしたるものなり。

米國の『ゲット』を視察したる日本の學者中に猶太人にも貧民あり、相互扶助なと左程に行はれすと發表せしものあるも是れ實狀に遠き觀察なり。

近來『ロックフェラー』か北京に二千萬弗を投して醫學校、病院、研究所等を設けたるは敢て猶太民族の爲にあらす、支那人の爲にして寧ろ或る政略上の意味あるとの忖度を逞ふするを得さるには非るも之は餘り穿ち過きたる觀察ならん。

猶太富豪か巨億の富を擁して而も大なる危險を感せさるは一は相當に財を散する宏量あるによるならんか。

尙猶太人には下を憐みて之に同情し衆と艱苦を頒つの良風あり、猶太の古史に曰く、『ダビット』王は其武將『ウリヤ』に戰鬪の狀況を尋ねたるに『ウリヤ』は、總て陛下の望まれたる通りに經過しつゝあり、と答へたり、王大に喜ひ『ウリヤ』の戰功を勞はり、手つから晚餐の肉數片を取つて彼に與へ且つ『今夜は待兼たるへき妻と休め』と命せり。

然るに翌朝に至り王は『ウリア』か王の側に夜を明かしたるを知り、何故家に臨らさりしか出征以來長日月を經たるに非すやと下問せしに『之は陛下の御言葉とも覺え候はす、部下の武士上は將軍より下一卒に至る迄皆冷たき土の上、破れたる天幕の下に夜を過ごすに何とて臣獨り家

に歸り妻と語らふを得へきや』と誠實面に現はれたり云々。
是れ彼等の階級制度、服從心の旺盛なる差別觀中に包擁せる平等主義にして、帝國の士道と異ることなし猶太人か過激派に接して而も彼等自ら過激派とならさるの理由實に此に在り。

六、猶太人は世界的なること。
猶太人にして生計に差支へなきものは必す新聞を購讀し日々世界の大なる出來事に注意するの傾向あり是れ素より彼等の同族か世界に分布せられある關係もあらんか宗教の部に於て論したる如く宇宙を對照とすることも亦其一因なるへし。
（世界一等國の末班に伴食する日本帝國民も、些々たる內爭を控へ少く眼を世界の大勢に注かされは終に島帝國內に蟄伏せしめらるるの日あらん）
又猶太人は土地に固着せす、所謂世界を家とするの人種なり、此の移動性は一は『セミツト』其のものか亞剌比亞の漂泊民たりし關係上何處迄も國民性として殘る爲と見ゆるも其他に尙『ヱルサレム』の外は何れも寄寓と心得居るによるならんか。
日本國民の海外に殖民するものも亦其地に落付かさるもの少からすと雖も之は猶太人の土地に固着せさるとは全然理由を異にす、日本人の落付かさるは一定の國土而も氣候風土の順る佳良なる樂土あるか爲にして、猶太人には國土なく何れに行くも同樣なる爲なれはなり。

七、長老を尊ひ服從心に富むこと。
猶太人か父祖を敬ふことは縷々述へたる所なり此の精神は又長老を尊ひ其教と命令とに從ふこ

とに現はれ來れり猶太人には『カガール』(長老)なる組織あり、大にしては世界各地の猶太人を統一する力となり、小にしては一村一郷の猶太人を指導する權威をなす猶太敎會に至るときは外面的にも此美風現はれあり此の點は猶太人の强みの一なりとす。

以上猶太人の美點を擧け吾人の範とすへき點を述へたり今より更に彼等の欠點を數へんとす。

八、僞善なること。

基督敎徒の新約全書を繙くときは基督か屢々僞善者よと喝破し猶太人か神の律法の蔭に隱れ其の形式は善く勤むるも其精神に於て全く之に反するを責めたるを見るへし今日の猶太人に於ても亦此の如きの嫌あり例へは『クラスノシチヨーコフ』『グロツスマン』『シヤートフ』等の知多政府首腦か自由平等を稱へ、貧民の友として共に苦むへき身分を顧みす、滿洲里知多間に於て窃に利己的商業を營み金儲けをなし何食はぬ體をなしある事等は其一例なり其他日々猶太人と接するに、愛想善く笑を浮へ所謂巧言令色鮮し仁矣を發揮すること尠からす。

九、虛僞多きこと。

凡そ宗敎道德等の戒を下すは必す多く犯さるへき過ちを矯さんか爲なり例へは汝殺す勿れとの戒は人を殺す習慣多きを以てなり故に猶太の戒に『汝其の隣に對して虛妄の證據を立つる勿れ』とあるは僞を言ふもの多きか爲なりと解すへし、猶太人を妻とする一露人曰く「猶太人か虛僞を述ふるは往古の裁判にて、自己に利害關係の及ふとき虛僞の申立てをなすは正當防衛に屬し罪惡を構成せすとすとの見解なりしより困襲俗をなしたるなりと是れ餘りに穿ち過きたる解釋

と思はるるるも猶太の古史には左の記錄あり。

『イズラエル』の王『サミユエル』の次に王となりたる『サウル』の娘『ミカル』は父が己の夫『ダビッド』を殺さんとせしを諜知し、奸計を以て夜に乘して『ダビット』を逃れしめ、翌早朝其事露顯するや、父『サウル』王は自分を欺きし娘の行爲を深く怒れり、其時『ミカル』僞り答へて曰く『自分は好んで『ダビット』を逃したるに非す若し夫を逃かさされは彼は自分を殺すと言ひたるを以て之を恐れて逃かしたるなり』と『サウル』は娘の言を信し其罪を許せり。

若し日本の烈女なれは自分は王を瞞まし夫を遁れしめたる事を自白し、其序を以て父か不當なる迫害を『ダビッド』に加ふるを諫め、父を欺きたる罪には服すへければ早々首を頸ね給へとて父と夫とに對する誠意を披瀝したるならん、此邊大に猶太精神を發揮し夫には實を盡したるも父は遂に欺き終れり。

然れとも公平に考ふれは民族發生の當初より波斯埃及の諸所に漂浪し危難に遇ふ事多かりしを以て之を免れんとして自然に虛言を吐くの習慣となり其後更に『エルサレム』を失ひ世界各地に散亂して他民族の迫害を受くるや益々虛言の必要を生し又上達するに至りたりと見るを至當と考ふ。

彼の『ゲット』內に遁入せし犯人は到底之を逮捕する能はすとの事實は猶太人の相互に相扶くる精神と、警察を瞞着する虛言に巧なるに外ならす。

反猶太の一露人に向ひ試みに『何故露人は猶太部落より敵に內應するものありたるの一事にて

該部落全部の虐殺又は追放を行ふや、國家全體の利益に反する行爲をなしたる猶太人丈けは如何なる嚴罰に處するも差支なけれとも、之と全然沒交渉なる婦人小兒迄にも不幸を及ほすは不正義ならすや』と質問せしに之に對する露人の即答次の如し。

猶太人には『カガール』組織ありて自己の部落より決て罪人を出ささる如く證據の煙滅、相互扶助的虛言に巧なるを以て到底個々のものを檢擧する能はす勢ひ彼等に連帶責任を負はしむるの外なし云々』と依て更に『失禮なから露國警察官や憲兵か猶太人は左樣のものとして働かさることか檢擧不能の一因ならすや』と反問せるに答へて曰く『夫れ或は然らん、乞ふ貴國にて猶太人の裏を掻く丈の慧敏熱心なる憲兵、警察官を養成し、日本內地の赤化を企劃し奔走しつつある猶太人の行動を指摘せしめられよ、猶太人は必す何等か一定の職業を有しある爲探查頗る困難ならん』と。

其他日常の犯罪事項にも猶太人には詐僞取財多し其一因として後文述ふる所の彼等金錢欲の盛なることを指摘し得へしと雖とも他の一因は即ち彼等か虛言に巧にして詐欺取財に成効するの素質を有するに在り。

『イズラエル・コーヘン』も其の著書中に左の如く自白せり。

露國、墺匈國及獨乙國に於て統計を取りて研究せし所によれは猶太人の犯罪は身體に關する罪よりも財產に關する罪多く、又其形式は暴行脅迫的に非すして詐僞的なること多し。

最近哈爾賓に於ても寺山商店より白金の賣買と稱して五萬圓を騙取し逃走したる惡漢は猶太人

なりき此の如き缺點は政治上にも現はれ來るや自然なり、尤も對外關係に於ては何れの國家も區々の小策を弄して對手國を瞞着せんとするは有り勝ちなるか、猶太人は日常法網を潜る練習を積みたる丈け、詐僞的外交も亦巧なるを感す。

例へは大正九年七月十七日高柳少將と『シャートフ』と取極めたる後貝加爾戰線休戰及中立地帶設定に關する『ゴンゴダ』覺書を破棄するに方り正規の軍隊を『パルチザン』に改編し、以て抗議を免れんとせり、此の如く見え透きたる三百代言的小策を弄する事あるを以て猶太人又は其指導する團隊に對しては充分細心の研究をなし念に念を入るるの必要あることは哈爾賓に在住する邦人事業家の等しく經驗する所なり。

又虛言に巧なる丈『プロパカンダ』も亦巧なり此の事は大古より然るか如し、今舊約時代の『ネヘミヤ』の傳記中に左の如き一節あり。

『エルサレム』より『バビロン』に捕虜となりたる猶太人の中に『ネヘミヤ』と呼ふ男あり『クセルクセス』大王の盃を執る役に任せられたり或る日『ペルシヤ』の首都『スサ』の町を歩めるに『ヘブリウ』語を語り合ふ二人の人に遇ひ、猶太人なることを知つて猶太の現狀を尋ねたるに旅人曰く

猶太は今非常なる境遇にあり『エルサレム』の石垣は崩され、其門は焚かれ、隣國の民は樣々なる奸策を用ひて猶太人を苦め、晝は掠奪をなし夜は人を害す、俘虜となつて連れ行かるるもの日に其數を增し往來は死人にて埋まる計りなり。

語り了つて旅人は、いとも悲けな顏を見せたれは『ネヘミヤ』は思はす落涙數行直に眼を上け天に祈つて曰く

『おゝ神よ神は何時迄我忠良なる民を看過せらるるや我々は今や全人類の餌食たらんとす』

哈爾賓發行の猶太新聞の宣傳に巧なるは排猶太新聞と大なる徑庭なしとするも猶太の後援ある米國邊の新聞は勿論北京邊の猶太系新聞も亦時々『往來か死人にて埋まる』流の宣傳をなしつつあるは注意の價ありとす。

又虛言に巧なること、思慮周密、勤勉なることは間牒として最も適任にして戰爭間に於て必要なるのみならす平時諜報の爲にも亦便利なり。

然れとも最も注意すへきは彼等の報告か命を受けたるものに到達すると共に、猶太の最高級者の許にも到達することにして、從つて敵國內にある猶太人にも知れ渡ること是なり、大戰間彼我兩方面猶太人に關する情報か詳細に『猶太世界(ユエベル・イズラエリツト)』なる雜誌に現はれ得る以上は他の事柄に關しても亦情報は達し得ること明なり。

一〇、陰險なること。

之も亦猶太人個々を咎むるは寧ろ酷にして境遇の上より自然に涵養せられたる缺點と見るを穩當とするならん。

前記『ネヘミヤ』傳に見える如く耶蘇降誕以前より此の如き世間の虐待を受け、而も其後地球面に散亂せしめられ、世の迫害を受けたるを以て陰鬱の性質となるは當然の事なり、試みに日本

の繼子を見よ僅々數年の間に其性質著しく變化するに非すや況んや三千年の昔より不斷の迫害に苦惱せし猶太民族か今尙其民族精神を失はさるは寧ろ不可思議にして其心の少く捻れたる如きは寧ろ同情の値ありと云はさる可らす。

『イズラエル・コーヘン』の著書にも猶太人に『ヒステリー』其他神經系統の病症多く其比例は諸大家の說を參照するに猶太人以外のものの四、五倍に當ると說明しあり。

猶太人は何事か劃策するに際し自ら責任の位置に立つよりも、人をして責任の衝に立たしめ已れは蔭より之を指導するを好むの風あり、是れ弱者の當然執るへき方法にして怪むに足らさるも事實は事實なり、或るものを除き去らんとするとき已れ自ら之に當らす第三者を利用して之と爭はしめ逐次に之を片附けて漁夫の利を占めんとするを常とす。

我邦にても元龜、天正時代以後此の方式にて成効せし奸雄少からさりしか如し最近『ブラゴエシチエンスク』附近不逞鮮人に獨立派と共產派とを生し前者は民族主義、後者は萬國主義を標傍して遂に銃火を交ゆるに至りたるを聞くや一猶太人膝を打ちて曰く、面白し、日本の爲に謀るに宜く此の爭を利用して共倒れをなさしむるを上策とするを以て、或る方法にて双方を激勵しては如何と、此一言は誠に善く彼等の政略を言ひ顯はせるものと云ふべし。

知多外務大臣『ユーリン』嘗て四王天大佐と會談中述へて曰く『貴國は米國等と協同して出兵せし始めより今日に至る迄見へさる第三者の巧なる指導により動かされつつある事を知らすや』と、依て第三者とは日本の元老か、軍閥か、否、米國其のものか、否然らは猶太人かと云ふに

至つて微笑し判定に委すの意を洩らせり。

今後帝國か國策を定むるに方りても日支日米の關係等に於て第三者の思ふ儘に指導せられす、眞の自主的動作に出るの必要を感する事深きを覺ゆ（列國の新聞論調は危きものなり）。

二、熱烈なること。

猶太人は現今に於ては前述の如く弱者の立場より陰謀的日蔭仕事に沒頭するも、其本質よりすれは實際は中々熱烈なる精神を有し元來血を好むの民族なり。

前に述へたる結婚式の目出度儀式の席にて『コップ』を踏み壞すの習慣既に熱情的なり。日常の議論に於ても中々熱狂するものなるか本年春當地猶太協會内の溫健派と過激分子と論爭中『コップ』を投けたるものあり、又溫健派の熱辨を振ひたるものは精神余りに緊張せる爲か其夜腦溢血にて死せるものあり、其後の集會に於ても溫健派の主宰者か椅子を反對派に投し席を蹴て立ち去れることあり。

尙ほ古來彼等か熱狂的人種なりしことを史實に照し左に述へん。

『ヤコブ』か割禮を行はさる國の男子には娘を與るを得すと斷りたることゝ、前既に述へたる所なり、此に於て『ヤコブ』の娘を欲する爲『シケム』（娘を所望したる息子）は割禮を受け目出度『ヤコブ』の娘『デナ』を正式に貰ひ受けたり。

然るに其幸福なる夢は僅か三日にて破れたり是れ四日目の夜『ヤコブ』の息子『シメオン』と『レビ』とは、利刄を提け『シケム』の町を襲ひ、男子を悉く虐殺し遂に『シケム』の家に迫つて親子を

刺し妹『デナ』を取戻したり、然れとも妹を汚されたる恨は尙之れにては報ひ足らすと考へたる『シメオン』及『レビ』は、町と云ふ町、野と云ふ野を掠め婦人小兒を皆捕虜とせり、流石の『ヤコブ』も我兒等の暴擧の爲に永久に『カナン』の人（猶太人）と『ペリジ』人との間に和す可らさる恨を殘すに至りたるを悲みたり。

降て『ヨシユア』王の時代となり『モウセ』の喪も濟み『カナン』攻略戰爭中の事なり『ヨルダン』河を渡りたる軍隊は暫く對岸に野營して疲れを休め士氣を新にして『イエリコ』の町に攻め入りたり、豫め二人の間諜を入れ充分なる偵察も濟みたる事なれは、難なく攻擊は功を奏し、城壁は破られ城門は碎かれ『イエリコ』の町の住民は一人も殘さす猶太軍の刄にかかれり、町は之等の死骸にて埋まり、路の上には恐ろしき血潮流れ、次て全市街は凄き焔に包まれて氣息奄々たる負傷者の叫喚の聲は黑煙の中に呑まれたり。

此時唯二人の間諜を助けたる婦人の一家のみ窓に赤紐を垂れ約束の目印としたるか爲めに虐殺を免れたり。

降て『バビロン』王『アルタ・クゼルクセス』（印度より『エチオピヤ』に亘る百七十二州を統へたり）の頃に至りては既に猶太人排斥運動と之に對する虐殺の始まりたる時代なるか王は猶太貴族『ベンジヤミン』族の出なる『エステル』と呼ふ猶太美人を娶りし結果猶太人に同情を表し猶太人解放令を出し其文字と言語を許したるのみならす相集まりて自衛團を組織し且つ其年の十二月十三日に限り猶太人を襲ひし諸州の兵士を其妻子と共に滅絕し且つ其の所有物を奪ふを得へ

き詔を發せり。
當日に至り何人も朝廷内の空氣を察し敢て猶太を攻擊するものなかりしか久しく受けたる壓迫の反動として猶太人自ら攻勢を取り首府『シユシアン』の町丈にて五百人を殺戮せり。王は『エステル』妃に之にて氣か晴れたりやと尋ねたるに、妃は王にして妾を愛し深き情を垂れ給ふなれば、明十四日の爲今日と同樣の詔を下し給へと答へたり、詔は下れり、此に於て『シユシアン』の城内にて更に三百人を殺戮したるのみならす、城外諸州の猶太人も相集まり自衞の爲と稱して反猶太思想者の多數を殺戮せり、其數七萬五千の多きに上れりと云ふ(『バロン・ウングルン』か今年三月庫倫にて虐殺したりと稱する猶太人千二百人の六十五倍に相當す)
以上述へたる如く猶太人と他民族との間に溝渠を生したるは『ヤコブ』時代の昔より猶太人か民族的自尊心に基く排他思想と、其熱狂的なる虐殺手段に出てたることをも考へさるへからす、一概に現在の猶太民族にのみ同情するときは、偏頗の觀察に陷る可し。
尙ほ猶太人か無抵抗主義の基督を十字架上に磔殺したることも亦猶太人か『神殺し』として基督教徒より嫌惡せらるる所以なり(此の件に關しては後章更に論する所あるへし)
二、拜金にして射利に巧なり。
『シエクスピーア』の傑作『ヴエニス』の商人(人肉出入裁判)の主人公猶太人『シヤイロツク』か高利貸として不當の富を貪りたること、竝に寬仁なる商賈『アントニオ』を合法的に殺害せんとせし劇は、代表的に猶太人の射利的魂性と血を好むの性質とを描出せり、素より何れ迄か事實

にして何れ迄か作者の脚色なるやを明かにせすと雖も猶太人の家に住み其事業家乃至料理店の婢僕に至る迄の性質を觀察するに宗教的生命を別問題とせは、金錢は彼等の凡てなるかの感を懷かしむること少からす。

相當身分ある猶太婦人にして其下宿人の身分あるものに向ひ購買品の價格は勿論宴會の費用、其献立等に至る迄一々之を研究して價格の高下を論する等不快の感を催うさしむる事尠からす猶太嫌のものは嘲て曰く、猶太人は子を育てて相當の年齡に達すれは兩手に金貨を握らしめて之を樹の高き枝にぶら下らしむ、若し金貨を放たは己れの生命を失ふ可き事を實物に依り教育し、以て無益の散財を豫防すと、素より譬喩的嘲笑にして二、三此の如き方法を取りたる猶太人はありしならんも、凡ての猶太人か此の如き方法を取るものとは信するを得す、然れとも事實金錢を愛することは前既に述へれる如く東歐諸國に於ける猶太人の犯罪統計か身體に關する罪よりは財產に關する罪多き一事を以て既に雄辨に說明せられたりと謂ふへし。

此に於て何故に猶太人か此くも強く金錢を愛し之か爲には多少の汚名をも甘受するやを觀察研究せさる可らす。

第一は單に何となく金錢を愛すとの說なり、一般の猶太人は或は然らん、基督か蠧喰ひ鏽蝕り盜人來りて盜む所に財を蓄ふる勿れと戒めたるは、當時の猶太人か既に餘りに蓄財に熱中せし半面を語るものなり。

當時基督の言を信せす之を磔殺せし猶太人の子孫は『アタビスム』（腦より腦に傳はる遺傳）の

作用により蓄財の觀念強きは自然なり、故に此の說も一說として理由あることと考ふ。

第二は猶太民族離散後に於て、必要より生したる蓄財なりとの說なり。由來彼等は到る處迫害を受け土地の所有權なく、暫く一地に固着するや其內に虐殺追立ての始まることあるべきを以て、自然農業の如き土地に固着する業務を避け、形勢不穩となれは直ちに携帶して逃走するに便利なる金錢又は貴重品を欲するは自然にして猶太人に商人、銀行家、貴重品商の多きは之か爲なりとの說も亦一理ありと謂ふへし。

露國に於ける猶太人の約三八、六五%は商人にして他民族の商人は其の全人口の約三、七七%に過きす故に猶太人は他の露人に比し商人を出すの比十倍以上大なり。

若し露國人口を其の猶太人の三十倍と概算すれは猶太商人は露國の商人の三割五分以上を占むるを觀るへし。

第三は宗敎上政治上よりする觀察にして猶太人は離散以來武力、鐵拳の自衛力を有せさるを以て之に代はるへき或るものを求めさるへからす或るものとは古來彼等の最も得意とせし金錢なり、之たにあらは以て世界の統一を期するを得へし、『エサイ』書の豫言にも諸國民の金庫は爾の許に集められんとあり故に彼等は此の大理想を以て金を集めつつありとの說なり、此の說は神秘的宗敎分子を含むを以て判斷極めて困難なりと雖も今や『ロスチヤイルト』『モルガン』の如き世界的大富豪か猶太人にして金權を掌握し、思ふ儘に石油其他市場の相場を司配し戰爭の開始、終止も亦彼等の意見を聞かさる可らさる事實に照して考察するときは、或は彼等の目的は

『エサイ』豫言の現實を夢想するに非さるなきか、果して然らは無心なる猶太人の蓄財も亦大に意義あることとなるべし。

尙ほ宗敎方面より彼等か蓄財に熱心なることに關し猶太人を妻とせる一露人の談に曰く、『タルムード』の中に金錢貸借に關する細則ありて『猶太人間に於ける金利は年一割(?)を超ゆることを得されとも『ゴイ』(豚にて他民族を指す)よりは幾何にても高利を取り得』との意味を敎へあり云々と。

果して此く明瞭に記載しあるや否や明からさるも、後章佛國に於ける猶太勢力の部に於て詳述する如く千八百〇七年大邦翁か猶太人の宗敎裁判を巴里に召集したる時の決議第八第九條に於て金利を制限し、猶太人を他の市民と同等に取扱ふ以上は猶太人も亦同民族に對する以上の利を他民族に課せさること、高利貸を廢業すへきを約束せること並に『聖典に定めたる律云々』と明記せること等に依り推考すれは此露人の説も或は架空に非さるへく從て前々節宗敎の部に於て疑を存して述へたる『ユーダ』よ『ゴイ』の生命は汝の掌中にあり故に彼等の有する金は多々益々汝の有に歸すへきなり』との敎へは或は聖典に載せられあるやに考へらる、兎に角事實に於て世界の金權は逐次彼等の手に移りつつあり、今此等に關する猶太人の自白を左に抄錄して參考に資すへし。

千九百十二年(大戰開始の二年前)十二月一日巴里に於ける『猶太青年會』の催したる宣傳的集會に於て猶太人『アンドレー、スピール』の爲せる演說の一節を引用せん(スピール著「猶太人と大戰」百三十九、百四十頁)

（前略）國王の保護を受くる程の特別なる猶太人も、吾々の宗敎上弱きと貧きとを助くるの義務あり、此等特別なる猶太人の御蔭にて國王も時として貧乏猶太に特典を許すなり。此の如き吾人の保護は決て體力の優良なりしに非ずして實に富の力なりしを考へさる可らす其の例は枚擧に遑あらさるか今最も顯著なる一例を擧くれは英國其他諸國政府の御用錢屋たる銀行家『ロード・ロスチャイルト』なり彼は佛國革命の際國家に莫大の金を供給するの代償として猶太同胞の解放を要求したり。

而して平等權を同胞の爲に獲られさる場合には數百萬金を投して彼等を敎育し又極端なる貧困狀態より彼等を救へり。

然れとも此の如き一部富豪の保護救濟は猶太人の精神上に危險なる傾向を齎らせり、若し猶太人の全社會を擧けて生涯を善事、正義、知織、生業、人格の修養に向けす、一意若干の猶太人か有する金錢に着意し金を儲くる事か天下の最大業務なりと考へ、『ロスチャイルド』となることか全生涯の目的なりと考ふるに至らは、實に悲むへき結果を生すへし、從前大革命當時、第一帝政時代等には實際此の如くなりしなり。

現今佛蘭西の狀態は如何、帝政時代の如き遊蕩の貴族か政權を維持し金錢を提供して位置を買ひたる時代は去れり、又米國の如く弗の多少を以て人物を搜し又は之を評價するの時代は去れり。

巴里ッ兒の國、最も發達せる文明の國たる當地方に於ては、馬を何匹所有するとか、自働車を

所有するとか、大邸宅を所有するとか、婢僕を何人使ふとか、年々幾萬の慈善事業費を豫算に計上するとかを誇るものありとするも吾人は何等の感動を生せす否な寧ろ之を笑はさるを得す云々。

是れ如何に猶太人の金錢欲の盛なるかを自白し之に對し社會主義的警告を與へたるものに非すや。

尙猶太人の金錢關係か宗教上に迄驚くへき關係を有する最近の實例を示さん。

大正十年十月三、四日新年所禱の儀式を觀察せるに、最も古式にて行へる養老院内の禮拜所には洋服箪司に似たる祭壇を設けあり、二時間余に亙る禮拜中數度其觀音開きを開帳して、内部の聖典『トラー』の卷物を拜せしむ。

其際開帳の任に當るは金を多額に奉納せるものにて吾人の見たるときは司會者たる長老か競賣的に小額のものより叫ひつつありたり、之か爲今日こそは是非開帳の榮を擔はんとする信者は單に二、三分間開帳の世話をせんか爲に千金を投ずるものありと謂ふ。

以て如何に彼等か今尙ほ金錢に特別の趣味を有しつつあるかを見るへし、又其翌日割禮の術者より其の儀式に臨場を勸められ之を承諾せしも割禮を受くる小兒の家より吾人の富豪なるや否やを確めたる上に非れは臨席せしめ難しと抗議せしを以て、殘念乍ら富豪に非る吾人は之を斷念したり。

然れとも猶太人の金錢蓄積は前述の如く貧民の救濟、同胞の解放、敬神等に用ひんか爲にして

一身の歡樂を貪らんか爲に非す蓄財は目的に非すして崇高なる理想實現の手段なりとせは一圖に之を擯斥するを得さるへし但し射利手段の惡竦陰險なるは猶太人の特色にして彼等か全世界の他人種より憎惡せらるゝ最大の原因全く此點に在り。

哈爾賓邊の遊樂の場所に出入するときは一般顧客か泥醉して一夜數百金を浪費する一方、冷靜に計算して之を搾り上けつつある猶太人の會計又は『ボーイ』は徐ろに世界統一の日近つくを見て竊に會心の笑を洩らすを覺ゆ。

一三、排他的にして同化せす。

世界殊に米國人は同地にある日本人か堅く民族的結合を持して同化せさるを非難し排日の原因は之にありと說くものあれども不同化性か果して排日の大原因なりとせば、之に先ち米國にある三百萬人の猶太人を排斥せさる可らず、彼等は已れの寺院を有し、(本願寺より大なり)已れの言語文字を有し、已れの倶樂部、協會を有するに非すや。

猶太人不同化性の由て來る所は旣に屢々宗敎習俗の部に於て縷述したる所にして蛇足的說明の要なきも一二の事例を擧けて如何に彼等の不同化性の強きやを述へんとす。

一猶太婦人哈爾賓に居住しある一知識階級の露人と相愛の仲なりしも、露人は猶太婦人と結婚し得さるを以て、該婦人は基督敎の洗禮を受けて其目的を達したり、然るに今日に至る迄數年未た基督敎の寺院に出入せす、事苟も猶太の利害に關する事は極力之に容喙して猶太の利益を圖らんとす、又數年前小兒の生るるや夫を壓迫し之に猶太式の名を附せんとし、親族の反對に

遇ひ普通の露西亞婦人の名を附したり、此邊恰も前に述へたる『バビロン』王妃『エステル』か『バビロン』に嫁きたる後も終始猶太の利益を計りたると酷似す。『アイサック』『ドン・レービン』氏は猶太人千三百五十萬人中歸化せる國に同化せるもの百萬を算すれども實際にあつては此一百萬は同化するに非すしち、中に『エステル』の如き役目を勤め居るもの少からさる可し。

尙大戰當初露國に左の事實あり。（千九百十五年一月十五日發行「猶太世界」二四五頁）

猶太人『カッツ』は、露國に於ける前例に反し少尉に任せられ、希臘正教を奉することとなりたるも、其關係せる新聞に寄書し立場を明かにして曰く

『予は猶太人として此世に生れ、現在猶太人として生き、又猶太人として死なん』

右は最も善く彼等の不同化性を顯はせるものにして結婚も洗禮も畢竟何等かの手段なりと見るを安全とす、獨逸は自國の猶太人を六十一萬五千と算定し混血兒百十二萬を以て獨逸文化に同化したる、味方と算定して不覺を取りたる點なきや。

要するに以上述へたる猶太人の性質なるものは局部的觀察と猶太人の著述告白とに基き最も著しき美點と欠點とを公平に擧けたるものにて猶太人を相手とするには少くも以上の事を知悉して取懸らされは不覺を取る場合あるへきを信す。

第三章　世界に於ける猶太人

前章迄に於て猶太人一般の研究を了したるを以て之より猶太人か世界に有する實勢力に關し研究する所あらんとす。

第一節　世界に於ける猶太人の分布及之か經路

猶太人の總人口は千三百五十萬人と算せらる、即ち世界總人口の約百二十分一なり今之か分布を戰爭前の國別に列擧すれは左の如し。

歐露國	六、〇〇〇、〇〇〇人
墺洪國	二、二五〇、〇〇〇
獨逸	六一五、〇〇〇
ルーマニア	二五〇、〇〇〇
英國	二七〇、〇〇〇
和蘭	一〇六、〇〇〇
佛國	一〇〇、〇〇〇
伊太利	四五、〇〇〇
ブルガリヤ	五〇、〇〇〇

白耳義	一五、〇〇〇
瑞西	一九、〇〇〇
希臘	九〇、〇〇〇
セルビヤ	一六、〇〇〇

其他の歐州諸國には各々五千人以下の猶太人あり。

歐州計	約一〇、〇〇〇、〇〇〇
パレスタイン	一〇〇、〇〇〇
西伯利（東支鐵道沿線を含む）	一二〇、〇〇〇
シリヤ、メソポタミヤ	一〇〇、〇〇〇
ペルシヤ	四〇、〇〇〇
アラビヤ	三〇、〇〇〇
アフガニスタン	一九、〇〇〇
印度	二〇、九〇〇
日本、支那	二、〇〇〇
亞細亞計	五二五、〇〇〇
北米合衆國	三、〇〇〇、〇〇〇
カナダ	七六、〇〇〇

アルゼンチン		一〇〇、〇〇〇人
墨西哥		九、〇〇〇
玖馬		四、〇〇〇
ブラジル		三、〇〇〇

其他の南米諸國には各々千人以下の猶太人あり。

南、北亞米利加計	約	三、二〇〇、〇〇〇
濠州		一七、〇〇〇
ニユージーランド		二、〇〇〇
大洋州計	約	一九、〇〇〇
モロッコ		一一〇、〇〇〇
アルゼリア		七〇、〇〇〇
チユニス		六五、〇〇〇
トリポリ		一九、〇〇〇
埃及		五〇、〇〇〇
アビシニア		五〇、〇〇〇
南阿諸國		五〇、〇〇〇
阿弗利加州計	約	四一五、〇〇〇

世界に於ける猶太人分布の概况を圖示すれは附圖第二の如し。
即ち最も多きは露國（約半數を收容す）にして米國之に亞く（約四分の一を收容す）ことは注意の値あり
又右猶太人の人口は純粹なる猶太人にして基督敎徒との混血兒を含まさるものとす。
獨逸の猶太人は六十一萬五千なりと雖とも之に混血兒を加ふるときは、百七十三萬（即ち約三倍）の多きに上ると稱せらる、他の諸國に於ては此の如き統計を缺くを遺憾とするも、若し假りに同樣の比例にありとせは、世界の猶太系人口は三千七百三十七萬の多きに上るへし、即ち獨逸に於ては總人口の三十八分の一强（二、六七％）に上り、世界總人口に於ては四十三分一强に上るへし、而して猶太人の性質の部不同化性の條に於て述へたる如く、混血兒か猶太側に立つ場合と、基督敎徒側に立つ場合とを比較し、寧ろ前者の場合多かるへきを以て、安全なる算定として猶太勢力を論する場合には、混血兒を猶太側に算入するを可とすへし、然れども混血兒は猶太の不利なる場合には基督敎徒側に立つや明かなると、全世界の之に關する統計なきを以て純粹なる猶太人の數を取て猶太勢力判定の資となすの外なし、唯之れは最少限を示すなるを注意するの要ありとす。
之より如何にして猶太人か發生の地『パレスタイン』より、此くも甚たしく世界に散布するに至りしやを略述せんとす。
猶太人の散布には耶蘇紀元前のものと紀元後のものとあり、前のものは埃及、波斯方面を主とし、東歐にも若干入り込みありし形跡あれとも、大いなる數に上らす（西曆紀元前五百八十六年『ネブカドネザー』王か、猶太人を『アルメニア』と『コーカサス』に移住せしめたりとの記錄あり（今日の如き分・

布を取るに至りしは耶蘇紀元百三十五年以後の事なり、以下述ぶるは後者に屬するものとす。猶太人か何故此く世界に散布せりやとの説に關し猶太人間にも二説あり、正統派即ち宗敎心の堅固なる猶太人は之を神秘的に考へ、猶太民族過去の罪業を懲らす爲、神か猶太民族に難業苦業をなさしめ此の試練に耐へ得れは玆に始めて猶太の統一、世界の統一を許すなり、其移住の經路の如きは一に神意に從ひ、自然に導かるゝなりと解するも、改革派即ち宗敎心の前者の如く堅固ならさる猶太人は、之を人自然なる人事業、不正義なる列國人迫害の結果なりと憤慨し、現實的方面より考へて之を現實的に矯正せんと努めあるか如し。

兩派何れか眞なるやを判定するは本研究の目的に非す寧ろ現實的研究を主とする立場より後者に重きを置きて研究を進めんとす、是れ猶太の現實派、急進派の弄する術策か、列國の政策乃至時事問題として日々吾人の眼前に現出し、而して吾人は事實に於て之か對應策に忙殺せられつゝあるを以てなり然れとも實際に他民族に取り何れか危險なりやと言へは、急進派よりも寧ろ正統派の穩健策を恐るへしとす、蓋し急進派の術策は全然人爲的なるか故に人爲的對策を以て之を破り得へけれはなり。

猶太王國の滅亡は西暦七十年羅馬の將『テトス』か『エルサレム』を占領したる時なりしも其後猶太政權の命脉は尙ほ六十二年間微かに存在せしか西暦百三十二年『パレスタイン』の猶太人は時の『ラビ』(猶太法典博士を云ふ)より『救世主メシヤ』の僣稱を受けたる『バルコチバ』を首魁として羅馬に反抗し、其初期に於ては多少成功して『エルサレム』を解放し、神殿の一部を復舊し、從來諸方に遁走せし多數の猶太人は『バルコチバ』の旗下に入る可く再ひ聖地に歸來せしも天斯民に幸せす『バルコチバ』の統治僅に

三年半にして優勢なる羅馬軍の爲に撃破せられて『パレスタイン』王國は滅亡せり（此戰に於て猶太人は必死力戰六十餘萬の死傷を生したりと云ふ）猶太人散亂の起因は此滅亡に在り、即ち羅馬官憲は猶太人を『エルサレム』より驅逐せしかば『パレスタイン』王國の面影は『エルサレム』の北に幾つかの學校を止むるのみとなれり、時に西暦百三十五年にして今を去ること實に千七百八十六年前なりとす。

此くて祖國を逐はれたる猶太人は一方は地中海の北岸に沿ひ『ビザンチウム』、『ローマ』、佛蘭西、西班牙に發展せり、而して猶太人は學術的方面に貢献する所ありしも、主として列國民の重寶として利用せしは、彼等か商業、海運業に特別の長所を有する點なりき、殊に西班牙に於ては西暦七百十一年『ムール』の戰勝時代より猶太人は國内の重要職を占め西班牙の繁榮を助けたること尠からすと云ふ。

次て英國及獨逸方面にも發展し、英佛獨に於ては猶太殖民地は東西の通商を獨占するに至れり、然るに基督教徒か十字軍を起すに及ひ猶太人壓迫は起れり（第一回十字軍は千〇九十六年乃至千〇九十九年）即ち幾百の猶太人を殺戮せしに止まらす、基督教徒間に商業を勃興せしめて猶太人の商權を壓迫せり、斯くて猶太人は其國の都合により或は追はれ又召還せらるゝ事ありしか、一千四百九十二年西班牙は徹底的に猶太人を驅逐せり、猶太人の血族なりと稱する『コロンブス』か新大陸を發見せるも亦此の年なるに注意を要す、英國も亦此の世紀より猶太人排斥を開始し千六百五十五年『クロンウエル』か猶太人の入國を許す迄繼續せり。

西歐に於て迫害せられたる猶太人は逐次北歐、東歐に向ひ其一小部分は『モロッコ』方面に移れり、現に全猶太人の半數を占むる猶太地區即ち『バルチック』諸州と黒海との中間（波蘭及『リチユアニア』の

十五州及白露、西南露を含む地方)に公然居住を許されたるは、近く千八百三十五年『アレキサンドル』二世の時にして是れ其前千七百六十九年『アレキサンドル』一世時代に極めて局限的に許したる地域を擴張したるものとす、就中波蘭は其後七百年間猶太人の隱れ家と稱せられたり。

西班牙の猶太人壓迫後彼等を歡迎したるは土耳古と和蘭なり。

其後露國に於ては、亞歷山三世の猶太人壓迫あり、猶太人は逐次難を避けて一は西伯利より極東に向ひ、一は新大陸米國並に南亞弗利加地方に向へり。

北米には『コロンブス』の發見後直に行はれずして第十六世紀の初より少許つゝ移住しありしが、南米諸國には西班牙の猶太人壓迫に伴ひ移住始まり以て南米に於ける西班牙勢力發展に貢献せしが如し、又北米にある獨逸波蘭系猶太は第十八世紀波蘭分割戰を中心とせし中歐の爭亂に伴ひ移住したるが如し此く第十八世紀迄は五十萬に充たざりし米國の猶太人は千八百八十二年に於ける露國の大虐殺後著く增加して三百萬以上を算するに至れり。

第二節　各國に於ける猶太勢力と反猶太熱

猶太人の世界各國に於ける勢力の大體は前述分布の數字を一覽すれば、猶太人の多寡によりて一目判定し得べきも中には特別の事情に因り數は少けれども勢力の大なるものあり、是れ從來其國が猶太に對し表したる好意、又は壓迫の反動等、各種の原因あるを以てなり、故に左に猶太人を有する重なる强國に就て研究せんとす。

其一、露國

露國には六百萬の猶太人あり、即ち世界猶太の約半數を收容し而も制限、壓迫、虐殺相次て至り、世界猶太の怨府となり以て世界大戰勃發の一原因をなし、次て又露國革命の大原因をなし、現今に於ては全然反對に過激派政治の爲世界嫌忌の焦點となるに至れり。

此の如く露國の猶太問題は英米は勿論世界猶太問題の根源なるを以て以下少く詳細に亘り説く所あらんとす。

露國の猶太人壓迫史中最も顯著なるは『イワン』第四世（千五百三十三年より千六千五百〇五年に亘り帝位にあり、一名『怖るへきイワン』）か、千五百六十三年『ポロック』を攻略せしとき『同地に猶太人あり如何に取扱ふへきや』の伺ひに對し即坐に『洗禮を施すか、又は河の中にて往生せしめよ』と命し、事實溺死せしめたるの事跡とす（猶太と大戰二二一頁）（『ブラゴエシチエンスク』附近江東六十四屯問題の時三千人の支那人を黑龍江に葬りたる事を回想し露人の殘忍性を偲ばしむ）

露國に猶太人居住區域を定めたるは千七百六十九年（『カテリン』二世の治下）なりしか、千七百九十五年に至り波蘭の最終分割の後更に其區域を擴張せり、然れとも其後千八百八十七年に至り『ロストッフ』の工業地域を、次て『ヤルタ』地方を區域より除きて猶太人を驅逐したるを以て、猶太居住區域は全露國面積の二十四分一を占む而て露國總人口に對する猶太人の數も亦約二十四分一なるを以て、人口に對する土地の配當概ね公平なるか如しと雖とも實際は猶太人は居住區域の隨所に居住し得るに非さるを以て、其居住は極めて窮窟なりき、是れ千八百八十二年伯爵『イグナチエフ』の臨時法律なるもの發

布せられ猶太人は從來居住せしもの以外には新に村落に移住するを得す、又何かの事情にて一度村落を出てたるものは再ひ歸還を許されさるのみならす、他の村落にも移住するを得すして市街地に移住するの止むなきに至れるを以てなり、其後若干の市街地も總督の筆の先にて村落に格を下し以て猶太人を驅逐するの策に出てたることあり、此の如くにして露國猶太の九十五『プロセント』以上は猶太人居住區域の市街のみに群居し經濟上の壓迫と戰はさる可らさるに至れり。

亞歷山二世に至り此壓迫は多少緩和せられ左の四種類の少數猶太人は任意に國内に居住し得ることゝなれり。

一、完全に兵役の義務を果したるもの。

二、一等組合の商人（引續き五ヶ年間猶太區域内にて八百乃至千留の營業税を納めたるもの。）

三、大學及高等專問學校の職員、學生、藥劑師及助手、齒科醫、外科醫、產婆及其等の助手。

四、機關師、酒精及麥酒釀造者、俳優其他の藝人。

今日猶太人中に右に列記せる職業に從事するもの多き一因は此法令の結果にして、哈爾賓に於て齒科醫と藥劑師とは全部猶太人と見て差支へなしと云ふ露人あり其全部なるや否やは明かならさるも少くも大部は然るものと認む。

又前記の如く猶太人か村落を追はれて市街地に居住せる事實と今尙ほ勞農政府の威令は露國の市街地及鐵道沿線に限らるとの情報は宜く對照玩味するの要ありとす。

亞歷山二世の居住緩和令は猶太人に對する多少の恩典なりしも、事實は法文の見解に於て中央政府と

地方官憲とに相違ありて結局實行機關たる地方警察の任意に實行せられて寛嚴一定せす又滿期兵の年次も極めて老兵に限らるることとなり、年々露軍に入營する猶太兵一萬八千人は滿期後再ひ猶太人居住區域に歸還するの止むなきに至れり、其他前記の特典者も何かの文句を附して猶太人居住區域に歸さるるもの多し例へは學校職員の如きは法律文に男姓の文字にて記載せられあるを以て婦人職員は特典に浴するの資格無しと强解し又一般地域に開業せる前記職業者も若し不具病體等の爲めに業を執る能はすして徒食するときは、許可の理由消滅したりとなし、容赦なく猶太人居住地域に逐ひ歸さるるに至れりと云ふ。

右は主として猶太人の筆に成れるものにして彼等か此の如き虐待を受くる理由は說明し居らされとも事實上彼等猶太人に徒食せしむる時は諜報と宣傳とを以て露國の公益に反する行動をなしたる場合も有るへきこと想像するに難からす。

尙今日に於て注意すへきは、反動派又は外國人の使用する密偵は、如何にも密偵なること一目瞭然たる如く行動すれとも、猶太人は必す何等かの職業を有するを以て假令諜報勤務を擔任するも決して他より覺知せられさる如く行動するを常とす、新聞記者に仕立てて吾人の所に接觸せしむる如きは、何れの人種も同一なるか、當地より南滿に入込みたる猶太人の活動振りに就き實見せる所を記すれは大正十年五月七日關東長官及軍司令官上京の爲め旅順停車場に到るや露人らしき羅紗小賣商人構內手荷物取扱所に腰を下ろし顧客の無きに拘らす發車迄列車を監視しありたり就て談を交ゆるに哈爾賓より來りたる猶太人なりき思ふに該猶太人の目的は關東長官等の動靜を搜

るに非す、當時『セメノフ』猶ほ旅順にあり而も恰も浦潮政變前にして『メルクーロフ』及『イソノフ』の兩人『セメノフ』の許に來り同列車に乘り合はせ居たるが故に或は彼等に關する探偵を目的とせしものならん、尤も此の如き職業は何れの國の諜者も往々取る所なりと雖とも猶太人には大商人其他相當資產あるものか職業的に非すして諜報業務を爲すもの少からすとは東京橫濱方面を觀察せる某人の口にする所なり、一應心得置き然るへきことと信す。

前記諸制限の實行に關しては中央政府及地方官憲共に隨分亂暴なる方法を取れるか如し、時々『ペトログラード』其他の官憲より命令下りて許可なき猶太人か居住することなきやの點檢を行ふ此點檢の際には要務にて市街を通行中のものをも一應歸宅せしむるは勿論最も堪へ難きは夜半の點檢にして老弱男女の別なく寢臺より追ひ出すにあり。

此の如くにして千九百十年には『キーエフ』より五千人の猶太人追立てられ、又千九百〇九年より十年に亙る冬期間幾百の猶太人は嚴寒の中に西伯利より追立てられたり、此際病氣の故を以て猶豫することと無し此の如き追立の後尙在住希望者は居常不安を感するを以て茲に警察の特別保護を受くるか爲めに之を買收するの惡風を養成し、當時の概算によれは年々約二百乃至二百五十萬留は此くして『保護』の爲猶太人より仕拂はれたり、是卽ち猶太人等か露國官僚派か猶太人解放に反對する有力なる理由となす所以なり。

其他教育の方面にも壓迫あり、猶太人の子弟か大學に入學し得るは猶太居住地域內にては全學生の十『パーセント』迄其他の地方にあつては五『パーセント』迄『ペトログラード』と『モスコー』は特に三『パ

ーセント』迄なり、彼等か商業學校に入學し得るは以上の如き制限に非すして商業組合に拂ふ組合税の多寡により其率を定む、商業學校の費用の大部は此の收入を以て支辨し得たりと稱せらる、此の如き狀態なるを以て、猶太學生は其の知識慾を充す爲、自然外國に留學せり最初は獨逸の大學に向ひ後墺國及瑞西にも向へり、然れとも獨逸も亦終には猶太人の數を制限し墺、瑞、亦排猶太熱に感染せり。

右猶太學生入學制限の件は一露國法學士も亦其事實なることを明言せり而して同人は此の制限を加ふる理由を說明して曰く、猶太學生は兎角同盟休校の指導を爲し又學生の分際を忘れて勞働者の煽動其他革命的の事件に盡力するの弊風ありしか故に、此種の制限を加へて危險分子を減少するの必要ありたるなりと、又一露國工學士は學生時代猶太人の悲境に同情し、多數の猶太人を親友とせり、終にはいつしか彼等に共鳴して、學生の身分をも顧みす、赤旗を立てて騷き廻りたることもありしか、思慮熟し、彼等の眞意を了解するに及んて著く彼等を惡むに至りたるを物語れり。

猶太人を知識階級及ひ經濟界より驅逐せんとする壓迫政策は終に露國をして國務は勿論市町村の公職より猶太人を驅逐するの政策を取るに至らしめ、終には職業の自由選擇、果ては私有財產に迄其壓迫波及せり、帝國大學卒業生と雖も基督敎に改宗せされは職業に就く能はす、警察には探偵及情報勤務の外には使用せられす此の如くして猶太人は學校の敎職は勿論、郵便、電信並に鐵道の勤務より遠けられたり。

千八百八十二年には露國內の猶太人は市街地の外に一切土地の借用買收を禁せられたり。

千八百八十一年には猶太出身軍醫の數を五『パーセント』以下に限れり然るに日露戰爭の開始せらるるや、幾百の猶太外科開業醫は徵集せられて滿洲の最も危險なる戰線に送られ、平和克復と共に直に復員せられたり。

市民權を充分に享有せさる猶太人も露國の國防には純露人以上の義務を負擔せり、千八百九十七年の國勢調査に依れは露軍中には純露人か兵役に服する割合よりも二〇、六『プロセント』多くの猶太人を有し千九百〇二年乃至同三年には其超過三十五乃至三十七『プロセント』に達せり、人口の比率より言へは猶太人の入營者は年々一萬三千五百人以內なるべきに拘らす實際に於て年々一萬七千乃至一萬八千人宛入營せり、此不公平は露國官憲か年々五萬人の猶太人か海外に移住する事實を閑却し、且つ猶太人の死亡統計正確ならさりりしか故に何時迄も最頂點に達したる猶太人口を基礎としたるならんとの說あり、又兵役を終る能はさる猶太人あるときは其家族に三百留の罰金を課したり、死亡、外國に移住及逃亡者皆全く同一なりき、幾千の猶太人は此くの如き野蠻なる迫害の爲めに乞食狀態に陷るに至りしも、露國政府は此の中世紀式の罰金制度により、年々五十萬留の雜收入を擧け得ることを經驗せる以來、慈悲も正義も考ふるに暇なく依然右の惡政を繼行せり。

入營者は各種の苦痛を忍ひ而て官は曹長以上に上ることなし、近衞兵、海軍及國境の勤務には危險として使用せられさりき然るに一度戰爭となるや多數の兵員を猶太人より徵集し、又其の比率最も多き聯隊は最も危險なる戰線に使用せらるるを常とす、『クリミヤ』戰爭然りしか日露戰爭に際しては四萬人の猶太兵卒を出せり、彼等の多くは復員歸鄉と共に猶太人虐殺の魔手か彼等の家庭に臨みありしを

發見せり。

日露戰役間猶太人の投降者少からさりしは前にも述へたる如き露帝國を呪ひ其の敗戰を希望する點以外に平時より鬱積せる不平の勃發も亦其一因なるへく、又日露戰爭後露人の猶太人に對する壓迫虐殺の盛んとなりし一因は、戰線に於ける猶太兵の不忠と露西亞内部に於ける猶太人の革命的陰謀露顯せる結果なるへし、宇宙間の森羅萬衆悉く因は果を生し果は又因をなし輪轉極まる所なし、故に一圖に猶太人に同情すること能はさるも、露國官憲か佛國革命以前の如き取扱法を猶太人に加へて憚らさりしは、今日の動亂を招ける一大原因と云はさるを得す。

以上列擧せる所有權、居住權、職業の選擇、兵役に關する凡ての不公平は猶太人の苦痛には相違なきも、猶太人虐殺に比すれは日常茶飯事と言ふ可し、猶太人虐殺（ポグロム）に際しては血に渇せる惡漢は露國官憲の召集に應し猶太人と見れは赤兒に至る迄之を撲殺し其敎會を破壞し其家財を掠奪し宛然たる地獄を露國の一角に現はせり、『ポグロム』には軍隊及警察官も參與すと云ふ。

今近年行はれたるポグロムを列擧すれは

一、自千八百八十一年至千八百八十三年

南露及波蘭に二百二十四個の『ポグロム』起り七萬五千の猶太人は其の家宅より追ひ出され約一千一百萬留の損失を招けり。

二、千八百九十一年、九十二年、千九百〇三年屢々小『ポグロム』あり

三、千九百〇五年十月

『ポグロム』は七百二十五箇所に起り流血を伴ふ暴動狀態となり二十萬人の猶太人か直接受けたる損害六千三百萬留に上れり。

四、自千九百〇五年十月 至千九百〇六年九月 暴動狀態繼續し猶太人の死傷

死　一千餘人

傷　七千乃至八千餘人

に達し、又經濟上の間接なる打擊を除き、直接受けたる損害六千六百萬留に上れり。

此の如き不正義に對しては、露國人間にも必すや反對の聲擧らさる可らす。

千八百八十二年（即ち亞歷山二世虛無黨に殺され亞歷山三世登極の翌年）伯爵『パーレン』を長とする猶太問題調査委員は、猶太人に有利なる報告を呈出し逐次に猶太人に自由を與へ終に完全なる同權となすへき事を主張せり、然れ共束縛の絆は尙數年間締められたる儘なりき。

千九百〇五年十月米國より歸りたる『ウイッテ』伯は、露國臣民は人種別宗教の差別を論せす同一市民權を與へらるへきものなるを主張せり、此の月より『ポグロム』勃發し約一年に亙りて傳染病的に全國を荒らしたるなり。

千九百〇七年には首相『ストルイピン』は、既に猶太人居住地域外に定住するものには、從來其特權無かりしものにても、他に行政上支障なければ正當の居住權を與ふへき閣令を發せり、此の公文は却つて居住權を有する猶太人に對する攻擊の材料となり幾千の老幼猶太人放浪生活をなすに至れり。

右は歐洲大戰前の露國に於ける猶太人の狀態にて、彼等自身の不平は勿論、世界猶太人か如何に之に對し激昂したるやは察するに難からす、殊に露國よりの移住者より露國の惡政を聞かされたる米國猶太及米國人等か露國の帝政を惡みたるや故なきに非す、之より大戰間如何に反猶太熱か變化せしやを說かんとす。

開戰當初露國は再ひ日露戰後末期の如き失敗を繰返ささる爲めにや溫顏を以て猶太人に接したり、即ち波蘭方面軍司令官『ニコライ』大公は千九百十四年八月十五日波蘭人に向ひ下したる告示文中に波蘭の自治、言語、文字の復活、信教の自由を許す旨を明記したり、此報一度米國に傳はるや百五十萬以上の猶太人を有する波蘭か自治を許され、猶太教及其の言語文字の自由を許さるることとなるを以て、波蘭猶太の同胞たる米國猶太は大に喜ひ、宣言書を發し會合を催し行列を行ふて熱誠なる祝賀と感謝の意を表せり。

誰か知らん其宣言も實際上に大なる効果なく忽ちにして一場の糠喜ひに終らんとは。

露國猶太人も大公の宣言と當時何人か發したるや不明なるも『ペトログラード』より發したる猶太解放に關する電報とに歡喜し、動員の際猶太人の不應召者無かりしみならす、新聞紙は日々猶太人の志願兵續出し、而も後方勤務よりも第一線勤務を希望するもの多數翟出するを報せり。

此の志願兵の多くは露國大學に入學し得さる爲外國の大學にありて修業中のものなり、又露國に歸らすして聯合國に從軍せるもあり。

此の如き猶太人の愛國的精神發露の一例は、某軍團參謀長か新聞に公報として發表せしことあり（千

九百十四年『ノーウイ、ウォスホード』第三十二號に轉載せらる）又『ペトログラード』其他の都市に於て盛なる愛國運動起りたるか全然自發的のものなり。

又此頃猶太居住區域の內外を問はす猶太部落にては各其分に應し病院を開き啻に猶太人に止まらす人種、宗教の如何を問はす傷病兵を收容せり、獨り病院のみならす凡て戰爭の犧牲者に對する猶太人の救濟事業には國民に訴ふる檄を以てせしか、之等を一讀せは當時露國猶太か露國に對する態度の如何に熱烈なりしやを了解し得へし。（猶太人「スピール」著「猶太と大戰」百六十五頁）

然るに實際に於て、多年養成し來りたる官僚政治の擁護者たる露國の爲政者をして、一擧積年の態度を改め、日露戰役末期の革命運動に於て、露國青年と手を携へて政權と戰ひたる猶太人に好意を表せしむるは不可能の事柄にて、間もなく大公の告示は空文に了り、殊に當時戰勝の榮を荷へる大公の進軍せし、軍後方地域に於ては波蘭人及猶太人に對する取扱は却つて一層嚴酷となれり、殊に『レンベルク』に於ては其弊甚だしかりしか如し、例へは猶太人居住地域內に居住する出征軍人家族か、其子弟又は夫か一步地域外の病院にあることを聞て、之を見舞はんとするも、露國官憲は斷然之を拒絕して顧みす。甚たしきは露國內部へ後送せられたる負傷兵か猶太人なるの故を以て、其地方より追放し他に轉送せられたるものありと云ふ、其負傷兵中には『カッツ』と云ふ勇士もあり、彼は實に八人の小部隊を以て優勢なる獨軍を捕虜とせる功績を有す。

英國猶太の有力者『ザングヴィル』は其著書 The war for the world 第三百三十七頁に於て論して曰く、猶太人は『パデレウスキー』氏の描き出せる如き、普通波蘭人の嘗めたる諸種の苦痛を堪え盡し、又市

街の砲撃、燒拂ひ、掠奪に遇ひ、戰の勝敗により入り替り立替り侵入せし兩交戰者の土足に陷み蹂られたるは、まだしもの事、猶太人は間諜、叛逆の汚名を兩交戰者の何れよりも負はせられ、時には井戸に毒を投したりとの濡衣を被せられ、兩者より磔の極刑に遇へり、人質として投獄せられ銃殺されたるもの笞刑を受けたるもの絞殺されたるものあり中には生きなから燒かれたるものあり。婦人は犯され其他の住民は一部は敵方に追はれ他は自國官憲の爲に後方に追はれて全村廢墟となれり然れとも落ち行く先は人の群かる市街地に非す、是れ猶太地域の外には一歩も入ること能はされはなり。

此等猶太地域外の市街には祖國の爲に戰ひて傷きたる猶太負傷兵すら踏み入ること能はさるなり。

從來民族虐待の事實無きに非りしも此の如きは史上稀に見る暗黑時代なり云々。

又露國、波蘭、『リテュアニア』の猶太勞働者の組合『ブンド』が當時世界に呼號せし、露國の猶太人虐待に關する檄文は勿論宣傳文なれは聊か誇張の嫌あるへきも、參考の爲左に揭くることゝせり(後に『シオン』運動の部に於て詳述する如く、『ブンド』は過激派の牛耳を握れるものにて哈爾賓に於て發刊せし共產主義の露字新聞『ブペリョード』等は此の派に屬するものなり此の一派の猶太人と露國革命との關係は露國官憲の猶太人虐待攻擊の態度を見れは大に得る所あるへしと信し比較的詳細に揭載することゝせり)。

吾人は玆に最早や猶太人の一般狀態に就て喋々せす、是れ從來に變らされはなり、居住地域職業敎育の制限の如き最も野蠻なる規則は今尙ほ効力を有す、財產の沒收、夜半の臨檢、叩き出し

等は露國に於ける猶太生活としては日常茶飯事なり。

吾人か文明世界全部に向つて大なる注意を喚起したきは、現今『軍事の必要』なる口實の下に帝王政治の年代記にも未た見聞せさりし慘劇の演せられつゝあること是なり。

露國政府は猶太人に對し眞に對敵行動を執るの計畫あり、而して軍の行動地域に於ては全然殲滅的の傾向あり。

現今に於ける露國戰場の大部は猶太人居住地域に屬す、之に住する猶太人は全く資産を失ひ文字通り餓死に瀕す。

數千の猶太人は饑餓と侵略者の手より遁れさる可らす官憲か處置を要するは此の際なりとす。露國政府は一人の猶太人も猶太窟『ゲットー』(制限地區を指す)以外に入込まさる樣豫防法を講す、萬一禁を犯して許されたる地域外に出つるものあれは、逮捕せられ、刑罰を受けたる上、態々元の荒廢地の空屋迄送り屆けらる、戰傷により入院したる猶太兵卒か歸鄕療養を許さるゝ場合にも、大抵は戰場近くの空屋に送らるゝなり。

制限居住地外に住まんとして各種の個人的運動をなすも効果なく官憲の回答は常に一なり。曰く『合法の理由をなさす』と、佛、英、瑞西の諸國は白耳義其他の外國避難民を最も懇切に取扱ひつゝある一方に、露國政府か自國の避難民に自國内移動の權を與へす、慘憺たる不幸狀態に投することを聞かは、歐洲諸文明國の輿論は如何に驚異の眼を見張るへきや。

尙ほ重大なる事柄あり、文武官憲の監視下に於て、反猶太思想に迷はされたる兵卒等は、波蘭人

の屑と結んで多數の『ボグロム』を行へり、之か爲猶太人は殺され其財產は掠奪に遇ふ。
露國の『マンチエスター』と呼はるゝ『ロッヅ』市は五十萬の住居民を有す（註猶太人口九二、三〇八人 全住民の二二、六〇%）
此の市街には露軍の占領當時に於て、數日間に亘る『ボグロム』行はれたり、波蘭の猶太人は實際上法律の保護下に置かれさるなり。
謂はば傳統的なる之等の迫害に止まることなく軍憲は中世紀時代の年代紀より搜し出したる如き新たなる取扱をなす即ち多數の猶太部落より住民全部を立退かしむるなり。
（註）之は軍事の必要上行ふを要する場合ありて一概に非難するを得す即ち住民の殘り居ること殊に猶太人の性質よりせは財產に固着し殘留希望者大なるへきを以て退却に方りては軍機の保護上よりするも又戰場となりて殺傷を受けしむるに忍びさる人道上の見地よりするも豫め準備せしめて全部撤退せしむる場合あらん但し戰後損害の賠償に任すること並に立退者に移動居住の權を許すへきや勿論なり、若し右の强制立退が懲罰的の性質を帶ひたるものとせは猶太人に間諜行爲のありたる爲なるやも知れす（前述猶太人の性質中虛僞多き部に述へたる猶太人の『カガール』組織の件參照）
即ち迫害は中世紀式なり大鼓を打鳴らして住民地內の全猶太人を集め軍憲の命令として二十四時間以內、時としては三時間以內に立退を命す、若し指定の時刻迄に立退かさるものは軍法會議に附せらる。
此くして强制立退を命せられたる猶太人の旅行は最も非人道的なり、數千の憐むへき老若男女と

女と病弱者とは徒歩にて、時として數週間隊をなして彷徨す、是れ落附く所の唯一の市街は『ソルソウ』にして直距離は小なるも種々迂回の要ありたればなり。

屢々小兒は途に倒れ、妊婦は路上に月足らすの產をなす、時には各種の恐怖に襲はるゝことあり母親か『パン』を求むるに急にして遽たしく店頭に至り顧みれは吾兒を包みたる毛布の內容は何れへか落して空く毛布のみ抱き居り非常の愁嘆を演したるもあり。

之より『グロジック』を追放されたる一猶太人の直話として『ペトログラード』の新聞に揭けられたる實驗談を紹介せん。

午後二時半頃には『ワルショウ』街道は早や『グロジック』の猶太立退者にて充滿せり、立退家族は全部にて千五百戶內三百戶は出征軍人家族なり、從つて老幼婦女多く婦人には妊婦あり、產後日立たさるものあり。病人不具癈疾者もあり。

午後五、六時頃には『グロジック』より十二露里ある『ブローネ』と云ふ小さき町に達す、町にて一休憩と思ひたるも監視者は此の町を通り過くることすら許可せす、其周圍の草地を通らせれたるか當時折惡しく水溜まりあり、男子は水に入る前、樹の枝を採り之に衣類を纏ひて浸潤を防き、又婦人を肩にして水を越さしめたり、時々露國の巡察來りて吾等の旅劵を點檢せり。

程なく夜となり、寒さと濕氣と粘土質の泥濘地は著く旅行を遲からしめ、途中兵卒に遇へは惡口を言はれ又は懷中を搜されたり偶々一妊婦は產氣附き無事路傍に出產せしか、他の一妊婦は流產をなせり、尙他の一妊婦は不歸の客となれりと。

又同一新聞紙は『ミシネッツ』の猶太人立退を掲けたり曰く、此の町を立退きたる猶太人の三百家族は寺院より『トラー』(羊の革に手書し巻物としたる猶太聖典)を持出し『チンリット』を指して道ひ出せり、途中濕地に坐し一行中の若干か使者となり『コジャジドラ』村に赴き衛戍司令官に交渉せしか、司令官は猶太人か其村に入ることを斷然拒絶したり、時既に遲く又如何ともするを得す、其場に露營し寒さに慄へつゝ或者は子供を腕にして聖典の詩篇を誦讀せり、此の夜を共に明したる猶太人は生涯忘れ難き日の一に數へあり。

猶太人か立退の際放置したる財産は兵卒惡漢の爲に直に掠奪せられたり。

此の如き運命を荷ひし猶太部落は『グロジック』『スケルネウイッ』『メシャトショウ』『ローウィチ』『グーラカルヴァリー』『ノオアレキサンドリア』『コセニッツ』『イヴアンゴーロド』等なり、此くして十萬の猶太立退者は『ツルショウ』に來りて住家を求めたり。

立退の間少しにても口實あれは猶太人は捕へられ軍法會議に移され死刑又は懲役刑に處せらる若し證據全然不充分なるときは猶太人は戰爭の終る迄町の中には居住せさることを約束せしめらる『コザック』は猶太人を殺し又は之を掠奪することを一の遊戯と心得居るかと感せらる、而して此の遊戯は上官より何等の叱りを蒙らす。

此等の慘忍なる行爲を説明するには官憲側は有名なる『ベイリス』事件に適當すへき新式の惡口を見出せり、即ち猶太人は獨乙人を支援するならん云々然れとも何たる僞善なる哉、露國政府は其軍旗の下に猶太人二十五萬人を徴集せるに非すや、政府は猶太の勇士に鐵十字の武功勳章を頒つ

に非すや、政府に好意を有する憂國主義の新聞すら屢々猶太人の愛國的精神を表彰せるに非すや（中略）皇帝陛下は多くの都市に於て其地方の猶太人代表者に謁を賜ひ、彼等の忠誠に感謝を表せられたり然るに文武の官吏は人民をして猶太人は反逆者なり、猶太人は祖國を賣るものなりとの觀念を抱かしむる様盡力しつゝあり。

（中略）

文明諸國の市民諸君よ世界に數百萬の人口を有し常に其居住する國の反動派官僚政治家より壓迫せらるゝ吾々の猶太民族か右の如き驚くへき慘忍苛酷の取扱を受けたる事實と、之に對する正義の叫ひと憤慨の聲とに耳を傾けられたし。

諸君は果て其印象を胸中より去り全然不問に附し得へきや。

今日は戰時にして血に塗れたる『必要』の聲は往々正義の聲を沈默せしむと雖も、文明世界人道の至誠は恥つへき行爲を全然根絶せしむるに至るへきことを帝王主義者に警告する要ありと認む。

（千九百十五年一月二十二日及二十九日猶太世界）

誰か之を讀んて一掬の淚なからん、中には實際間牒を働きたるものあらんも、妊婦老媼や小兒に至つては全く與り知らす、只猶太人に生れたるか爲に此かる虐待を受けさる可らさるとせは。極めて不正義にして鬱積せる不平の勃發するは蓋し止むを得さるの勢乎、此かる虐待を受ても猶ほ基督敎に改宗して一身の安全を圖らんとせす、一意救世主の降來を望んて民族的統一精神を棄てさる猶太民族の偉大なる點には敬服せさるを得す。

（以上の如き戰時に於ける猶太壓迫の實例は猶太人側より多々集まりたるも餘りに煩瑣に亘るを以て省略す）

露國の一般社會も終に覺醒せり有識者は一般人民の眼を開き官僚政治より猶太人を救ひ出さんとするに至れり。

千九百十五年四月『知識階級』なる組織は二百餘名の發起人を以て起れり、内には元老院議員、上下兩院議員大學敎授學士會員殊に『マクシーム、ゴリキー』の如き文士を含めり、其宣言書には『猶太民族は今日迄幾何の艱苦を甞め而て幾何の眞理を宗敎上に哲學上に詩文の上に言ひ顯はし叉露國實社會の上に働きたるかを考へさる可らす』云々其他猶太人は親むへく協力すへきを說き、終りに全然猶太壓迫を止め全く他の露國民と同一の權を與へさる可らさるを結論せり。

然るに露國の官僚派は耳を覆へり。

道上說く處によれは『キエフ』の警察官月收八十留以下なるに年々利子のみ二萬圓を擧くるものあり是れ猶太人居住地域の存在する間は特別なる許可と交換に、猶太人より莫大の收入を得れはなり、（猶太人「スピル」の著書）其後獨逸軍の波蘭侵入により露國猶太の居住地益々縮少し玆に再ひ猶太人の制限解除問題は勃興せり千九百十五年八月二日及九月十日は露國議會に於て猶太問題の花を咲かしたる日なり。社會民主黨（ＳＤ）が立憲民主黨（ＫＤ）及勞働黨の同盟を得て提出したる質問は日程に上りしか更に十五日後に於て討議することゝなれり。

其後時日は遷延せしも、他の黨派よりも加入者ありて議會の多數を占むるに至り猶太人に對する壓迫

除却せらるるの望は增し來れり、然るに同年九月十七日總理大臣は大本營より皇帝の詔書を携へ歸れり、全歐州の視聽は其內容に注かれたり、其詔書は議會の停會を命せるなり、露國の輿論は頓挫し論客は口を緘して茲に他の事を考ふるに至れり。

前記議會に於ける運動の獲物は八月二十八日の內務省令にて發布せる居住地域の擴張なり其の省令には、猶太人に對する根本規則の改正迄は、戰爭狀態の必要上、假に猶太人は居住地域外の市街に居住し得、とありて村落は尙禁しられあり、又市街にても除外例あり。

『ペトログラード』と『モスコー』の兩首府、宮內省に屬する土地、（『ツアルスコエセロ』『パヴロフスク』『ガチナ』『ペテルホフ』『オラニエンバウム』『ヤルタ』）及陸軍省所屬地（『ドンコサック』『クバンコザック』『テレクコザック』領地、裏海沿岸州及『トルキスタン』地方之なり。

又此の新法令は發布せられたるも官僚派は其實施に方りて種々なる故障を起せり、最初は內務省令は公式に通牒なかりしの故にて實施せす、又『キエフ』の如きは從來永住し一時他に居を轉したる猶太人か歸宅すれは最早官憲は入市を許さゝるの滑稽もあり。

西伯利方面に於ては露人は比較的溫情を以て猶太人に對せしか、官憲は冷酷に右省令を運用せり。

戰局の進展に伴ひ、獨逸人の侵入の爲驅られたる波蘭『リテニアニア』『クールランド』方面の猶太人が、內務省令に信賴し、高加索方面に移住し來れは、總督たる大公は、目下軍事上の見地より此地方に內務省令の適用を許す能はす、として入國を拒絕せり、此の內務省令不適用の實例に力を得たる官僚派は千九百十五年の末期より千九百十六年議會の開會前迄依然猶太人に對する態度を改めさりしなり

千九百十六年三月議會の開會と共に猶太人問題は質問として日程に上れり、然れとも名士の熱烈なる代表的演説も、右黨の妨害と、聯合各派分裂の顧慮より、終に徹底的なるを得す、政府か從來の猶太壓迫を廢止する方針なるを說明せるに甘んじ、質問の解決を見るに至れり、其後農民の權利を確立する法案を討議するに方り如何なる黨派も農民法案の恩人たる猶太人の權利に論及せさりしは不可解の事とす（農民法改正案の恩人とは猶太人の言なり彼等と勞農との關係の一端を現はしたりと云ふへし）其後露國より各國に視察團を派遣せしか外國猶太より種々宣傳を受けて歸國し、殊に佛國大統領『ポアンカレー』氏か該視察團員と會見の際、『佛人大部の希望は、露國猶太の狀態を改良するにあることを歸國の上露國の支配階級に傳へられたし』と、述へたる事を報告するに及ひ、猶太人に有利なる改革に關し、公然論議するに至れり。

曩に閉鎖を命せられたる『モスコー』と『オデッサ』の猶太新聞は再ひ發刋し得るに至れり。

露軍の『ガリシヤ』に侵入するに及ひ、總督は墺國人か猶太人に許したる權利は、其儘與へ置かさる可らすとの命令を下せり、之か爲人質の一部は解放せられ、露國內に立退きを命せられたる猶太人は歸鄕を許され若干の町にては市會議員に猶太人を見るに至れり、又猶太人の學校を開き『ヘブリュウ』語にて敎授することを許せり（『イディッシュ』語は獨乙語に類似せるより戰時の爲禁したるならん）露國內部に於ても文部大臣は高等學校に猶太人を入れ得ることを發布し大都市にては猶太人の商業學校をも開けり。

又高等敎育を受くる學生は『ペトログラード』に居住を許され、『ハリコフ』大學の猶太人助敎授は終に

敎授に昇格せり。

内務省は猶太人居住制限撤廢法案の調査に着手し、又保守派のものも反猶太主義政治を施すの不利なる丈は了解せり、即ち當時は眞面目なるものは反猶太主義に反對なりしなり。

千九百十六年六月廿日の議場に於て猶太人代議士『フリードマン』か猶太青年に對し述たる演說に曰く

諸君に對する惡罵は如何に痛烈なるも、諸君の負ふへき荷か如何に重かるへきも、正義と忍耐の上に立ち、勇氣と堅忍とを以て巳れの義務を最後迄果されよ(左黨より拍手起る)諸君を侮辱するものを眞似てはならぬ此大露西亞は現在に於ては徐々に進みつゝあるも、終に本音を吐くの日來らん(左黨より拍手起る)、其の新に來りつゝある露國こそ諸君の受けつつある屈辱の埋合せをなし諸君に正理を與ふるものなり、怨恨の惡夢は消え去り眞理は獨り此世に止まらん。(千九百十六年七月二十三日猶太解放)

『フリードマン』の演說を通讀するときは彼等は露國の過激化(猶太人全盛時代の)を一年前より豫言せるの觀なきに非す。

以上は露國の大戰參加以前、及大戰前半期に於ける露國と猶太との關係を述へ、以て猶太勢力の消長を現はすに勉めたるが、重に政治、敎育並に軍事の方面に限られたり、經濟商業方面を觀察すれは前に猶太人の性質勤勉の部に於て述へたる如く一般露人は到底猶太人と大刀打を爲し得す(露人中には日本人は中々慧敏なれば猶太人と競爭し得へしとなすものあり)從て商人の數も猶太人の方割合多し(之には職業制限の關係もあらん)、大戰前の統計によれば、露國全商人の約三分の一を猶太人にて

占むることとなり、經濟上に於ける其の勢力想像するに難からす。

此くて千九百十七年の革命は來れり、『ケレンスキー』か猶太の血族なる關係と、後に述ふる列國の猶太同情とにより、此頃より猶太人の位置一躍露人の上に立つに至りたるは見易き道理なり、過激派革命成効後も、猶太人は政權と多大の關係ある爲勢力を有する點に於て蓋し世界第一ならん、『トロツキー』か『レーニン』と竝んで勞農露國の二ケの大黑柱となり、而も政府擁護の强權たる赤衞軍の實權を掌握せる點は、他の列强の猶太人に見さる所なり、其他政府要路に猶太人多き點も旣に周知の事實なるを以て茲に喋々せす、唯本年始めの情報に依り歐羅巴露西亞の『コミッサール』（過激派の奉行）五百三十六人中、四百七十人は猶太人にして、三十六人か『マジャール』人、『リチュアニア』人、其他の外國人、三十人か純露人なりしこと及ひ其等の猶太人『コミッサール』か勝手の振舞をなし得ること今尙ほ繼續中なるの事實を擧けんとす。

『イルクーック』より知多を經、九月中旬哈爾賓に着したる露西亞婦人が其の舊知の猶太婦人を訪ひ『イルクーック』の驚く可き情況を語りたるに、猶太婦人答へて曰く、信し難し、昨日『イルクーック』にある姉よりの書狀を受取たるに、自由商業は行はれ自宅には二十『プード』（卽ち約八十貫匁）の麥粉を仕入れ得たりとあり、露西亞婦人曰く、貴婦の姉君方は『コミッサール』の宿舍に充て居らさるや、猶太婦人曰く、然り、露西亞婦人曰く、其で明瞭なり、其の通信は全く特殊の狀況を描きたるものにて凡てか此の如しと考へられては『イルクーック』市民は迷惑す云々と答へたり。

即ち勞農露國内の猶太人は飛ふ鳥を落すと迄行かさるも、充分なる權威と便宜とを有することと察するに難からす。

極東共和國は勞農露國程に非るか如きも、政府要路に猶太人の多きことにて實權の程度を知り得可し然るに極東共和國の事情を發表する英米人は何故か十四大臣中に三、四名の猶太人を數ふるに過きすと云ふ如き誤計算をなし、彼等か巧に配合せるを發表せす例へは衛生大臣『ペトロフ』と云ふ正直者の露人の下に次官『レーヴインソン』と云ふ猶太の切れ者を配合しあるを發表せす。

尤も此の如き猶太人の横暴は既に一般の反感を買ふに至りたることは、極東共和國側に於ては『クラスノシチョーコフ』一派猶太人の失脚となり、『イルクーツク』に於ては猶太人の秘密虐殺となり、更に西すれは『ウラル』地方赤軍反亂の兆ありし際、鎮定の爲『トロツキー』自ら出馬せんとするや、彼は猶太人にて一層反感を買ふの虞ありし爲、露人『カーメネツフ』を派遣せることによりても明かなり(是れ前節に於て猶太の現實的急進派の、幽玄溫健派に比し恐るるに足らすとなせる所以なり、尤も之か對策を講せす浮れ居れは何れの派も我に危險なるや論なし、獨り猶太に限らす外國は悉く危險なり)

要するに猶太人か露國内に此の如き勢力を扶植し得たる所以は、波蘭の分割によりて一層多數の猶太人を領有するに至り、而も其長所を採て自から養ふことなく、面倒なること組織的なることは之を猶太人に委し、自己は一年百余日の祭日を空過し、而も實權の勤勉なる猶太人に移るを憤り、虐殺壓迫を徹底的に行ひたる大反動として今日の猶太隆盛を來したるものと云ふへきか。

其二、米國

米國に猶太勢力の大なるは猶太全人口の四分の一を有すること其一因なり、米國人平均三十人中には一人の猶太人ある比例なり。

然れとも尙他に左の理由あり。

一、米國は『コロムブス』てふ猶太人の發見せるものなり、謂はは我ものなりとの考へあり。

二、猶太人は米國の革命戰爭の大功勞者なり（後章に詳說）

三、新開地にして氏素性を問はす極めて自由なり、故に猶太人は米國を最も愛す可き避難地の一に數へあり。

The most favoured lands of refuge are England, America, and the British Colonies, in which populous and thriving Jewish Centres have arisen. (Jewish life in the modern time 36 page)

而して英國の如きは前述の如く一世紀以上も猶太人を驅逐し去りたる歷史あれとも米國には未た曾て此の如きことなし。

四、『モンロー』主義の爲歐州より干涉を受くるの虞なし。

五、働けは金の儲かる所にて、大に働き大に儲け得る所なり、英の『ロード・ロスチャイルド』を除く『モルガン』以下世界の猶太大富豪を網羅するは米國なり　猶太人三百萬の內其の三分の一即ち百萬人は米國金權の中心點紐育にあり、而して紐育の人口約五百萬に對し、其の五分の一を占しむるは注目に値す。

千九百十六年三月二十日巴里發行『インフォルマッション』の論說に左の一節あり。

米國の大銀行は大部分猶太人の手にあり其内には獨乙猶太もあれとも大體に於て決て聯合國に敵意を有せす『シッフ』(Schiff)を含む銀行團は旣に吾人に十億を貸すことに盡力せり、然れとも一の條件あり、露國の猶太か同國議會の欲する通りに猶太人に居住、移動の自由を許すにあり、云々。

『イズラエル・コーヘン』も其著『近世猶太』第二十一頁に『東歐の猶太人か政略上より起る大壓迫の犧牲となりたる上は、基督敎徒に改宗するか何れかに避難するかの外なし、避難民としては政治上の關係少く全精力を富の蓄積に用ひ得る場所なるを要すと述へたり』

此く米國は猶太人に大なる滿足を與へたるを以て此の意味に於ても猶太人と米國との關係は頗る密接なるへきや論を俟たす、換言すれは猶太富豪の意志に反する政策は米國の取る能はさる所なり。

米國と猶太との關係は今回の世界大戰間の猶太人の著書により明瞭となり尙何故に米國參戰か露國の革命後迄延期せられたるや、進んては今回世界大戰の目的、『ウィルソン』及其反對黨たる共和黨と猶太との關係、人種別撤廢問題、露國革命の眞因等をも窺知し、今後の世界的大問題の蔭に潜む猶太問題を研究する爲、貴重なる資料と認むるを以て、少く詳細に說明する所あらんとす。

米國猶太人の神經を著しく刺擊したるは露國及波蘭の猶太人か一方より獨軍の進擊により虐殺

を恐れて逃け惑へは露國（知識階級及一般人民は除く即ち主として頑冥なる宮廷一派）は之を虐待し猶太人の身の置き所なき同情すへき情態にありしことなり。

由來開戰當初より對獨戰爭の味方に頑迷なる露國の參加せしは猶太人の喜はさりし所にして、千九百十五年八月二十七日發行の猶太世界(ユニベルイスラエリット)にも左の意味の寄書あり。

露西亞か參加するに至りたることは確に舞臺面に一黑影を投したるに等し。

果せる哉露領及波蘭領にありし猶太人は開戰當年の末、聯合國に訴て曰く。

聯合國は壓迫されたる民族の解放と民族國家の建設の爲に劍を執りたりと宣言せられ吾人も此の目的を以て諸君と共に戰鬪に從事せり、自由を與へよ、吾人か一箇の國民に歸る事に助力せられよ。

右の叫ひに應し自由主義なる聯合國及ひ中立國は一方義捐金を募りて不幸なる猶太人家族に贈ると共に、各種の運動をなし其の決議を露國に致せり。

先つ米國の義捐金より述へん。

前記の如き在露國猶太同胞苦悶の叫ひ米國に達するや、之に應する宣傳は盛に起り、政黨、政派の別なく、宗教各派の隔てなく一齊に其の叫ひに應し、殊に大富豪『カーネギー』斡旋大に努むる處あり宣傳の爲の『ミーテイング』には自ら進んで奔走せり。

大統領『ウイルソン』は遂に上院の決議に基き、千九百十六年一月二十七日を以て猶太日(デー)を設くるに同意し、次の撤を米國民に飛はせり。

現在交戰國の猶太人にして、食ふに食なく、住むに家なく、着るに衣なきもの凡そ九百萬人に達す、其内數百萬人は何等の豫告を受けすして住居を逐ひ立てられ、日常普通の買物をも爲し得す饑餓傳染病と、筆にし難き困苦に苦められつつあり、予は米國民か、我邦に多數の有力なる市民を供給したる猶太民族に屬する戰爭避難者を救ふ事に同意せらるるを疑はす云々。

米國の有力者は續々書面を以て賛意を表し來り特に國務卿『トーマス』及『マルシャール』は次の要旨の電報を寄せたり。

吾人は此の機會に於て一國政府の代表者として猶太人に謝意を表するを得るは頗る欣幸とする所なり、右一國とは猶太人か財產沒收の虞れなく生計を營み其子孫は商業上社會上、政治上、高級の位置を占め何の氣兼なく自由に呼吸し得る米國なり云々。

前記猶太日の『ミーティング』に以て開會後半時間を經さるに四人の紳士四十萬弗を出したるを始めとし、百五十萬弗の高に達し(佛貨當時一千一百萬法に當れり)尙婦人は寶石を外づして喜捨箱に入るるものありたり、其年十一月初め迄には米國は實に三千萬法を此の目的の爲に送附せり。

玆に頗る感動すへき一事は前記猶太日に於て露西亞、波蘭の猶太人逆待に關する講話ありしか之を聞ける猶太人は單に同民族なるのみならす米國猶太か多く露國方面より移動せる關係もあり、露國官憲の遣り口、地理等も詳知し中には親戚故舊もある事なれは其同情は一層に熱烈に

て婦人は終に慟哭の情態に陥れり。（同年二月十五日「ヒユマニテ」）
此現象は彼等の感傷的なる氣分を實際目擊したるものに非れは想像する能はさる所なり。
猶太紀元五千六百八十二年一月元日及二日即ち大正十年十月三日及四日の兩日哈爾賓に於ける猶太人新年祝賀祈禱の狀態を觀察中、猶太養老院の禮拜所に至りしに、玆に集りたるは最も信仰堅固なる善男善女にて、古式を以て日々三、四時間宛禮拜せるか、二日の午前、一牧師世界猶太人の近狀に就て二十分程熱烈なる雄辨を振へり婦人席に先つ『スヌリ』啼き起ると思ふ內辨士の熱辨は益々白熱となり殆んと全婦人慟哭の聲を擧け男子も亦老壯共に貰ひ啼きをなすもの少からさるに至り、其の狀態悲愴を極め轉た、猶太人虐殺前後の慘狀を偲はしめたり、演說は『イディシユ』語にて行れたるを以て何の故たるを知り得さりしか、一好爺か露語に譯し吳れたる所に從へは、昔し『モーゼ』は猶太の子供を割きたりしか是れ神に捧くる犧牲にて、神意に叶へることとなりしなり、然るに此の數年『デキニン』其他反動派の過くる所、同胞は虐げられ、彼等の野蠻無益なる虐殺を受けたるものは實に三十五萬人の多に達したるを說きたるなりと云ふ。
正月元日より一堂に會し誠意神に仕へ民族的結束を固むる猶太人と比肩し之を相手にするには、元祿時代の氣分其儘屠蘇氣嫌にて天下の大道を瑞珊するの習慣を捨てさる可らさるへし。
其後『ウイルソン』は猶太人『シモン、ウオルフ』に與へたる書翰（『バルチモーア』の『ミーテイング』にて朗讀せり）中に左の意味を宣言せり。
予は凡ての國民か平等の政治的位置を有する事を信する米國民の代表として、露國及羅馬尼の

猶太人に平等權を與ふる事に努力すへきこと、並に右平等權か猶太人に與へられさる間は露國と如何なる條約を結ふことにも同意を與へす云々。

右は露國か依然として米國國籍を有する猶太人の旅行劵問題を舊の如く取扱はんとせしより起りたる問題なり（千九百十六年一月十四發行猶太世界）

以上民主黨出身の『ウィルソン』か、如何に猶太人の爲に盡したるやを示したるか、現大統領『ハーディング』の屬する共和黨も亦此點に一致したること、千九百十六年の大統領選擧の際に於ける共和黨の宣言中に左の意味を繰返せるにて明なり。

吾人は千九百十一年以來、大統領か露國其他の諸國との條約に於て移民の絕對權を認め且つ人種宗教、政派の何たるを問はす合衆國民は何等の差別なく取扱はるへきことを確認する方針に全然同意を表す。

次に共和黨は右の主義を保持し且つ從來移住しあるものは如何なる特典も制限もなく居住權を維持することを約束し、最後に現在の大戰は世界に區劃を生したれとも一度戰禍收まるの後は、全世界の國民間に永久の親交を恢復し、凡ての國の凡ての人に民事上、宗教上、全く同一の權を與ふる事を言ひ顯はせり。（千九百十六年九月十五日プープル、ジユイフ）

以上人道的盡力の外、米國勞働組合及社會黨の實行委員は次の如く議決せり。

猶太人虐待を中止せしむる事に關し政府か外國に對し處置を取ること、並に世界の最も民主的なる政府の立場より久永平和の確立に際して猶太人に對する凡ての壓迫を廢止するは最も望む所なることを

今より宣言するの要あり。（千九百十六年一月五日猶太解放）

其他世界勞働組合も亦右の目的にて世界各地より代表者を米國に送ることを照會せり（同上二月二十五日號）

右勞働者の運動は功を奏し各國勞働者は其政府に向ひ夫々運動する處あり。

千九百十五年九月米國に行ひたる勞働會議には三十五萬の猶太勞働者を代表する百九十八名の委員出席せり。

尙米國猶太か露國當局の爲す所を惡みたる點は、佛國猶太新聞『自由』社長の記する所によれは大米國共和國には三百萬の露國系猶太人あり、其の百萬は紐育に住み、偉大なる勢力を有す、此の三百萬の米國猶太人は露國を嫌へり、然れとも何物かが之を分離せしめす繫き留め居るものありとせは、是『革命の佛蘭西』に對する友情あれはなり。

（C'est leur amour pour la France de la Révolution.）

米國の參戰を促かすと共に露國の猶太人壓迫を止めしむる運動には巴里の新聞も之に參加せるか千九百十六年二月十五日發行の猶太系新聞人道は左の如く論せり。

聯合國の物資は狀況樂觀を許さす、殊に露國の分甚たし、此に於て聯合國か合衆國より財政的協力を得ること益々必要となれり、此の協力を得るは主として猶太問題に關聯す、若し米露間に和解なけれは此協力を得るを得す、而して此の和解は露國に於ける猶太狀況一變せされは不可能なり。

其他米國猶太人か猶太人解放に盡力したる件に關しては猶太人の提供せる左の材料あり開戰當初より

開戦當初より各派各團隊の努力を綜合して猶太解放に導かんとせし英國猶太の努力は、英國か交戰國たる立場にある爲、敵國をも含むへき全世界猶太を動かし得さりしかは、自然其任務は中立國特に米國猶太の双肩に懸れり。

人若し千九百十五年八月十三日及千九百十六年一月十四日の『猶太世界(ユニヴエルイスラリエツト)』を繙くときは數多き猶太集會、協會、會議、委員會等に於て二年餘りに亘り論議せる猶太問題の沿革を一覽するを得へし、其内最も重要なる點は、主として民主的猶太移民と『シオン』派猶太とより成る多數の協會及米國猶太人道教舍(ジエデオアメリカンフイラントロピツクロツヂ)とか協議の結果、『米國猶太人會(アメリカンジウイシユコングレス)』の編成實行委員を擧けたり其會の任務は平和會議の際全猶太より權利の恢復を提議すべきを以て其の準備を今より整ふるにあり。

【註】『ロッヂ』なる名稱は純粹の猶太人團隊には用ひす『フリーメーソン』即ち『マッソン』團に用ゆるものにして、而も『アメリカマッソン』團の一雜誌は人道主義を以てする米國化(アメリカニゼーシヨン)を『マッソンの任務の一に加ふることを明記しあり、又教舍(ロッヂ)の床には猶太の定紋『ダビデ』の楯✡を有する點を綜合すれは『ジユデオ、アメリカン、フイラントロピック、ロッヂ』とは米國『マッソン』團の『ロッヂ』を別名にて指したるやに覺ゆ、確め得さるを以て暫く疑を存す。

右實行委員會は七千人より成り千九百十六年三月二十六日『フイラデルフイア』に於て實行したる會合の席上にて成立したるものなり。

此日の會合には百萬餘の猶太人を有する四千三百八十一の協會より選出せる三百六十七人の代表者參集せり。

其の議長は合衆國大審院判事『ルイ、デブランディス』氏にして會合後程なく世界各地の猶太協會に通牒を發し、米國猶太は永久的に團隊を組織し以て猶太問題の解決に必要なる政略上、社會問題上、經濟上並に財政上の責任を取り得ることを發表せり。

又米國猶太は各地の猶太協會か米國猶太の意見を徵せんとする問題あるときは之を米國猶太會に示す積りなることを發表せり。

右實行委員は、其後例の如き米國式無邪氣を以て羅馬法王に警告を發し、波蘭の司敎をして其敎徒を猶太人壓迫に參加せしめさるの處置を執らしむる樣盡力せられ度き意を通したるか、一說には功を奏し稍猶太人壓迫の緩和を見たりとも言ひ、別說には何等の効果なかりしとも言ひ明かならす。

右百萬餘の民主的猶太の運動と對立して穩健分子『フールヂョア』級、同化論者に屬する米國猶太も、千九百十六年七月十日、紐育に『コンフエレンス』を催したり、『コングレス』の方よりは之に出席を避けたるも、單に議長『ブランディス』以下三名の委員を派遣するに同意せり。

同年八月二十二日『コングレス』側の實行委員と『コンフエレンス』のものと實行方針を協定し其後十月二日の會合に於て修正せるか其の要旨左の如し。

一　亞米利加猶太人は亞米利加猶太の會議(コングレス)に派遣すへき代表者を選定せられたし會議の場所と日次は追て定む。

二　此の會議の目的は全世界の猶太人と協力して各國にある猶太人に對する各種の權利制限を撤廢

し、完全なる同權者の位置に置く爲には如何なる方法を執るへきやを議定す（此の要求中の完全なる同權中には『パレスタイン』を復興し之に居住する猶太人の安全をも含めり）

會議の際各種の議論は起れり、何人をして猶太問題を提唱せしむへきや、米國委員中の一猶太人に委するも力なし、全世界の猶太より交戰國と別箇に一人を出すときは、必す羅馬法皇も『カトリック』の代表委員を出すに至り問題は紛糾すへし、結局は列國委員中に、已れの政府より猶太問題を起さしむる如く指導し得へき人物を出し得べしと云ふに一致せしか、實際は『ヴェルサイユ』會議に猶太人の委員を見たるに拘らす、又日本より人種別撤廢を提唱せしに拘はらす千九百二十年『サンレモ』の首相會議迄猶太問題を議せさりしは奇なりと云ふ可し、過激派系猶太大新聞の有力なる一記者か辨明する所によれば『ヴェルサイユ』會議當時之を議題に上ほす爲には、猶太勢力餘りに小なりし爲なりと言へと、尙他に理由あらん（結論ニ譲ル）以上米國と猶太勢力との關係を通覽するときは左の諸點の目立つを覺え。

一、露國か聯合國側に立つは軍事上には有利なれとも開戰の眞の目的の爲には不利なり、平和會議迄に露國の猶太人壓迫か改まらされば寧ろ之を失ふも可なり。

一、米國の參戰は露國革命後にて、聯合國は露國に代る可きものを得たり。

一、米國の大戰參加前年、米國猶太の議決したる所によれは全權を擁する米國猶太は政治上社會經濟上の問題を以て猶太人の幸福を圖るの責任を自覺しあり。

一、米國猶太は戰時中全世界猶太の中堅として働く機會を得、全世界猶太と交渉をなせり（勿論露國猶太をも含む殊に多大の金品を送りたる外精神的援助をなし置きたり）

以上の事實と千九百十七年三月の革命に與て力ある『ケレンスキー』か猶太人の血を有する社會革命黨（猶太人に多し）なる關係を考察するときは、誰か露國の革命に米國猶太否世界猶太か少くも强き共鳴をなしたるを疑ひ得へきや（三月十二日夜革命の報傳はり佛國第四軍司令部の將校は祝盃を擧けたり席にありし日本將校か、時機の選定當を得さりしとの非難をなせしに對し元全權公使たりし消息通なる老將校は、何故か英國か革命の遂行を急き之に力を入れたるなりと辨明せり）日本の論者にて露國革命の原因を單に貴族・僧侶の農民壓迫に起因する內的發作に歸し、自然の成行なりしと見做し、猶太人壓迫に起因する外部よりの干涉與て力ありし說に耳を貸さず此かる說を閥族擁護の宣傳なりと速斷するか如きは一方に偏する議論にして畢竟前述の如き隱れたる史實の研究足らさるか爲容易に英米民主派側の宣傳に乘せらるゝに非さる歟、尙一言附加せさる可らさるは何故米國猶太か露國猶太の解放に熱心盡力せしかの點にあり、合衆國にある三百萬の猶太人中約二百萬は露國及波蘭よりの移民なり（『クラスノシチヨーコフ』事『トーベリソン』の類）故に其同情は甚た厚かりしや論なり――、此問題は今日の米露問題に於ても何等異ることなきに注意を要す。

米國は上述の如く猶太人の避難所にして猶太勢力の大なること怪むに足らす、而して白人の多數は基督敎徒なるを以て排猶太の運動必らす起らざる可らさる所なりと雖も、今日迄他の列强內に於けるか如く熾烈ならさるは何ぞや、曰く左の點與て力あらんか。

一　米國の移民（猶太人以外の）も元と本國に大なる愛𢙣心なき關係上猶太人に共鳴する點少からす

二　基督敎も米國化したる點あり猶太も亦少くも表面同化する傾向あり、從つて對敵觀念の生する

こと少し。

三　米國は未た曾て猶太人を虐待せす猶太人か顯官要職を占むるを以て爭ひ起らす。

四　猶太人か金權と言論界の大部を掌握せるを以て、排猶太の考あるも其の宣傳は忽ちに壓伏せられ揉み消さる可し。

然れとも猶太人か溫和手段を以て進む間は衝突起らさるも急進的態度を取り又は終に基督敎の上に立つに至らは排猶太熱旺なるに至らん。

其三、英　國

次には英國に於ける猶太勢力を說かん。

前旣に述へたる如く、英國も一度は猶太人壓迫を行ひ、一世紀以上も猶太人を悉く國外に放逐したるか、自由主義者クロンウェル卿か猶太人『マナセ・ベンイスラエル』の申請を容れ盡力せる結果猶太人は再ひ入國を許され、千六百五十七年には墓地をも與へられ其後七十年を經たる頃には、猶太人數學家『サルメント』か帝室協會々員に擧けらるゝに至れり然れとも一方には猶太人か基督敎に改宗するものをも生せり、即ち『ビーコンスフイルト』卿の如きは『アイザック、チスレー』なる猶太人の子なり、其後獨逸に於て『ハノーバー』家か皇位を嗣くに及んて獨逸猶太の英國に移動するもの多く、英國政治家をして富國上猶太人を重用視せしむるに至れり。

此くて千七百五十三年には一度猶太人歸化法案の通過を見しか、翌年には『猶太人と木履は無用なり』との叫ひ人民の間に起りて同法案は廢止せられたり、然れとも之を動機さして猶太人の政治的自由漸

次認められたり。

倫敦方面の金權は勿論、獨墺方面に金融上の大勢力を有する『ロスチャイルド』男爵なる猶太人の先代か巨億の富を獲るに至りたるは千八百十五年六月十八日『ワーテルロー』の會戰に於ける『ウエルリントン』大勝の情報を、最も速かに倫敦の店に傳へ、他人に先んじ投機事業に成効せるなりと云ふ即ち『カレー』海峽に備へし回光通信機が『ナポレオン』云々の二字を送りたる時濃霧の爲通信杜絶し倫敦にては勝敗何れとも判斷し得ず、唯焦慮せるのみなりしが『ロスチャイルド』は豫め戰場附近迄携へ行きたる使鳩を使用し、詳細の情況を傳へ、倫敦の店に指示を與へたりと、一説には豫てせ準備し特別の船にて危險を犯して海峽を越へ歸國せしとも傳へらる。

千八百三十年より三十年間猶太人に國會議員選擧權を與ふ可きや否やの問題、毎年議會にて繰返されしか『ロスチャイルド』男の如きは五回倫敦より選出せられ、十一年間無宣誓にて下院議員を勤めたり當時上院には、一名の猶太人も無かりき、此の如く英國は一度猶太人追放を行ひたる關係上猶太人の數は多からす、純粹猶太人は英本國を通し僅かに二十七萬に過ぎされとも基督敎に改宗し全然氏名を變したる『ビーコンス、フィールド』卿の如き有力なる猶太人を有する爲、政治的方面に於て大なる勢力を有せしは察するに難からす。

英國内に於ける猶太人の分布を見るときは倫敦其他の都市に濃密なり、即ち倫敦は千八百二十三年には僅かに十二名の猶太仲買業者を有せしものか百年後の今日其の一萬三千倍即ち十六萬人を有し英國猶太の大部を收めあり其他全英猶太の四分の一以上は『マンチエスター』『リヴアプール』及『リード』

の三市に棲息す殊に倫敦は『シオニスト』の事實的中心にして左の三機關を有す。

The Jewish Colonial Trust, The Anglo-Palestine Company, The Palestine Land development Company.

『パレスタイン』の復興運動か倫敦より起り千九百十七年外相『バルフオア』の有名なる宣言倫敦より出てたるは怪むに足らす(該宣言書其他『シオン』運動に關しては後章再論す)

前記富豪猶太『ロスチヤイルド』男爵の如きは『エルサレム』に Rothschilds' Evelina School なる學校を設立し Miss Annie Landau を其校長として派遣したる程なり、又彼は千九百十六年十二月、佛國猶太人の巴里にて催したる猶太人救濟會には相當の喜捨を爲したる外、『ペトログラード』の猶太人救濟委員にも五十萬フランを義捐せり、此くして世界猶太の上に、從て經濟界に大權威を有するに至るりしや論なし。

其他英國猶太か大戰間米國猶太と協力して猶太解放の爲に盡力せること少からさるは、千九百十六年八日二十四日、同三十一日、同十月五日の『イズラエル』、及同年四月十四日の『ユニヴエル・イズラエリツト』第百四十六頁以下を通讀するときは明瞭なる可し今其要點を摘錄すれは。

開戰當初より英國の二大猶太協會 Board of deputies, Anglo-jewish Association の共通機關たる Conjoint · foreign Comitee か全世界猶太統一の爲に如何なる任務を盡したるやは注目の價値あり其の一部は American Hebrew なる米國猶太新聞の記者と Conjoint Foreign Comitee の長『ルシアラ・ウオルフ』との會談中に公表せられたり、『ウオルフ』氏曰く、吾人の目的は散亂、放慢な

る猶太主義を唯一の組織に取纏むる爲め、全世界猶太部落の各分子を指導すへき唯一人の指導者を發見せんとするにあり、故に平和會議に其の希望を發表する際、又は其の後に於ても、充分なる確信を以て之を主張せんとす云々。

而て英國猶太人か此く世界猶太の問題に熱心盡力し得たるは前述の如く彼等か既に英國に於ける政治上經濟上の實權に幾何の威力を有せしやを物語るものなり、左の事實は一層有力に裏書す。

千九百十四年九月以來、猶太人『イズラエル・ザングウィル』は、英國外務省より、英吉利國は何處迄も同情を以て猶太解放の爲に盡す可き保證を受け、又『サー・エドワード・グレー』自身よりも『グレー』は充分に本問題の重要なるを諒解しあるを以て、此意味に於ける改革(Reform)の爲有利なる機會は、決て見逃かささる可きを約せり。

其後『サングヴィル』か米國の猶太人に飛はしたる檄は、尚右の記事を確むるのみならす、英國と露國革命の關係、今日英國か勞農治下にある猶太人に對し義務を負はさる可らさる點、猶太人か大局の爲に一部を犠牲にするの明と斷とを有する點、英佛の黒人利用と、之に關する獨逸の攻撃に對し、猶太人の考ふる所等、興味ある諸問題に觸るるを認め左に掲載す (The War for the World Page 418)

人類史上の驚くへき大戰爭は『獨逸製』(Made in Germany) なりしに拘らす、又戰爭勃發以來獨逸の遣り方の野蠻なる事か平時に於ける彼等の氣風を現はし居るに拘はらす、米國猶太協會か同情を英國並に其聯合與國に表せさるに至りしは遺憾に堪へす、獨逸に生れたる猶太人か獨逸に對する感情は、予か英國に對するものより打算し諒解に苦まさる所なり、然れとも世界猶太の半數を

占むる露國猶太の利害問題を考慮するときは、或る程度迄は少數猶太(獨逸猶太を指す)か尙艱難を嘗むるは暫く忍ふ可きに非すや、予は予が英國の市民權を失ふ事あるも、猶は文明の大義か普魯西式軍國主義の勝利の爲に沒却せらるるに勝るものとして之に甘んせんとす、此の故に予は今英國の一愛國者の立場を捨て、『ゴチック』の非文明思想より嫌はれ恐れられつつある世界の一市民として語るなり、獨逸言論界の走狗は盛に獨逸か文明の擁護者たり、又亞弗利加、亞細亞より輸入せる野蠻人の歐洲進入に對し奮戰惡鬪しつつある天使なるか如く獨逸を描きつつあり、然り吾人は黑人を使用しあり然れとも其目的は白し、然るに獨逸の爲す所は之に反して、暗黑なる目的の爲に白人を使用しつつあるなり。

又英國か『チウトン』禍の惡夢より全く安全となりたるときに於ても、猶太人か猶ほ苦難を續く可きや、『サー・エドワード・グレー』か予に露國猶太人解放を助く可き好機あらば必す之を捉ふるを忘れさる可しとの保證を與へたることは、露國猶太の問題に一轉機を與へたるものにて、從來の無益なる風說に代ゆるに希望に充ち基礎堅固なる政治的根據を以てしたるものと謂はさる可らす此保證は從來の政治史上に屢見たる、苦き時の神賴み的、氣休め的の宣言に非すして、英國思想の最も純良なる態度を顯はせるものなることを確言するに憚らす、故に予か米國及其他の中立國の猶太人に希望して止まらさるは、諸君か露國の參戰に依て與へたる黑影の爲に、此の不撓不屈の島國に對する同情を減却せられさらんことにあり、實に英島國は現在に於ても過去に於ても一再ならす人道の爲に働きたるものにして、恐らく露國を開化◎◎(Civilise)し次て……………獨逸をも

開化するに至らんか（米國の部に述へたる千九百十七年三月十二日夕佛國第四軍司令部にありし元全權公使某の談參照）

尙英國か露國と共に戰ふは、頗る迷惑なるも佛國との關係上止むを得さることとなれは、露國は矢張り助けさるへからす、とは露國革命の前年『ロイドジオージ』の口よりも洩れあり。（千九百十六年四月二十五日「猶太解放」第百〇九頁）『ロイドジオージ』曰く『露國内の最良分子は其政權か平氣で爲す所を見て顏を赭らめたること一再に止らない、去りとて露國との聯合か貴重でないのではないから、吾々は露國なる聯合國を助けない譯にはいかぬ』云々。

之に由て見れは、英國猶太か偉大なる金權の威力により其政府を動かし、米國の偉大なる金權を有する米國猶太を通して米國を動かし、露國の開化に引續き獨逸の開化を豫定の通り實行し得たる功績は刮目して見るの値あり。

以上の外英國か文武官吏に猶太人を有することに關し、猶太雜誌の揭載せる露國國會議員『アジエモツフ』の演說を摘錄するは無益に非る可し。（「ユニヴエル・イズラエリツト」千九百十六年九月一〇號六三七頁）

英國に於ては最高裁判官は猶太人の出なり、多數の市長は猶太人なり、其他軍團長に一名、師團長に三名の猶太人あり、然れとも此事は毫も英國の弱點とならす、佛國に於ては國家の大事を決するものには多數の猶太人あり。

伊太利に於ては外交上の實權を握れる『ソンニノ』外相の父は猶太人なり、又國内を奔走して伊太利を聯合國に起たしめたるは猶太人『バルヂライ』なり。

是れ何人も観過すへからさる事實ならすや、政府竝議會は此の事實を如何に見、之より何等かの教訓を取るの意なきや。

尙ほ哈爾賓にある猶太通露人の調査によれは『ロイド・ジォージ』の書記官長は猶太人なり、印度の最高行政官も猶太人なり、此の如くにして世界外交の機密は全世界猶太の聯盟の前には常に極めて明瞭なりと。

其他哈爾賓に於ける調査と責任ある一波蘭人の談とを綜合すれは

英國の支那大總統政治顧問『シムプソン』、其の兄東支鐵道護路軍顧問『レノックス・シムプソン』は猶太人なり。

之を要するに前既に述へたる如く英米二國竝に其殖民地は猶太人の愛する避難地なりと稱する丈ありて、猶太人は英國内に多大の實權を占め得たり、從來は『チャムバーレン』『チャーチル』等の名士か最も權威ある著書又は言論を以て反猶太的態度を示したるも英國には露獨の如き壓迫は行はれさりしか如し、英國猶太人にして今後米國猶太と結び、愛蘭の『シンフェン』黨及ひ勞働者を操縱し英國皇室及ひ人民を腦ますこと甚しからされは英國の反猶太運動は大ならさるへし。

其四、獨　逸　國

千四百九十二年頃西班牙、葡萄牙の壓迫により放浪せる猶太人は獨逸に於ては先つ漢堡(ハンブルグ)に至りしか、其多くは相等の教育あり、且つ基督教に隱れて保護せられたるを以て、北歐に於ける奴隸的同胞の生活とは大に趣きを異にせり、千六百四十年以後に於ては『ブランデンブルグ』大選擧侯『フリードリッ

ヒ・ウイルヘルム』は、猶太人『ゴムペルツ』及『ソロモン・ヱリヤス』等を重用し、其の誠實なる援助に負ふ所尠からさりしなり。

千六百九十六年『ベックマン』は『タルムード』の出版權を獲得するに至れり。

墺國に於ては『マリヤ・テレーザ』は『アルスタイン』家及ひ『シンツアイマー』家等の猶太人に寵を賜ひ貴族に列せり。

獨逸に於ける猶太歷史に一異彩を放つは大哲學者『モーセス・メンデルスゾーン』なり（千七百二十九年生千七百八十六年死）彼の父は猶太敎會の記錄係なりしか其の敎訓の下に彼は年僅かに三才の頃より『タルムード』を研究し後鄕里『デサウ』市の猶太敎院に入り、年十四の時『フレンケル』敎授に從ひて伯林に遊へり、差當り一製糸業者の家庭敎師に住み込み、次て手代となり、終に共同者の位置に進めり、其間有力なる哲學者『レッシング』と交を結ひ、彼を助けたること少からさるのみならす、『哲學論』、『靈魂不滅論』其他を出版し一時に名聲を揚げ、第一流の哲學者となれり、而も彼は一般の生業と一般の哲學とに盡瘁せし傍ら、猶太敎の爲に盡すを忘れす、伯林の『ラビ』長『セルシエル・レヴィン』の求めに應し公然『フリートリッヒ』大王の命を受けて『タルムード』の獨逸譯に從事せり、正統派猶太は彼の言論を歡迎せしが、波蘭及漢堡等の方面よりは社會主義を含むものとして非難せられたり【註、猶太人と社會革命主義の關係に就き此の點に注意を要す】彼の感化は偉大なるものにして佛國革命は彼の死後三年を經て勃發したりと雖も、佛國に於ける革命前の思想界は全く彼の思想に支配せられたり。

此の如き狀態にて獨逸も亦遂に猶太人の民權を承認するに至れり。

此の如く猶太人に對する種々の制限法漸次撤廢せらるると共に、猶太人は漸次其國民性を喪ひ、猶太敎に對する信念亦從つて稀薄となりしは大に注意を加へて觀察するの要ありとす。中には全然基督敎に歸依せるもの少からず、獨逸に於ては『ハイネ』『ベルネ』『エドワルド・ガンス』『レール』作曲家『メンデルス・ゾーン』『ネアンデル』等の猶太大家は獨逸史上に獨逸人として其の名を知られたり。

爾來猶太寺院の禮拜の如き、亦大に舊式を改め主要なる集會には必す說敎者を置く事となり或る寺院には基督敎の如く『オルガン』をすら備へたる所あり、（尤も之は千八百十七年に至り非猶太人的革新なりとして禁止せられたり）一八四四年國禁の撤廢と共に『ラビ』會議開設せられ千八百七十二年には猶太研究高等學校設立せられ、五年を經て更に伯林に正統派猶太の『ラビ』神學校の設置を見たり。

千八百五十年普魯西憲法は、市民權は宗敎の如何に關係なき旨を宣明せり。

此の如く猶太人の自由は獨逸に於て逐次認められたりと雖とも尙未た公職に就くを許されさりしが、鐵血宰相『ビスマルク』か、『反猶太主義は馬鹿者の社會主義なり』と叫ふに至り、獨逸帝國建設の當初より公職に就く事を許されたり、然れとも精神的壓迫は猶繼續したるのみならす、政治的解放は部分的に過きす、即ち大戰前に於ける獨逸の對猶太情態は左の如し。

千九百十三年巴里發行猶太人『ジユール・ヒユレ』著『伯林』を通讀するとき著者は獨逸を以て精神上の猶太窟（ゲットー）となし、猶太人は獨逸に於て將校、大學敎授、司法官、外交官、及學生團員となるを得す、又紳士の『サルーン』には入れられさる國なりとなせり、著者『ヒユレ』の伯林に到著するや、警察官は

尾行し携行品に附き添ひ貸間に下宿すれは直に來て訊問を開く。

——何用にて來りしや

——商用なり

——君には其權利なし立去るを要す

——大學に入學の希望もあり

此に於て繁雜なる形式上の手續を了れは、二ケ月若くは三ケ月間の許可を與へ期限滿了の上は更に同一の手數を以て手續を繰返ささる可らす。

露獨國境附近には絕對に居住せしめす露國の革命時代には（日露戰役後の）普魯西に漸く二、三ケ月間滯在し得たのみ、注意すへきは希臘正敎を奉する露人か追ひ出されさる一事なり云々

右は伯林旅行に惡感想を懷きたる佛國猶太人か、感情上より多少潤色を加へたる點ありとするも、大體に於て法文以外に精神的壓迫を除き能はさりしことは、獨逸魂—猶太魂との隔絕大なる關係上事實と見るの外なからん、然るに全く之と反對に『カイゼル・ウィルヘルム』二世か大に猶太人に厚意を表したる事實は猶太人すら之を以て『カイゼル』か二個の面を有する代物として嘲ひ居れり曰く

『カイゼル』は普國軍人側に對しては、基督敎徒に非れは忠實なる人間に非すして普國軍の負ふへき重要なる任務を果すを得す、と敎ゆる一方に於て『ハムバーグ・アメリカン・ライン』會社長『ヘル・バリン』氏に對し親愛なる猶太人『Lieber Jude』を以て之を遇しつつありたり是れ單に此の大西洋上の大汽船會社か獨逸の致富に貢献すること大なれはなりと。

又曰く、然り近年の獨逸は露西亞の如く露骨なる猶太人虐待を行はさるは事實なり、是れ露國よりは猶太人の數少くして脅威を感せさると、又一には波蘭及露國より獨逸を通過して米國に向ふ多數の猶太人か、獨逸の汽船業に多大の利益を與ふれはなり。漢堡—亞米利加汽船會社の高級船員か、移住の途にある、憐むへき猶太人に對して何等の逆待を加へさるのみならす、他に是非共該會社の船に乘るへき理由あり、是れ同會社の切符を有せさる移民は獨逸國内を通過する權なけれはなり(英國猶太人 Zangwill 著 The War for the world の一節)

又千九百十六年三月二十日の巴里新聞 Information にも左の記事あり。

波蘭及露國より米國に渡航する猶太人か Lloyd Allemand 及び Hamburg America Line より買ふ切符の數は一年間に三百萬乃至四百萬に達す、此の夥しき旅客輸送を獨逸か一手に引受くることか、獨逸船舶業者をして英佛と競爭し得る至らしめたるものなり、故に英佛海運業者か、戰後に於て往時の如き繁榮を希はは、宜く政府を動かし、露國をして猶太人壓迫を中止せしむるを要す、是れ猶太人壓迫か獨逸の繁榮に資すれはなり云々。

之より大戰勃發後に於ける獨逸の猶太壓迫を說く順序なるか、之を善く了解する爲めに近世反猶太の泰斗『チャンバーレン』の人と爲りと彼の說とを略述するの要あり、何となれは大戰間並に大戰後の反猶太言論には彼の大著作より引用せるまの少からさるのみならす、彼の反猶太主義は哲學的根據を有し猶太の有識者にも耳を傾けしむる値あれはなり、『チャムバーレン』は其全名 Houston Stewart

Chamberlain と云ひ千八百三十六年英國に生る、海軍提督の子なり、若き時英國を出て、佛國『ヴェルサイユ』の學生となり次て『ジュネーブ』に遊學せしか、科學の研究を廢して佛國南部に、獨逸に、墺匈國に、轉々不治の病を靜養せさる可らさるに至り、此際より著述生活に入り、終に獨逸に歸化し『カイゼル・ヴィルヘルム』二世より獨逸に盡したる功勞の爲鐵十字勳章を授けられたり獨乙の反猶太主義を詳細に說明したるものは彼の有名なる著書『第十九世紀の創造』にして千五百三十一頁の大部册にして二卷に分たれ千八百九十九年(明治三十二年)に發行せらる獨文の原著千九百十七年始め迄に版を重ねたること幾十版既に十萬部以上を發兌せり、故に其讀者恐らく百萬に上らん、彼の著書よりの拔萃を讀みたるものを加ふれは、天下に幾何の讀者を有せしを想像するに足らん。

而して之か讀者は悉く著者の結論に首肯するを見れは如何に本書か獨乙(否世界)の反猶太思想涵養に益したるかを了解するに足らん。

猶太人は本書か眞面目なる點には敬服するも大部册にして、科學と直威、詩的と教科書的と、組織的と不秩序と雜然たる處、實に成上り國(五千六百年の歷史を誇る猶太人は五十年の獨乙を成上りと嘲りあり)には適當ならんも、要は豫言的の一著述なりと論評せり、彼等の立場より見れは此く論するは至當なるへきも猶太人自らの著書中に之を引用せる部分少からす以て其の權威を知るを得へし。

以下記載する哲理的論評を了解するには第二章第二節猶太教の十三信條等を玩味するの要あり。

『チャンバーレン』は『カント』(千七百二四十年生千八百四年死)の哲學を重んじ、彼を獨乙の民族主義反猶太主義の中心として述へて曰く『カントは新に來るへき世界に關する吾人の思想か之に賴らさる可らざる大盤石なり』

『カントは第二のルーテル、第二のコペルニックにして、外國より來る毒を吾人の血管より淸め去る事に努力したる人なり。』(「十九世紀の創造」一二六四頁)

又曰く、『科學者の氣風は逐次神を天地の創造と遠けつつあり、アリストートルは其の哲理にて科學と人類の自由とを壓迫しありたり』『若し時間(タイム)なるものか一つの型てあつて吾々の五感か否應無しに之を知覺して通つて行く丈のものてあつたとしたならは、長い々々歷史を持つて居る宗敎など半文の値もない又若し科學か、因果律なるものは吾人の知覺の範圍外に於て役立つへき何等の意義と何等の性質をも備へて居らぬことを確めるならは、神は天地と其の初動(第一原因)との說明に止まり何等の値なし』『又宇宙なるものの因て來る所を考へ、之か決定的原因なるものを求むれば、常に各種の矛盾か起つて、結局不明瞭となることを思へは、人か自分及他人に對する行ひの基礎は、宇宙を主宰する王(註、猶太敎にて王の字を用ゆ)に對する服從心とか、將來に於ける善果の報ひを得る爲とか云ふ事てなく、他に基礎を置かなけれはならぬ』

其他『グーデ』の『宇宙は吾々の內に住めり』とか『シルレル』の『人は自己の內に神格を有す』等の諸說を引きて曰く『神を已の內に求めよ、星の間に神はなしと云ふ如き說、又は神を信するは主觀的命令よりし、客觀的必要より起るものに非すとの說、又は神は心の內に經驗すへく器械的初動として之を懇願すへきものに非す、と云ふ如きは新き說にも非す』云々と說けり。

又猶太人の神は選民『イズラエル』民族の爲に喇叭の聲にて城壁を崩れしめ、該民族か復讎を終る迄は日も月も運行を止め(ヨシユヱ書第十三章)『モーセ』一族か紅海の沿岸にて埃及人の追擊を受け進退谷

まりしとき、一時縱隊路を海中に開きて一行を逃れしめたりと云ふ如きは、創造者なる神か、絕へす天然と歷史の上に奇蹟を以て干涉を加ふることとなり。必要と天然法則とを否認することとなると論評せり。

又基督敎の如き理想の敎は猶太敎の如き實質的宗敎と相容れさるを論して曰く、猶太敎は精神に於て眞情に於て神に仕ふるを以て足れりとせす儀式的の法典を嚴格に實行するを要求せり之か爲には生れ落ちてより死に至る迄儀式に沒頭せさる可らす又猶太人は心の聖きことよりも手足や食器なとの淸きに重きを置けるか如し、此の如くにして基督か此の現世にありと言へる天國は彼等の爲には此世に現はれさるなり即ち天國とは『イスラエル』民族か神の命により世界統一の約束出現したる所を指すか如くなれとも畢竟彼等か列國民を足下に跪かしめ地球上の主人公たらんとするは一場の夢に終るべしとて『エザイ』書六十章の豫言(本研究第二章第二節にあり)を揭け是地球上に現存する諸國民に對する陰謀なりと斷せり。

尙ほ『プロテスタント』の開祖『ルーテル』の極端なる反猶太主義を引用し之を敷演しあり。

『ルーテル』はカトリック』(天主敎)の生溫き反猶太を憤慨しあるものなれは左に天主敎の反猶太論を略述するを至當の順序とす、而て『チャムバーレン』の著書より三年前に發行せられたる天主敎僧正『ゲーロー』著 Antisemitism de Saint Thomas d' Aquin 第百〇四頁の一節を擧くれば。

『カトリック』敎か聖書の猶太時代の歷史上の眞理を信するは自然なり。

猶太人は基督を殺したるものにて即ち神殺しなり故に今日も將來も永く基督敎の敵なるへし。

基督教徒の或る命令には、猶太人は敵意を有する外國民族と見做し市民の有すへき政治上の權利を與へさるを要すとあり、然れとも彼等には禮拜の自由を許し彼等を虐待することなく生存せしむへきものなり、是れ基督の御思召なれはなり（註、十字架上に於て基督か神に向つて猶太人等を許し賜へ、彼等は其の爲す所を知らさるか爲なれはなりと祈りたる事を指すならん）、又猶太人か諸國に分散漂浪し過去の罪業に對する有らゆる艱難を甞むるは即ち贖罪の生きたる證明を爲しつつあるなり。

第十二世紀には佛國の天主教僧正 Pierre le Vénérable『ルイ』七世に上奏し十字軍の成効を祝したる後附加して曰く、猶太人は最も大なる基督教の敵にして『サラセン』人（回教徒）より不可なり、然れとも常に彼等を奴隷とし臆病なる不安なる狀態に置き、大なる苦痛を甞めしむるを要す。

天主教徒の對猶太政策は羅馬に於て今尙改められず、猶太教徒より羅馬法王に各種の依賴協議を行ふとき、法王は表面程善き返辭を與ふれとも、實は回答文の紙背に各種の嘲笑を含み、且つ基督の教へに從ふを慫慂する傾あり（猶太人憤慨の聲）。

【註】此の如き意味に於ける反猶太運動には基督教國ならさる日本帝國は何等干與するの必要なきは明なり、然れとも天下の大勢を知るには表面に現はれさる此の如き經緯を知るの必要あるを以て更に進んで『ルーテル』以下新教徒の反猶太論を展開せんとす。

『ルーテル』（千四百八十三年生）（千五百四十六年死）は羅馬『カトリック』教中に猶太教の影を認めたる後は一層深く猶太教を惡み、此の如き惡むへき宗教を世界に與へたる民族の殘黨を嫌惡せり即ち曰く。

若し神か猶太人の希望し、待ち焦れつつある救世主とは別のものを下されは、予は人間として生存せんより寧ろ豚として生存するを希ふ（猶太人「ゴイ」と云ひ猶太人以外の人をも此く呼ふと云ふ說「タルムード」の條に說明し置けり）豚は泥の中にて己れの好めるものを食ひ、汚きものを味ふ、又豚は泥の中に眠り鼾聲を發し、如何なる王侯の前をも憚らす。

死も地獄も、豚には何等の恐れとならす惡魔の恐怖政策も神の怒りも何のその、彼等には何の心配もなし、自分に與へらるる食糧の音を聞きても無頓着なり。

猶太人の望む救世主は此の豚の滿足の如き程の滿足をも與へさるへし。

彼等の個人の家を壞し、之を掠奪すへく、而て厩の中か又は『ボヘミヤ』人の如く單に天幕の中に棲まわしむへし。

彼等より祈禱書と『タルムード』を取り上げさるへからす、何となれは『タルムード』中には偶像崇拜虛僞、他民族に對する暴言、神に對する不敬を含めはなり。

猶太人には凡ての保護を與ふることを止め、國內の自由通行を禁せさるへからす。

又司法官諸子は猶太人に關する犯罪を處理する場合には最も嚴酷なる處刑を加へんことを望む、例へは醫術に於ても、奄綳や膏藥か効を奏せされは、切開か燒き附くるの外なきと同樣に、司法官か此の如き斷乎たる處置を執らんことを希ふ、猶太敎會は燒拂ふ可く、燒け殘りは砂と泥とにて覆ひ其内より瓦一枚石一個も取出し得さる如くすへし。

猶太人は强制的に勞働せしむへし若し此の方法にて効を奏せされは愈狂犬の如く之を放逐するの外

なし、是れ彼等と共に瀆神の途連れをなし神の怒りに觸れ永久の罪科を負ふを避くへき自衛の道なれはなり。

右は『チャンバーレン』か其著書の第八百八十一頁に記載せる所なるか之を事實とせは基督新敎の開祖『ルーテル』なるもの無智、短見、不正義なる一個の凡人なり、又英米の基督新敎徒は先つ敎祖『ルーテル』を破門したる後に非れは、琿春事件に於て日本軍か軍事の必要上、不逞鮮人の巢窟に利用されたる敎會に與へたる被害を大聲天下に呼號するの資格なきものなり又砂と泥とにて覆ひたるものは時の經過と共に洗ひ出されて恢復すへし。

哈爾賓に於て立派なる猶太寺院か新に建造せらる傍には、基督寺院か頽廢に委せられ、純露人か猶太人の事業に勞働者として働き、或は猶太人を乘せて馬車を馭しつつあるの實狀を目擊せは、四百年後の今日『ルーテル』を地下より起し、其加へたる壓迫か却て猶太人の事業に役立ちたるを覺らしむへきかな、素より宗敎革命を斷行する程の熱血男子『ルーテル』か、時の朝廷への積極的献策として奉れるものなれは筆端の奔る所終に之に至らしめたるならん、凡て世の革命を策するもの須らく三更萬籟の靜まるに及んて靜座默考し、空間時間の無限を考へ、蒸に切開と燒附け療法を用ゆることなく、徐々奄𢬵法と內服藥とを用ひ、根氣强く進むの宏量を養ふへきなり。

『チャムバーレン』も亦、彼の尊敬する『ルーテル』必すしも徹底約に猶太人を排斥せさりしを攻擊し基督敎は猶太歷史を載せたる舊約全書を全廢するに非れは常に猶太民族に捕はれ、眞に基督の意志を現はし得さるを說き、進んて基督は猶太人に非す彼の希臘の文明、羅馬の盛大を形作り『ホメレ』『プラ

トン』『フイディアス』『釋迦』『基督』『ポール』等を出せし、所謂『アリアン』民族に屬するを言明し特に聖徒『ポール』は『ベンジャミン』なる猶太貴族を父とし猶太宗に改宗したる希臘人を母とせることを明言せり。

以上は獨乙に生れたる反猶太思想の淵源と、猶太人に對する精神的壓迫の絶ゆることなき理由を説明せるか、之より近世猶太問題と不可分なる世界大戰間に於ける、猶太の獨乙に於ける情態を述へんとす

一、『シオン』團總本部の移轉と獨乙猶太の祖國に對する努力

大戰前猶太人は『シオン』團本部を伯林に置きたり『プープルジュイフ』なる猶太紙か千九百十六年九月十五日號に於て説明する所によれは是れ世界に散布せる猶太人に對する地理的關係上有利なりしを以てなりと然るに大戰勃發と共に、獨乙は列强の包圍を受け交通杜絶に陷りたるを以て、伯林に本部を置くの理由は玆に消滅して、何れか中立國に移ささる可らさるに至れり、即ち該『シオニストコングレス』の集會なきに至りたるを以て其實行委員は有名無實となり『國民基金』を伯林より和蘭の『ヘーグ』に移せり、而して米國に假委員會を設け以て『シオン』主義の中絶を豫防したるか、終に之にては不便多き爲ならん丁抹の首府『コッペンハーゲン』に一事務所を設け、其の管理に莫斯科猶太『チレーノフ』及『ワルシャウ』猶太『ソコロフ』其他の部より『モツキン』を擧けたり。

佛國猶太『スピール』か其著『猶太人と大戰』第三十五頁に本件に關し論する所によれは獨乙の國家主義は强權による國家主義にして聯合國の國家主義は正義による國家主義なるを以て全然反

對なり。

故に『シオニスト』の秘密なる考へは、聯合國側に當て嵌むるに都合善きは當然なりと雖とも、予は『シオニスト』の運動か平和再建の爲に猶太人仲間にすら何處迄成効するや、或は羅馬法王の努力により壓迫せらるることなきやを疑はさるを得す、千九百十六年の初め獨乙猶太は瑞西の新聞を通して各種の平和條件を提案したるも、是れ單に獨乙の爲に走狗の役を勉めたるに過きず云々。

と説き獨墺猶太か全く孤立して指導し難きに至りたるを遺憾とせり、尚獨乙戰勝の曉には完全なる猶太解放を行ふへしとの獨乙宣傳に乘せられ一般獨乙人以上に熱烈に獨乙の爲に働きたるものあり、猶太大學生中學生にて志願により從軍したるもの少からす、中には露西亞猶太か聯合國側の爲に働くを憤り、戰後彼等に何等の補助を與へさるへしと、敦圉(イキマク)ものすら生せり此くして『シオニスト』派猶太人は遂次獨乙より脱出するに至れり。

二、獨乙の猶太懷柔策

獨乙は開戰當初一方危險なる社會主義者を血祭りとせるか、一方は猶太人懷柔に着手し、波蘭の自治と共に猶太人の社會的位置を改良すへき約を與へ、以て一時非『シオニスト』派猶太人の同情を求め得たることは、前項末文にても明かなるか、事實上獨軍の波蘭侵入に當りては猶太解放者の立場に立てり、即ち市街の爆彈攻擊を行ふ前には、猶太解放を約する猶太文の宣傳『ビラ』を飛行機より撒き、又は間諜をして諸所に貼り出さしめ、以て猶太人を獨乙側に招きたり

占領の當初に於ては愛想の限りを盡せり。

『ロッヅ』に入りたる時は『カイゼル』皇帝自ら猶太寺院に臨幸せる事を全世界に宣傳せしめたり

獨乙猶太人は占領地に殘れる猶太人に各種の援助を與へたり。

又獨乙の占領地守備軍は『ワルショウ』の市會職員に十五人の猶太人を加ふるを許し且つ同市の秩序維持に任する民警には波蘭人と同様に猶太人を採用せり、勿論高級の位置には波蘭人を引當てたり。

獨乙政府は波蘭の國家主義者の波蘭語を以て唯一の國語と定められたき旨の請願を容れすして猶太人の『イデイッシユ』又は『ヘプライ』語を用ふるを許せり。

又『ワルショウ』に波蘭大學の開設を許すと同様に『ウイルナ』に猶太人の民間大學を設くるを許せり。

此の如く『カイゼル』を始めとし獨乙人は最初

一、猶太人半數以上の用語たる『イデイッシ』には獨乙語と同語原なる多數の言葉を有し謂はゆる同文なること。

二、隣國露西亞に於ては猶太人を虐待し波蘭に於ては猶太人に『ボイコット』を行ひ居ること。に鑑み、少く猶太人に同情を表すれは、彼等の懷柔は易々たるのみと考へて之に着手し、最初は相當に成効せしか、後に至り猶太人は何物よりも自己の『トラデイション』と過去の追憶を固執することを悟り到底之を同化して我掌中に收め得へき民族に非さることを了解せしを以て更に

其方策を變更するに至れり、即ち猶太と獨乙との神聖同盟は其の生命極めて短かかりしなり。千九百十六年二月十五日の『エコードルユスシイ』には『ベルリーネル、ターゲブラット』か波蘭及露西亞より約三、四百萬の猶太人を土耳其に送るへきことを宣傳し、次て同年七月六日の『イズラエル』は『ウインナ』に於ける會議の際、伯林の大學教授『ツエーリング』氏は波蘭に於ける獨乙の殖民政策は猶太人を同地より放逐し其の半部を米國に、半部を『パレスタイン』に送るにありと宣言するに至れる旨を報導せり。

米國も『パレスタイン』も獨逸の領土に非る限り此の如き强制的の移民は行ふを得す又『パレスタイン』方面には回敎徒の反對あり之に對しては獨乙の力にて或る程度迄は土耳其を壓迫し得るとするも餘りの壓迫を加ふるを得す。

終に此かる大移民は行はれさりしも壓迫の爲め猶太人は漸次露國內部に逃れたり、其數約三十四萬人に達すと云ふ。

此の如く獨乙か敢て猶太懷柔の意を飜へしたる譯には非るも、彼等に對して嚴重なる政策を取るに至りしは果して誰の罪なるやをも考へさる可らす、猶太人側に果して敵國に通したるゝの多からさりしや、聯合國側猶太は中立國の救濟委員と共に獨乙猶太に對して宣傳せる事實なしと確言し得へきや、米國のみの獨逸猶太救濟費約八百萬『マーク』に達せり（開戰當初より千九百十六年中頃迄）（千九百十六年六月十日猶太解放）

猶太人の雜誌『プープル・ジユイフ』の千九百十六年九月十日號には、猶太人に大學設立を許し

たる『ヴイルナ』に於て、猶太人三人は露探の嫌疑にて『リトヴイヤ』人十七名と共に捕縛せられ、軍法會議の結果絞殺の死刑を受けたりと自由せり。

大戰間に於ける獨逸と猶太との關係大略右の如し。戰後に於ては帝國猶太の註文の通り、獨逸も赤化し共和政府の建設となり、社會黨は有らゆる門戶を猶太人に開放したるを以て、多年民間にあつて時機を窺ひ居りし猶太系の有力者、有識者は續々要路に立つ事となりたり、今、戰後獨逸を視察し猶太問題の調査をなしたる田原禎次郞君か本年八月十五日の『實業の日本』に『猶太人の解剖』と題し寄書せられたるものゝ內より戰後の獨逸に關する一節を拔萃すれは左の如し。

猶太系の有力者、有識者は續々要路に立つことゝなり、戰爭の爲物價調節の必要上設けられた所謂戰時會社(クリエグスゲゼルシヤフト)には、猶太人系の實業家か實權を握つて戰爭成金となり時節到來、猶太人系か政治上にも經濟上にも相竝んて頗る有利優勢の位置に立つ事になつた、どうして社會黨や共產黨に猶太人か多いかと言ふに猶太人は元來非帝國主義、非侵略主義、非戰爭、非殖民主義の『デモクラチツク』『インターナショナル』な民種て社會黨に共鳴して加入するものゝ多き事は怪むに足らぬ、殊に獨逸始め各國て猶太人を政權から遠けて居た爲に、猶太人系の高材逸足者は社會黨や共產黨に投して隱忍自重、時節の到來を待つて居たので、待ては海路の日和とやら今度の世界戰に端なく遭遇して千歲の一時、奇貨乘ずへしと大に活動して內訌を企て、『ストライキ』を行ひ、軍人を惑はし軍費を削り、遂に軍閥主義の帝國を倒したので、獨逸の戰敗は

猶太人の陰謀なりと評されて居る、獨逸の敗戰は出征軍隊の背後から社會黨の加へたる短刀の結果なりと評されて居る、實際獨逸軍の連戰連勝は社會黨に取り頗る有難迷惑の話てあつたので若しも此の儘に全勝を得たならは軍閥は益々跋扈すへく自黨は益々壓迫さるへく、ドーカ餘り勝たない樣にとは彼等の以心傳心祈願して居つた所て、社會黨の領袖『ストレーベル』の如きは大膽にも獨逸軍の全勝は我國の利益に非す、社會黨中の博學者『カウツキー』は千九百十九年二月四日瑞西國都『ベルン』て『獨逸の勝たさりしは我國の幸福なりき、否らすんは我國民は長く軍閥の奴隷とならん』とまで公言して居る、要するに社會黨、共產黨に猶太人多く其の猶太人か世界的革命の有力な一動力てあつたことは掩ふ可らさる事實てあつた、露國『ソヴエト』政府に『レニン』始め猶太系の多い事は天下著名の事實てある、洪牙利の共產政府は『ベラグン』と云ふ猶太人なる共產主義者によつて建設せられ、獨逸聯邦『バイエルン』の共產政府も矢張り『アイスネル』なる猶太人によつて出來た、獨逸の革命に伴ふ共和政府も猶太人の牛耳を執つて居る社會共產黨（スパルタカス）により確立されたものてある、抑も社會主義の元祖てある『カール・マルクス』（註、千八百十八年生、千八百八十三年死）其人は既に猶太系て、又獨逸人てあるか獨逸の社會黨には由來猶太人多く有名な『リエブクネヒト』や『ロザ、ルクセンブルグ』も猶太人て千九百十八年十一月獨逸の帝政顚覆して共和政府となり社黨會か政治上の首腦者となつて政府を組織したときは獨逸政府も普魯西其他の聯邦政府も重なる國務大臣の椅子は殆んと猶太人の社會黨員て占めた即ち

一、獨逸政府

外務大臣　ハーゼ（獨立社會黨首領）
同次官　カウツキー（同黨員本來「チェック」の猶太人）
新聞局長　コーヘン
司法次官　コーン
同　ヘルツフエルド
大藏大臣　シノフエル
同次官　ベルンスタイン
內務大臣　プロエス（共和國憲法草案者）
同次官　フロエンド

一、普魯西政府
司法大臣　ローゼンフエルド
同次官　ハイネマン
大藏大臣　シモン
內務大臣　ヒルシ
農商務大臣　ブラウン
文部次官　プツシ（大成金デ猶太人「メンデルスゾーン」女婿）

一、バイエルン共和國

大統領　アイスネル

大藏大臣　ヤッフェ

商工大臣　プレンタノ（半猶太人）

一、ザックセン共和國

國務大臣　リビンスキー

同　シュワルツ

一、ウキルテンベルグ共和國

國務大臣　ハイマン

同　タールハイメル

一、ヘッセン共和國

ブルダー

尚最近の統計による猶太系獨逸人及獨逸に寄寓する猶太人を擧くれは左の如し。

猶太敎信仰の猶太人	六四〇、〇〇〇（「コーヘン」の調査にては六十一萬五千人とあり）
雜婚の猶太人	一八六、〇〇〇
基督敎洗禮を受けたる猶太人	四三〇、〇〇〇
移住寄留の猶太人	四八〇、〇〇〇
計	一、七三六、〇〇〇

普佛戰爭の頃には五十一萬二千百五十三人に過きさりしものか五十年間に此の如き數に達せるは注目に値す。

獨逸に於ては前記の如く反猶太の元祖『ルーテル』『チャムバーレン』等を出し其根底深く、又獨逸魂と猶太魂とは全く相容れさるを以て將來英米主義乃至猶太主義に反抗して起つへきものは歐洲に於ては獨逸を措て他に在らさるへく、又必す再起の日あらん。

其五、墺匈國

墺匈國は由來猶太人虐待を以て名ありしも『ヨゼフ』二世位に就き千七百八十三年對猶太人政策に大變更を來たせり即ち猶太人を夜間監視すること、一々旅行劵を持たされは國內をも旅行し得さる等の制限は廢せられ、又猶太人に商業美術科學等の研究を許し只た農業研究には多少の制限を附したりき、故に各大學及專門學校は彼等の爲に開放せられ又諸學校を設立して猶太人子弟に敎育を强制したりしか、居住權のみ猶は中々嚴重なりき。

墺匈國の此の猶太解放は、猶太人か功を樹てたる米國革命戰後二年、『メンデルスゾーン』の沒する三年前、佛國革命の六年前にして『メンデルスゾーン』等の努力により猶太勢力の頗る擧り來りし頃なるに注意を要す。

此くて墺國の猶太人は第十九世紀の大半特別なる制裁の下にありたり、千八百四十八年維也納以外の居住稅は低減せられしか、匈牙利の革命戰爭に參加したるの故を以て重稅を課せられたり、其後千八百六十八年遂に自由を得るに至れり、爾來政治上に於て猶太人壓迫はなかりしも精神的壓迫は盛んに

して近代に至る迄學生間に於ても對等には伍せられす、面に唾せらるゝも之に反抗し能はさりしなり然るに露國方面に於ても祖國復興の運動興りたる機運に乘し、『ウィン』の猶太記者『テオドルヘルツル』か千八百九十六年獨逸に英國に、猶太人の國家なる書を著はし所謂『シオニスム』なるものを鼓吹するに至り猶太人間に純然たる猶太解放の希望輝き來り、益々其團結を固ふするに至り、學生間に於ても他のものより罵詈を受くれは罵詈を以て、毆打を受くれは、毆打を以て之に酬ひ得るに至れり。此くて歐洲大戰に至り獨逸に於けるか如く著き反猶太熱は起らさりしも、墺國は獨逸と伍したる關係上世界猶太の憎みを受け、大戰終期に於て終に革命を見、從つて現今に於ては重要職に猶太人の就職を見るに至れり。即ち國務大臣に『バウエル』其他『ブリユーゲル』『ポールバツハ』等を有す。反猶太熱は獨逸程に熱烈には赴かさるへきも敗戰の恨みは愛國者より猶太人に向けらるへきは獨逸と異らさるへし。

其六、佛國

猶太人か心靈的覺醒をなしたるは普魯西を中心とする獨逸系猶太の運動なりしこと前既に述へたるか如し然れとも政治的解放に力ありたるは主として佛國なり。

佛國と雖も『シャル、』六世(自千三百八十年至千四百二十二年治世)の時には猶太人を追放せり、其後歸還者少かりしか西班牙、葡萄牙か千四百九十二年頃猶太追放を行ふに及ひ歸還し『ボルドウ』及『バイオン』(『ボルドウ』の側にて銃劍(バイオネット)の元祖なりとの説あり)に居を定め、其他羅馬法王の保護を受けて『アヴイニヨン』に殖民せるもあり。

『アヴィニオン』は『マルセイユ』の北方にあり文豪『ヴイクトルユーゴー』の行脚記に一も金、二も金、手荷物を一寸動かすにも金を要し、頗る不快なる感を與へらたりと特記せるは此土地なりと記憶す、此く『ボルドウ』『マルセイユ』附近の人氣惡き船著きに彼等の殖民せること丶、後日佛蘭西大革命の際大なる働きをなしたる『ジロンド』黨と、『マルセイエーズ』の革命歌を以て有名なる『マルセイユ』派の發生とに注意を要す。(『ジロンド』は『ボルドー』の位置する縣の名なり。)

千五百五十年に至り巴里にも歸還を始めたり。

尤も此の以前にも獨逸系猶太人にて佛國に歸化したる『カルメル』なるものあり此の保護を受け窃に巴里に居住せる獨逸猶太人あり。

千七百八十年『アルサース』の猶太人等は國王『ルイ』十六世に建白し通商及信仰に關し自由を求めたりしか聽許する所となり千七百八十四年人頭税は廢せられ居住の自由許さる、次て公民權獲得運動起り猶太人取扱法改正委員指定せられたり、此時代か即ち獨逸に於て『メンデルスゾーン』全盛時代にして又猶太人の盡力せる米國革命後三年、佛國大革命前五年なるに注意を要す。

千七百九十年即ち革命最中、佛國猶太人は大合同を試み時の議會に向つて平等公民權請求の建議をなしたりしに當初は多大の反抗を受けたりしか『ミラボー』等の努力功を奏し『アヴィニョン』に居住し何等佛國に有害なる行爲なかりし葡萄牙出の猶太人に公民權を與へられ次て翌千七百九十一年『タレーラン』の熱烈なる運動により在佛國全猶太民族は完全なる公民權を獲得せり。

革命成効後千七百九十五年に於ては憲法を以て議會の宣言を確認せり。之が爲猶太人は大なる滿足を

以て佛國に對するに至れり、素より革命戰爭の爲に盡す所少からざりし賜と云ふ可し。

佛國の猶太解放を確立したるものは大那翁なり、此の事は近世猶太史上に特筆すべき事件なり、實に那翁は埃及遠征の當時一度『パレスタイン』を征服して元との主に還さんとの燃ゆるが如き野心を抱懷せしは事實なり、然るに之を實行し得ざりしは、進んで彼の旗下に集まりし回敎徒の志願兵を失はんことを恐れたるならんとの說あり。

其後再び猶太人問題は持ち上れり、是れ『アルザース』の商人並保守派の宗敎家は曩に猶太人に與へたる市民權を撤廢せんことを請願せるを以てなり。即ち農民の無能に乘して之を煽動し、猶太人の權利を奪ひ、之によりて債務を踏み倒さんとせるなりと。

右は猶太人の記錄中にあるものなれども『アルサース』商人より見れば、『アルサース』の猶太人は金貸專業者なるが故に隨分悪辣なる手段を弄せしこと『ヴェニス』の商人の『シヤイロック』の如く、一般の嫌忌を受けありしやも知る可らず、

兎も角那翁は此の問題の解決に關する全責任を自己に負ふ事なく、猶太人をして解決せしめんとし、千八百〇六年佛、獨、伊の重立ちたる猶太人を佛國に召集し以て猶太主義が市民の要求と相容るゝ能はざるやを討議せしめたり、彼の心中には猶太分子をして一般人民と融合せしむるの希望を懷きしなり右會議は千八百〇六年七月二十五日巴里市役所に開かれ、會するもの百十一人にして、諮問事項十二ケ條ありしが、之に對し翌年更に『サネドラン』(Sanhedrin)『エルサレム』に於ける宗敎裁判の名を取れり）を召集することゝして解散せり翌千九百七年二月九日佛、獨、和蘭、伊各國より七十一名の代

表者巴里に集合し『ストラスブルグ』の『ラビ』『ダビデ・シンツハイム』議長となり凡ての形式を古代の宗教裁判に取り左の九ヶ條を議定せり。

一、千〇五十年の『オルムス』會議の法令に從ひ一夫多妻を禁す。

二、離婚は關係國の國法に照らして合法と認めたるものに限り之を許可す。

三、市民の禮式を以てするに非れは猶太人は結婚式を行ふを得す。基督敎徒との離婚は合法と認む宗敎的儀式を用ゆる能はさるも双方共破門せらるゝことなし

四、佛國猶太人は滿腔の誠意を以て佛國人を同胞として承認す。

五、宗敎の如何を問はす苟も造物主を神と信する者には正義博愛を以てすへし。

六、佛國に生れ佛國臣民として法律上の待遇を受くる猶太人は佛國を母國とすへし、國法を遵守すること。

七、最高會議は猶太人の子弟をして佛國に固着するか如き事業に從はしむることを力め又公益公德を尊重せしむること。軍隊勤務中は儀式を守ることを免除すること。

八、生活上の貸借には利子を附せさること、商業上の貸借には利子を制限すること。

九、右利子に關しては『タルムード』の明文を適用し、猶太人同士間に於けるものと他民族に對するものと同様なるへきこと。高利貸は全然之を禁すること。

右取極めを見るときは從來多年猶太人か他の民族より金を搾り上け以て金權支配の準備をなし居たり、この非難は辨護の餘地なし、尙第八項以下金利の事は大英百科全書には明記すれとも猶太人の著書には箇條書にせす之を『ボカシ』たる所恐らく民族の恥殊に『タルムード』に金利を定めあるを覆はんとするならん、尤も勤儉質素を敎ゆる宗敎としては或る程度迄人より金を借りる習慣を減する爲金利を命するは不都合とは言ひ難し、却て今日の共産的思想を打破すへき一神勅と見做すものあらん。

最高會議終了後那翁は右取極めを有効ならしむる爲千八百〇八年三月十七日附勅令を以て一の機關を組織し以て猶太部落間に其の權限を及ほし得しめたり。

此の機關は千九百〇五年迄存續せり（白耳義及『アルサース』には其後も繼續せり）

要するに那翁は猶太人の權利を擴張するには至らさりしも、之を確立したる功勞者なり、又彼か屢々猶太問題に沒頭せしを以て見れは、一世の英傑も之に頭腦を用ひたること察するに餘あり。其後佛國に於ける猶太の勢力は逐次增大し千八百三十一年（『シャル、』十世の時代）には那翁の遺志により、猶太寺院及『ラビ』にも基督敎寺院及僧侶と同樣國庫より補助を與ふる迄に至れり、『ラビ』は國法を守り忠君愛國の說敎をなすこととなり猶太敎の讚美歌にも忠君の氣分を加味するに立至れり。

此の如く佛國は旣に數十年前より猶太人を厚遇したるを以て猶太人中に文武の高官少からす『クレミウ』（一七九六年生一八八〇年死）『フォルド』『グーチョウ』等の諸大臣及び作曲家『マイエルベール』等を出し、近くは大戰間總理大臣兼陸軍大臣たりし數學家『パンルベ』大藏大臣『クロッツ』其他の大官少からす又大哲學者『ベルグソン』をも出したり。

大戰開始前の調査によれは佛軍將校團には左の猶太人ありたり。

将官　八　大佐　一四　中佐　二一　少佐　六八　大尉　一〇八

以上の如き狀況にて、佛國の空氣は猶太人に有利なりければ、全世界猶太同盟が體を爲すに至れるも亦佛國に於てせり、即ち千八百六十年巴里に猶太人虐待防止會なるもの起れり、之は當時近東にありし猶太人虐殺に刺擊せられて生れたるものにて、直に各國の反省を求むる迄の成効は得られさりしか、やがて『全世界猶太同盟』(Alliance Israélite Universelle.) となり、翌年一月一日には全世界に二萬五千の同志を有するに至れり

此の如きを以て歐洲に於ては英國に次き猶太人の住居し安き所なりし筈なるも、尙ほ精神的壓迫は大戰當時に於ても止まさるものあるを認めたり、例へは巴里の大富豪『カン』の『セーヌ』河畔に有する邸宅の如き列國の建築物と庭とを園內に作り、日本よりも各種の職人と材料とを取り寄せたるものなりと言ひ、豪奢を極めたれとも何時も訪問者なく寂寞たり、又佛軍中にイユパンと云ふ俗語あり、猶太人に對する罵詈の言葉に用ひられたるか最大の侮辱は『獨逸猶太』と云ふ意味の『イウパン・ボッシュ』と云ふにありたり。

又將校か食卓に於て政治と宗教との問題を論するを禁したることあり、是れ當然起るへき猶太敎に對する攻擊か猶太出身將校を離れしむるを慮りたるものと認められたり。

文學者『モーリス、バレスの如きは』猶太人は猿と犬との中間に位する動物なり、如何なる事をもなし、如何なる人にも仕ふ、人は之に大事を委せ、人は之に戲る!』と痛罵せり。

以上の如き狀態に拘はらす佛國猶太は開戰の當初より大に佛國の爲に盡すへきを叫へり、其叫ひの一端を擧くれは（『スピール』猶太人と戰爭第十七頁）

『ポール・ローウエルガール』なる猶太人『グスターブ・ヘルヴエ』氏に書を寄せて曰く。

貴兄等文筆を執るもの宜く佛國と其聯合國の爲戰ひ、之か爲天下に呼號せられよ、何となれは佛國の勝利は民族の解放にして……又『エルサレム』への歸還なり、單に理想に過きさりし『シオニスト』の夢か實現するなり、吾人佛蘭西猶太は須らく衷心より吾々の養家（佛蘭西を指す）の爲に盡ささる可らす、吾々の養家佛蘭西か、吾々に取り愛すへき理由は三重に存在す。

佛國は吾々の祖先を解放せり。

佛國は吾々の生れたる所吾々か調和善き其の文明を呼吸せる所なり。

佛國は其の理想か吾々の豫言者の夫れと兄弟なる國なれはなり。

此の如き叫ひは佛國猶太をして喜んて佛軍中に投せしめたり、佛國に住む猶太人の家庭より、少くも一人の出征軍人を出ささるものなからん、『アルゼリヤ』出の猶太婦人『ルルーシユ』は其の子息八人を出征せしめ、『ボヲック・トニイトン』氏は五子を出征せしめたり（千九百十五年四月九日猶太世界七一頁）『テユニス』『モロッコ』の諸國よりは多數の猶太志願兵を佛軍に送れり、故に開戰當初に於て阿弗利加獵兵ヴアーヴ聯隊及外國人志願兵聯隊の中には、約二割の猶太人を含み、第四十五師團及『モロッコ』師團中には三分の一乃至半數の猶太人を有する中隊あり、而て此等の師團は『マルヌ』會戰以來出征しあり其他巴里に於ては、八月初旬外國より移住して未た國籍を取らさる猶太人三色旗を樹て佛、猶兩文の宣傳文を掲

け、大行列を行ひ猶太青年たるもの須く恩誼ある佛國の國難に殉すへしとの意を宣傳せり。此に於て三四萬人の外國猶太人中より一萬人の猶太青年直に採用を志願せしか、體格檢査の上採用せられたるも、七、八千人に達せりと云ふ（「スピール」氏猶太人と大戰二十四頁）

此の事柄より考察すれは將來何者かの使嗾により日米開戰の不幸を見るの日に於ては佛國初め聯合國側の猶太人は米國の國難に殉する爲と稱して志願兵となつて米軍に入るもの頗る多きを豫想し置かさる可らす。

又我國の近傍に米國猶太人か同情を表する國家か成立するときは其國か直に參戰せさる迄も多數の志願兵を送り又は陰に米國を助くることは極めて有り得へき事と考へさる可らす。

既に述へたる所により、佛國は從來の歷史上より猶太人に最も好意を有する國の一にして、又猶太人の最も賴りとする國の一なり、然れとも具さに佛國內の空氣を觀察すれは、大戰末期迄猶ほ堅固なる帝國主義を持せるものあり、又大戰を勝利に導きし諸猛將、智略家中には、隨分堅固に加特利克敎を奉するものあるを以て、露獨兩國の如き露骨なる猶太人虐待は起らさる迄も、猶太か急進的に猶太主義の實現を企つる場合には、正理を以て猶太と爭ふ事は有り得へきことと信す、佛國か終始露國猶太の關係せる『ボルシエウイキ』政府に反感を有し來りし事は、以て其一端を語るものと云ふ可き歟。

其七、日本、支那

以上列擧せる諸國以外にも、相當に猶太人を有する國家あることを前節分布の條に於て既に述へたる所なり、然れとも直接吾人に關係少きを以て之を省略し一言支那に關ずる事を述へ、次に日本に及はんとす

支那には東　明帝の時（耶蘇紀元五十八年乃至七十六年）猶太人は河南の開封府附近に入り居住したりと云ふ（「コーヘン」著近世猶太生活第十一頁）

『ヴェルサイユ』會議に列したる一支那官吏の談も之に一致せり同官吏の談によれは其數約二千人なりしも二千年を經過する間には疾くに支那文化に同化し宗教、言語、文字、風習悉く捨て去り人種も亦全く混合し終りたれは、今は其の影をも止めすとて、支那の同化力の大なるを誇れり、果して之を眞とせは、河南開封附近の產なる袁世凱などには猶太人の血を交へさりしやとの想像も浮ひ來る次第なり、然れとも言語は殘らさるにせよ外貌上猶太らしきもの結婚によりて逐次增加し行くへき筈なるに、何等外貌上猶太に類似の支那人を見ることなき吾人の頭腦には、彼等は雜婚をなさす又支那全國に離散せすして終熄せるか、或は一時に儒者三千人を坑にするか如き斷ある英君より、異端邪說家として葬り去られたるに非すやとの疑も生す（支那研究者の研究說明に待つ）

現時の支那に於ける猶太勢力を說くには勢ひ外國猶太か如何に配置せらるるやを觀察せさる可らす支那全國に亘り現在居住する約二千人の內恐らく大部は上海方面の商權を掌握し居、ならん又『モリソン』『シムプソン』『ファーガソン』等支那政府顧問の中に幾何猶太の血を交へたるものあるやは明確ならざるも、少くも『シムプソン』兄弟は猶太人なるか如し而て昨大正九年彼の献する所の策は殆んと悉く實行せられたる所を以てすれは支那の政治に對する猶太勢力は單に表面上丈にても頗る大なるものなからさる可らす、又學校敎育家基督敎靑年會世話役にすら猶太人の入込みありと說くものある程なるを以て、支那學生の頭腦漸次猶太人に都合善く導かるるのみならす、學生の行動に至る迄支那

固有の特長を失ひつゝあるを覺ゆ、其他華北明星（ノースチャイナスター）其他英佛字新聞も猶太人の操縦するもの多く、『シムプソン』之が牛耳を執るを以て、最も重要なる言論機關は猶太人の手にありと謂ふ。

又孫逸仙の如き米國系南方派か、米國に於て不知不識の間に幾何猶太革命の思想を鼓吹せられたるかを考慮するときは、北の方中央政府の周圍に猶太の微風吹き、南方にも亦猶太風吹き荒む情態なるを以て、支那の南北融和は、內外の故障を取り去り猶太主義の露骨に行はれ得る日に至らは直に實行すへく、其迄は之に反對する分子の除去を徐々に行ふのみにて急遽に來ることなからん、而て猶太主義か目標とする所は遠くは宣統帝、近くは段祺瑞一派なりしか、次に來るへきは張勳一味の復辟派、張作霖其他の督軍の順番なり、之等の固老除去せられ、米國仕込み又は北京に於ける之等開化◎の學風に染みたる青二才か各省の上に立つの日は、即ち南北融和成り、支那か合衆國制度を取り（昨年支那を視察せし佛國元首相『パンルベ』か歸國後發表せる所見）得る日にして、支那の米國化、猶太化を實現し得るの時至らん。

日本は約四百人の猶太人英、米、獨、佛、露人の國籍にて東京、横濱、神戶、等に居住するも國籍を取りたる猶太人殆んと皆無ならんと考ふ（若干は結婚の爲に混入し其他英米人の永く日本に居住し歸化を許されたるものの中に猶太の血あるや否やは詳ならす）

故に前に述へたる列强の如くに、所謂獅子心中の蟲（?）なく此點に於て日本は頗る政治の單簡なる譯にて、朝鮮問題の如きは列國の猶太問題に比すれは易々たるのみと考ふ。

從て日本には根底ある猶太勢力なるもの無き筈なるか實は三箇の方面より既に侵入しあり。

一、猶太新聞『ジャパン、アドヴァタイザー』の如き言論機關及之に共鳴する傾きある邦字新聞雜誌（中には猶太解放より起りたる文字を日本に取り『解放』と名つくるものすらあり）。

二、社會黨、勞働黨を通して來る。

三、猶太人『マルクス』等の學說を授くる高等敎育より來るもの。

殊に日本人は英語を讀むもの多き爲英米の猶太人か我か大學敎授や社會黨中の學者に宣傳するに非すやとの疑を生する場合屢々あり。

然れとも日本の一般は未た猶太の眞情を解せす、世界の猶太禍を叫ふを以て『カイゼル』の黃禍を稱へたるに比し平然たるか如き學者すらあり、『チャンバーレン』其他の眞面目なる猶太研究書か日本の學者の手により研究せらるるに至れは日本人の覺醒を見るに至らん。

然らは無意識なから日本帝國の針路は事實上猶太の都合善き方に向へるや、否やと言へは、日に日に彼等の都合善き方に向ひつつありと斷言するを憚らす、其の是非に就ては次章に於て述ふる所あらんも茲には唯知多政府の責任ある一大官か四王天大佐との會談中日本か或る見えさる勢力の指導により動かされたりと言へることを繰返し置くに止めんとす。

前述の如きを以て我邦に起れる反猶太思想も單に我に害を及ほすの虞ありとするものなるか如し、果て然らは恰も馬か怪しきものの近寄るを見て何者とも見別けす之を蹴るの類にて、『チャン・バーレン』の如き纒りたる、哲學上の根據ある反猶太論の比に非すと謂ふへし尙後章に聊か愚見を開陳して大方の叱正を乞ふ所あらんとす。

第三節　猶太人の新傾向（しおにずむ）

此迄說ける所に從へは全世界の猶太人千三百萬人は勿論、混血兒を交へたる之以上の猶太系のものは、全く同胞にして同心一體のなるか如く見えたるならんも、如何に猶太人か神秘的の人種なりと雖も何等の異說なきに非す左に今日迄現はれたる分類の趨勢を說き將來の趨勢を判定するの資に供せんとす。

猶太人か五千六百八十二年の古き歷史を有し今尙ほ其の信する所を改めす外部よりの迫害彌々甚だしけれは其結束彌々堅固なりしは世界の謎として驚嘆に値する所なり、然るに近世に至り猶太人の一部に多少思想の動搖を生じたるは、西歐の物質的文化科學發達の爲なり。

從來猶太人は聖典に敎へられたる通りに救世主（メッシャ）か降來すへく、而して其は完全なる人格を備へたる救世主にして『パレスタイン』を復興し茲に先祖傳來の國民的生活を爲すに至ると確信し、現今放浪生活をなし難行苦行をなしつつあるは吾等祖先の罪科の酬ひにて之は致方なし之を堪へ得れは即ち造物主たる神は我等積年の希望を達成せしめ賜ふものと信しつつありしなり、然るに西歐文化殊に科學の發達は其督敎徒中に懷疑派を生したると同樣猶太敎徒にも亦不信の徒を生し、無神論者を出すに至れり、無神論者と迄は脫線せさるも、救世主の降臨は人格を備へたる人に非すして他の神秘的のものなるへく、「吾人の放浪は全く壓迫虐待等人爲的の事柄にして神の試練に非す、既に放浪か人爲的なる以上は之を人爲的に矯正する方法なるか可らす、即ち吾人は自己の努力により『パレスタイン』を復興し

茲に民族的生活を營まんと云ふにあり、即ち前者は神秘的他力本願にして、後者は現實的自力本願なり。

第三者より觀れは孰れも一方に偏する議論にして東洋の所謂人事を盡して天命を待つと云ひ、西洋の汝を助けよ、天汝を助けんと云へるが完全なる觀方にして前記猶太の兩者を綜合して始めて完璧を期し得へきか、右の如く『シオニズム』の主とする所は何時迄も茫漠たる夢の如き豫言に民族國家の再建を希ふときは徒らに時間を空費し、其間外界の惡風は猶太人の信仰を破壞し、民族的結合を破るの虞あるを以て兎も角何れかに結合の核心を目に見ゆる所に形造らさる可らす、而して之には祖先發生の聖地『パレスタイン』の復興を以て最も適當なるものと考ふるにあり、此の事業を唱へ初めしは、千八百十八年米國の Modecai Mannel Noah なりしか實際『パレスタイン』に小規模ながらも殖民を行ひ、米國猶太『ノア』の理想を實現せしは、千八百七十年 Mikveh Israel に於ける農學校内のユニオン、イズラエリット』なる猶太協會の手にて始まれり其後十年を經千八百八十四年 Choverei Zion 即ち『チオンの敬愛者』と云ふ協會は尚一層大規模に之を行ふこととなり之には『ロスチャイルド』男爵補助を與へたり又千八百八十二年の頃、露國にも此の種の運動起り、猶太學生及愛國者等は『パレスタイン』に祖國の旗を飜へさんことを謀り、率先殖民を試みたるものあり、此等開拓者は古代希伯語を復活せしめ、之を以て新『パレスタイン』の國語たらしむ可しと宣言せり、勿論彼等は千辛萬苦せしが露國『シオン』後援會は陰に陽に彼等を援助せしかは、彼等の希望は漸次其歩を進め居れり、又西歐にありては平等の權利を獲得せる猶太人は隨所に其頭角を露はし、商工業、政治、經濟並に學術諸方面に牛耳を

掌握したりしを以て、玆に反猶太思想再ひ勃興し、獨逸より始まり佛國に威を振ひ墺匈國羅馬尼及露西亞に擴かり露西亞に於て猛烈なりしこと前既に各國の部に於て述へたる所なり、然るに此反動として猶太人の愛國熱は著しく勃興し來れり。

時に維也納生れの『ヘルツル』博士(『ノイエ、フライエ、プレッス』の文學部長)なるもの新聞通信員として巴里にありしとき彼の同胞にして『ヱミール、ゾラ』の友人なる猶太人佛國砲兵大尉『ドレフユース』の冤罪を蒙り國法に照し處刑を受けたるに憤慨し(冤罪なりしや否やは後に論する所あるへし)民族解放の爲一生を犧牲にせんと決心するに至れり、千八百九十六年獨、英、佛に現はれたる『猶太人の國家』なる冊子の著者は即ち彼れ『テオドル、ヘルツル』博士なり、此小冊子は飛ふか如くに賣り盡されて又各國語に飜譯され全歐洲の到る所に讀まれたり。

『ヘルツル』博士か與へたる此の衝動か如何に當時の猶太人に響きたるやに關し千九百十五年巴里より現はれたる『ハプスブルグ』家の帝政』なる書中に著者『アンリー、ウイツクハム、スティード』の叙述せる所を引用するは强ち無益に非るへし。

『ノイエ、フライエ、プレッス』の文學部長『テオドル、ヘルツル』か『シオン』運動の初動を與ふるや、墺匈國の知識階級に屬する青年猶太人は全く岐路の上に立たしめられたり、即ち從來外界との接觸により父祖傳來の信仰は薄らき、『タルムード』か結ひたる束縛の鐵鎖は除かれ、而て之に代るへきものは懷疑哲學の外何者も無く、而も其の懷疑は日を追ふて破廉耻的に進みたりしなり、多くの猶太青年は其本來の自然を離れ去り、滔々して『ゼルマニスム』に合一するの傾向を有したり、政治上

思想上心中より獨墺人と成り濟ましたるもの少かちす、然るに一青年あり多年經驗の結果猶太人は終に『チウトン』人たる能はす、『エテイオピヤ』人は終に其皮膚を更へ得ざる事恰も豹か其班點を去り能はさると同じきことを自覺し、煩悶の結果自殺せり。

此の如き薄志弱行の輩に向つては『ヘルツル』の打てる警鐘は眞に天來の福音と響けるなり猶太青年は之に依りて自尊心を得、民族過去の譽れと其金剛心と其傳統（トラディション）と其勝利と其の艱難と其迫害と其抵抗力とを以て却て誇りとするに至れり之より以後は世界を正視し、精神上、智識上豐富なる眞理を取り、基督教に多數の聖人を與へ、世界人類の半數に一神教を傳へ、永久的に其思想にて世界の文明を養び、近世商業取引の遣り方を割り出し、優秀なる藝術家、俳優、歌妓、文學者を如何なる他の民族よりも多く文明世界に供給したる猶太民族に屬することを誇りとするに至れり。

『シオニスト』の火花を以て點火せる導火藥の燃燒は以上の如き狀態となれり。

右點火の効果は『ウイン』大學生中に最も迅速に最も適確に及ほせり。

其當時迄は猶太大學生は輕侮せられ時には虐待せられたり、職業に就くには膝を屈し主義の鋒鋩を現はさす、極めて程よく又は特別の保護引立によるに非れは不成効に終りしなり、『アリアン』人種の學生より打たれ又は面に唾せらるるも直に鐵拳又は嘲罵を以て之と抗爭するは極めて稀なりき。

然るに『シオニズム』は彼等に勇氣を與へ彼等は協會を形作り體育を興し劍術を修むるに至れり、之より罵詈には罵詈を以て答へ、驟て獨逸の劍士も猶太青年か『チウトン』青年と決鬪して對手を傷け得ることを悟り、又猶太學生か大學の最良射手と爲りたるに氣付けり、今日に於ては『シオニスト』

學生の特別なる赤頭巾は他は大學生組合のものと同樣に尊敬を受くるに至れり。此の如く勢力を得たるは獨り大學生に止まらす、他の猶太青年も亦正面を向ひ頭を眞直にして歩み彼等の祖先を顧み民族の將來を考へ得るに至れり云々。

『ヘルツル』博士は猶太人的熱血男兒にして土耳其帝政下に『パレスタイン』共和國を建設せんと考へ盛に『パレスタイン』行を慫慂せり此關係に就て『イズラエル、コーヘン』は其著書『近世猶太生活』第三百二十九頁中に宗敎的博愛的運動は民族的政治的運動となり——Chovevei Zionism が政治『シオニズム』に變態せりと論せり。

The religions philantoropic mouvement became a national political mouvement,
Chovevei Zionism becamea Political Zionism.

『ヘルツル』博士の呼號は忽ち世界的となり翌千八百九十七年には瑞西『バーゼル』に全世界猶太人の第一回代表會開催せられ、『ヘルツル』之か議長となれり此際政治的『シオン』團は愈々猶太人の爲に『パレスタイン』國を建設すへしとの目的を公表せり。

此の宣傳は二十箇國の言語にて盛に世界各地に行はれしか露國、波蘭及羅馬尼は猶太人の多數なると官憲の猶太壓迫盛なる丈白熱の度甚しかりき。

『ヘルツル』博士は土耳其帝、羅馬法王及英露兩國公使と會見したるも、土耳其より『パレスタイン』を猶太人自治下に分離することは失敗に終れり此に於て英國政府は殖民地として東亞弗利加の一部を提供し同博士は之を諒とせしも東歐の『シオン』團員過半數を占めて之に反對せしかは此問題は不成立に

了れり。

千九百〇四年『ヘルツル』博士永眠し『シオン』運動は茲に一時混亂中絶の姿となれり但し『パレスタイン』には逐次小規模の基礎固まり、『ヘブライ』語の新聞雜誌發刊せられ、近代詩人小說家劇曲家等の之に共鳴したるあり。

從來『シオン』團の總本山たる世界『シオニスト』協會は、唱導者『ヘルツル』博士の關係上維也納にありしか、博士の沒後倫敦に移り後ち又伯林に移りたる事情は先に獨逸に於ける猶太勢力を說くに方り說明したる所なるか其後英、米、佛、獨、露、墺、伊、瑞西、白耳義、和蘭、土耳其、羅馬尼、勃牙利埃及、南阿、及『アルゼンチン』諸國には『シオニスト』協會の支部、更に各地方には又其の支部を置くに至り漸次統一的に赴くの傾向を生しつつありたり。

此くて大戰は至れり『シオニスト』の總本山は中立國和蘭の海牙に移れり。

大戰間に於ける英、米、猶太か如何に其政府を動かし猶太解放に努力せしかは前節に說ける所にして一般猶太民族解放に百步を進めたるは明かなり殊に反猶太的態度を持せし露西亞、獨逸等の崩壞は猶太人に取り非常の幸福を齎らしたるか、之以外に尙は看過すへからさる獲物ありたり、即ち土耳其か獨逸側に立つに至り、而も敗戰に終りたる關係上英國か土耳其を壓迫するに便となりたること是なり。

猶太人が『ガリポリ』半島方面作戰には進んで志願し英軍に從軍したること、竝に其後米國及英本國よりも猶太人の志願兵か英國『アレンビー』將軍の麾下に入り奮鬪したるは全く右『シオニスム』の運動に熱中し、聖地恢復『パレスタイン』復興の實現を希ひたる爲なること明なり（「猶太人」レーヴィン著「新復活民族」）世の歐

洲戰史を研究するもの宜しく一般戰畧戰術上の著眼以外に、列强政府を動かし得る猶太人の利害問題をも觀察するの必要あり、況んや其後の西伯利出征戰史の研究に於ては其必要一層大なりとす。

尙『シオン』運動に一大動力を與へたるは英國にして、千九百十七年十一月二日、時の外務大臣『バルフォア』は猶太人『ロスチャイルド』卿に左の宣言を與へたり。

英國國王陛下の政府は猶太人か『パレスタイン』に一の國家を建設することを承認し、且つ此の目的を貫徹せしむる爲に助力を與ふへし但し之か爲『パレスタイン』に現住する猶太人以外の人民の市民權及宗敎上の權利を侵害すること無かるへく、併せて諸外國にて猶太人の亨有する權利及政治的位置を害ふか如き何事をも爲すに非さることを明言す。

之と同時に『バルフォア』は『ロスチャイルド』卿に書を贈り、右宣言は『シオニスト』に周知せしめられ度旨を附言せり。

之と同樣の保障は佛國、伊太利、希臘、『セルビヤ』、和蘭、『シャム』の諸政府より附與せられ、最後に米國は土耳其に對し交戰狀態に非りしも『ウィルソン』大統領は亦同樣の厚意を表せり。

此くて猶太人の『パレスタイン』復興運動は世界大戰の禍に乘して成効の途に向ひたり、昨大正九年二月一日米國の『シオニスト』一派か『ペンシルヴアニア、ホテル』に米國海軍大臣『ダニヱル』氏を招待し晩餐會を開きたる席上米國知名の大銀行家にして世界の財的方面に於ける猶太勢力の第一流代表者たる『シッフ』氏か爲したる演說に曰く。

『パレスタイン』竝に『シオン』問題に於て、『マック』氏と余との間に意見の一致を缺ひたのは、遠き

以前の事てはなかつた、而も今日余は當日の『マック』氏の一言一句に悉く同意を表しようとする、其の何故に然るやは余の玆に言ふを欲せぬ所てあり又玆に論するを要せぬ所てある、唯吾人の最近に逢着した恐怖すへき事件即ち世界大戰爭か『パレスタイン』問題を解決し了つたことを言へは足る。

猶太建國の事は今日にては最早論議すへきでない、吾人は英國の主權の下に立つ猶太本國以外更に多くを望まぬ、吾人は唯之を以て滿足すへきてあつて、遠き將來の事詳しく言へは『パレスタイン』に猶太本國建設以後に於ける猶太人の政治的地位の發展如何と云ふか如き將來の事を全く考慮の外に置こうとする。

熱心なる國家主義者なる諸君よ、諸君は若し正當と信する有らゆる目的を達せんとせらるるならば今日は寧ろ單に『パレスタイン』に本國建設の爲、全力を擧けて努力しつつある人々に金錢上の助力を與ふるに止めらるるに如かす、此は一種の反語のやうにも聞えるが而も疑ふ可らさる眞理てある

諸君よ、試に今日當地を去りて諸方に遊説し、聲を大にして吾人か『猶太國』建設の爲め『パレスタイン』を指して移動し居ることを公言せられよ、諸君の此の行動は軈がて『猶太本國』建設すら不可能に終らしむるてあろう(中略)『パレスタイン』に猶太本國を建設することは二十世紀間に亘りての憧憬てあつた、吾人猶太人の現在住居する土地か眞の本國てないことは、今や既定の事實となつた余は之に就て何等の理由を究めようともせぬ(中略)要するに今日の吾人には『シオニスト』問題は既に問題ては無い、吾人の須らく諸君と力を戮はせて解決すへき問題は即ち『パレスタイン』問題てあ

る云々。

右の演說は聽衆に大なる感動を與へ『パレスタイン』復興會基金への寄附金、其會合の席上に一萬弗なりしもの右の演說にて忽ち三萬五千弗に上れりと云ふ、以て米國猶太の『パレスタイン』問題に對する趨向と、『シオニスト』中の『パレスタイン』復興派の、差當りの目的を察知するに足ると共に、他に『シオン』團の目的は『パレスタイン』復興のみに非すして之以上のものあること明瞭なり。

尙ほ前記『バルフォア』の宣言と『シッフ』の演說とを確め、世界大戰か猶太問題を解決し了れりとの放言を裏書するかの如くに見ゆるは、昨年四月二十五日『サンレモ』會議にて議定を見たる聯合國對土耳其條約の第三章に『パレスタイン』を『メソポタミヤ』『シリヤ』と共に英國の委任統治に附する議決にて英國か變心せさる以上は、之にて國際的に猶太人の『パレスタイン』復興は保證せらるるに至りしなり、然るに此處に障害をなすは同地方の回敎徒と基督敎徒なり回敎徒は同地方に於て多數を占め且つ『ヱルサレム』は亞剌比亞人の目して『メジナ』以上の聖地と見做す所にして之を全然猶太人の手に委するを欲せす當地方に於て接觸する貴族、有識階級の亞剌比亞人は勿論、低級の回敎徒に至る迄、猶太人の『パレスタイン』復興を喜はす、爲に昨年度に於ても猶太人に對する回敎徒の壓迫『ポグロム』の報屢々傳はれり、若し英國にして正統なる委任統治權を行使して亞剌比人を壓迫し猶太人を保護せんか、回敎徒は忽ち起つて英國に反抗すべく獨逸側は回敎徒を使嗾して『アフガニスタン』波斯は勿論印度の回敎徒を叛亂せしめ、以て英國の存在を危せんとするに至るへし、哈爾賓『パレスタイン』復興會のある有力者か日本の官憲に對し、日本政府か『パレスタイン』復興運動に支援を與へらんことを希

望せしか如きは、彼等の苦衷を示するに充分なりとす、

此上英國政府か自己の對猶太政策即ち『パレスタイン』復興政策を實現せんとせは勞農政府内の猶太分子と結んて同政府を抱き入れ以て過激派か獨逸と共に中東に於ける回敎徒を操縱せさる如く妥協するの外なし。

然らは勞農露國内の猶太分子は果して『シオン』團運動を如何に見るや單に『シオン』團の宣傳のみを讀みたるものの目には、『シッフ』の演說の如く『シオン』運動の可否等は旣に問題に非すして『パレスタイン』の復興を如何にすへきやの實行問題のみか猶太人間の問題なるか如く考ふるものあらんも、是れ大なる誤なり、此に於て現在猶太人間政見の相違を叙し之に對する觀察を述へんとす、而て哈爾賓に起れる確實なる事實を以て立證せんとす。

大正十年初め哈爾賓の猶太協會に議員選擧あり、造物主たる唯一の神を信ずるに於て一致團結せる彼等猶太人も政見には各種の相違ありて左の九派を生せり。

一　第一『アフドウス』（合同派一名舊敎派）

二　第二『アフドウス』（馬家溝合同派）

三　『アフドウヘブレチリン』（宗敎合同派）

以上三種は右の細別あるも、要するに一致團結を主義とし多くは相當年配以上の堅固なる信神家なり、即ち人格を備へたる救世主の降來を堅く信仰す。

四　『ユデイシエス・フオルクス・バルチイ』（猶太國民黨）今より二年前『シオニスト』より分れ別に一派

をなすに至れり中立にして猶太民族の結合を圖り常に圓滿を信條とす、從つて破壞に反對する譯なり

五　『シオニスト』　（『パレスタイン』復興派）

六　『ポアレイチオン』　（社會民主黨）

七　無所屬

八　『ツエイレチオン』　（『ジオニスト』社會黨）

右四團隊は何れも『シオニスト』なるか、五、には資本家多く、六、七は社會民主主義なり　（Poalei-Zion）とは『ヘブリウ』語にて『シオン』の勞働者と云ふ意なり）、社會主義を『パレスタイン』に行ふを以て滿足する一派なり。

凡て此等の『コムニスト、グルーブス』（Communist groups）は猶太解放を以て歴史上よりする絕對の必要と認むる事は何れも執拗に唱導する所なるか、何時、如何にして猶太壓迫を全然終熄せしむへきやに關し猛烈なる論戰を交へつつありたり、然れとも一度外部より生活の脅威を受くるか如き場合には墻に鬩ぐを止め、相結束し、不成効もありしか革命騷動を以て外敵に對し自衞の處置を講し來りしなり。

（ゴーヘン著新猶太生活百七十九頁）

九、『ブンド』　（極左黨）

『ブンド』とは千八百九十七年創設せられたる Allgemeiner Jüdischer Arbeiter Bund in Russland Polen und Littauen の略稱なり、絕えす露國の猶太人居住地域に社會主義の宣傳文を送り熱心宣傳の結果、千九百〇五年には旣に三萬人の組合員を有するに至れり、勿論『コムムニスト、グル

ープ』に屬す（「コーヘン」著近世猶太生活第百七十八頁）今日極東に於ける過激主義の猶太人は概ね皆之に屬す。

而して右の猶太協會議員選擧運動は白熱し『コップ』の投合ひを生したることは前既に記せる所なるか、各黨各々宣言書を猶太人間に配布せり當時入手し得たる四種の宣傳文は單に彼等の分類を知るに必要なるのみならす猶太人と過激派との關係、英國の猶太同情に對する猶太人一派の觀察、從て英露關係行惱みの眞想等をも窺ひ知るを得るものと認め左に掲載す。

一、『ブンド』の宣言

今日の社會は『ブールジョア』と『プロレタリア』との二階級に區分するを得、而して猶太國を復興し政府を樹てんとするものは、貧民擁護の假面を被れる資本家の手先なり、猶太人の全勢力は資本家打破に集中せさる可らす。

『パレスタイン』に猶太國政府を建てんことを劃策せる『ロイドジョージ』『バルフォーア』『ミールラン』等は猶太人を盲人と認めあるならん。

猶太人は須らく赤旗を押立て資本主義と戰はさる可らす。

猶太勞働者を擁護するものは、『ブンド』以外にあることなし、彼の『シオン』團なるものは唯英國の利益を主眼として猶太人の利益を無視し勞働者を奴隷視しつつあり、吾人は飽く迄彼等を排斥せさる可らす。

波蘭の一責任者の談によれは英國か『パレスタイン』復興によつて享くる利益中には地中海沿岸『ヤーファ』港を英國港となすことを含むと云ふ、此の港は行く行く軍港に改め『ジブラル

タル』『マルタ』と相俟ち地中海の要點を占め殊に『ヤーフア』には『スエズ』を扼守する重任を與ふるものなりと、疑はしきも參考迄。

二、『シオニスト』派の宣言

異邦に離散しある猶太人は、悉く其所在に於て自治機關を設け『パレスタイン』復興建國事業に從事するを以て猶太民族に對する義務とせさる可らす。

猶太自治團は民主主義にして自治制を採り獨立獨歩ならさる可らす。

『シオニスト』派の着手せんとする事業左の如し。

イ、猶太人教育文化の普及を計る爲學校及體育養成の機關を設け、猶太固有の學藝及猶太語を習得せしむること。

ロ、宗教々育の普及を計ること。

ハ、猶太人か職業に就き殊に農業に關する便利を計ること。

ニ、本國の移民を援助すること。

ホ、建國事業に盡力すること。

ヘ、簡易食堂及宿舍を設け勞働者を援助すること。

三、無所屬黨の宣言

猶太民族の生命は其の歷史と密接なる關係を有す、現下社會的變化激烈なるに拘らす民族精神の要求たる宗教は、猶太民族團結の重要なる基礎なり。

故に吾人は猶太敎を援助せさるへからす敎育の發達を計り少年少女を無料就學せしむるを要す、語學は民族の精神たる猶太語を敎授し倘必要に應し外國語を敎授せさるへからす。之か爲中學校、猶太敎會、幼稚園の發達を援助し夜學校竝に職業學校の開設を期す貧民救助の爲病院、養老院、及宿泊所の完備を期し食堂、情報局、移民局を開設す。極東に於ける猶太人の中心たる哈爾賓にある吾人は常に民族の利益を保護し不利益を排するに努力せさる可らす。

四

猶太國民黨（ユーディシエスフオルクスパルチー）の宣言

吾人の行動の出發點は人類か人類の束縛を脫したる人類個人の理想にあり、此の理想に導かれて猶太國民黨は自由民主黨と相提携して猶太民族の精神界に於ける民主々義と自決主義とを主張せんとす、蓋し民主黨の主張を實施することは猶太民族の發展となれはなり。

以上通說する所により猶太の新傾向『シオニズム』なるものか英國の支援者並に『シオニスト』自身の考ふる如く單簡なるものにあらすして種々複雜なるものなることを了解し得へし。

而して『コーヘン』自身も自白せる如く之等の區分は畢竟內部の區分に過きす若し外部に對するときは全く打て一丸となし得るものにしにして、全然仇敵の如きものに非す、軍の編制に譬ふれは、歩騎砲工輜重の各兵科と航空兵科とを有するか如し、縱隊と全く離れて航空隊か側方に活動するを見て航空隊か脫走せりと言はは誰か其の愚を笑はさらんや、挺進したる航空機か友軍の方に向て歸航するを見て敵に通し友軍を攻擊するものと判斷せは誰か其の無智に驚かさらんや『ブンド』か即ち其航空隊ならさるや、帝國に於ても平時陸軍は陸軍の爲に說き海軍は海主陸從を說き各々已れの任務遂行上に必要

なる宣傳に努むる場合あるへきも、一旦緩急の生するに方てや、陸海協同作戰は完全に行はれ、以て交戰の目的を達したるは史乘に明かなる所なり。

尙此關係に就ては後節に於て詳論し以て世の猶太人を誤解し輕視するものの參考に資する所あるへし

第四節　猶太人とマツソン結社

『マツソン』結社の研究に就ては、吉野博士の纂輯に係る『政治研究』の一部として、管村道太郎君の論文『フリー、メーソンリーの研究』なるもの簡にして要を盡しあり、又時々博士自らか『メーソン』の爲めに辨護の勞を取り、何等危險なる結社に非すと斷定し、殊に之を猶太問題、過激派問題に結ひ付くるは荒唐無稽の臆說にして反動派、宗敎家、帝政主義者又は軍閥擁護者の、爲にする宣傳なりと斷定し博士も機會あらは之に入會するの希望を有する事迄縷述し『マツソン』の秘密なるものは何等危險性を帶ぶるものに非すと保證せり、之は最高學府に敎授たる博士としては聊か輕卒にして世を誤り、國を亂すの虞あるやを感し、猶太人研究の傍ら出で來りたる『マツソン』結社問題を略述して猶太と之との關係を研究せんとす素より秘密結社の內容なれは到底尋常一樣の手段にて窺ひ知るへきに非す、吉野博士か未た入社もせす其の第一階級たる徒弟にも身を置かすして、單に書物の上にて秘密の本體を了解し、危險に非すと證明書を與へたる煌々たる明智と其大膽に敬服せさるを得す、吾人は未た研究を終らさるか故に其秘密は危險なり共安全なるものなりとも斷定を敢てせす、譬へは淺田宗伯家の淺田飴には一子相傳の秘密あれはとて之を發賣する淺田家を危險視するは過ちなり、淺田家は濟世の事業を

なし社會を益するとせば之に感謝せざる可らず、然るに茲に立派なる能書を茲へたる金看板を掲げ、普通の賣藥を賣る傍、阿片の密賣又は極めて陰密に鴆毒の小賣をなす藥種商ありと假定し、世間が起て毒の出所は此の藥種屋らしと攻擊するとき、學者先生あり、其の金看板の橫文字を讀み得たる爲世間に向て證明して曰く、此藥種屋にはさる秘密ある筈なし、此かる惡評は商賣敵の藥種商が作りたる宣傳なり見よ、此の藥種屋には王冠印の看板もあり『ビスマーク』の顏を現はしたる毒滅なる藥も賣れり、之は濟生博愛堂の名の通り世間より感謝せらるる理由こそあれ、疑を懸くるは抱腹絶倒の至りなりと天下に宣傳せば、天下に學者先生の迂を笑ひ又は其の心事を疑ふ者多からん。

秘密必ずしも危險のみに非ずと雖も誰か秘密に危險なしと云ふを得べきや。

『マッソン』結社に就ては後日別に研究し發表する所あるべきを以て今は『マッソン』結社と猶太人との關係に就き疑はしき點のみを數へ斷定を下さず、安全なりとの保證に對し抗告し置くに止めんとす、若し他日研究徹底し（書物上に非ず）此の疑念が全然杞人の憂に終り、『マッソン』團の事業が眞に光を放つに至らば吾人は全世界平和の爲衷心より之を歡ばん哉。

先づ『マッソン』結社又は『マッソン』團（魔孫團と書くものあり）の名稱より說かん。

英語にては之を Free-masonry 獨逸語にて Freimaurerei と呼び佛語にては Franc-maçonnerie 又は略して Maçonnerie と云ひ其會員を Franc-maçon と云ひ或は單に略して Maçon（マツソン）と稱ふ。

吉野博士は本年六月の中央公論第二十九頁に於て一體『マッソン』結社の名から可笑しい『フリーメーソン』とか『マッソニク』と云ふことはあるか、どうもじつて讀んでも、『マッソン』と云

ふ發音は出て來ないと斷定して之をも『マッソン』結社辨護の一資料に供せられたり。

此の如き事を學者先生か粗忽にも堂々と天下に發表する樣にては日本の思想界は盲人か導くと云ふへく、思はす危い哉を三呼せさるを得す、佛語の『ポケット』辭書に迄略して『マッソン』と云ふとあり、又露語にても『マッソン』と云ふ、此の式の研究にては博士の論斷こそ眉唾を要すと叫はさるを得す、是吾人か常に論理上の否定には面倒なる手續きを要すとなす所以なり。

一、『マッソン』の起原に就て。

『マッソン』團の起原は種々の說あれとも英國の職人『ギルド』より起り團員は悉く一家族の如く相互扶助し生活及產業の權利を保證するにありたりと云ふ。

此の事柄と露國、波蘭及『リテュアニア』に於ける猶太職人の組合なる『ブンド』に何等の關係なしと斷言し得へきか？

一面に於て猶太人か『マッソン』團員たるを得るに至りたるは千八百三十二年『フリーメーソン』四季評論記者『クルセフィス』か『メーソン』養育院を設立したる以來の事に屬し其迄は猶太人と關係なかりしか如く說く書物あり。

然るに其の年號に先たつ一世紀千七百二十一年英國に於ては『モンターグ』候擧げられて大團長となれり是れ貴族の大團長となりし嚆矢なるか果て同氏か英國生粹の貴族なりしや近年迄印度の Under Secretary たりし Edwin Montagu 氏の祖先なりとせは前記の記錄は精確ならすして之より以前にても猶太人の參加せるもののあることとなるへし、千七百二十年代は英國に猶太人

の文名を馳するもの尠からす數學家にして帝室協會々員に擧けられたるものあること前既に述へたるか如し、暫く疑を存す。

尚起原に關し最も著名なる著者の一人『ジオルジ、オリヴァ』師の說によれは『マッソン』團は最も古き猶太の團結にして『モーセ』は大團長にして『ヨシュア』は副團長、『アホリアブ』及『ベサレール』等は大守衛なりしとも言ふ。

猶太と關係深しと云はるゝ亦故なきに非す。

二、千八百五十二年巴里より出てたる『Le Temple Mystique』(神秘的殿堂)なる繪を見るときは『マッソン』教舍(ロッヂ)の床に鱗次形に多數の★を描き出しあること、本年六月の『フリーメーソン』雜誌新時代第六號口繪として明瞭に現はれあり✡印は『ダビデ』の楯として猶太の紋なること前に說明せる所なり。

而して今日の『マッソン』團の印はにして、說明には上部か『コムパス』下部か定規にして『コムパス』は德の圓滿なる徵とし天を示す、定規は萬般の行爲を道德に律して過たさるの象徵なりと云ふ而て之に二ヶの水平線を描けは即ち猶太の紋となる。

因に基督教青年會の紋は▽にして猶太の半分なり。

又前記の『マッソン』雜誌には死者の廣告欄を飾るにを中心とし之に背景を施せるものなり而して此の印は現今猶太教會の硝子窓枠に屢々用ひられあり。

右は猶太も『マッソン』も同一なる古式より取りたる爲偶然一致したりと言ひ得へきも其趣味嗜

好に於て其似たるものありと判斷することも亦不條理に非るへし。

三、『マッソン』團の看板は正義人道にして世界改良を期する點猶太人多數の意向に合すへきものあり。

昨年第三十二階級に屬する（殆ど最上級なり）『ドナルドフレッチャー』氏の下したる定義によれば『フリーメーソン』は凡ての善人の兄弟たるへきものなり、『フリーメーソン』は秘密なり然れとも世界を除外する爲に非すして寧ろ世界改良の爲安穩に働く人の内部に世界を掌握する爲の秘密なり、『フリーメーソン』は專制政治の國家又は宗教を、惡むへき敵とし自由平等、四海同胞の爲に活動す云々。

佛國革命は『フィラデルフィア』の『マッソン』團より第十九階級の『マッソン』團員『ラファイエット』將軍か持歸りたる綱領に基ける點あり（次節に再說す）即ち『マッソン』か佛國革命の成效を助けたる點に於て猶太人と弟たり難く兄たり難し、或は同穴の貉か或は一人にして『マッソン』たり猶太人たりしものある次第なり佛國の寺院、學校、官衙等に悉く自由 Liberté. 平等 Egalité. 博愛（四海同胞）Fraternité. の三字を刻するを見て佛國の有識者中には途方もなき事を刻みたりと後悔するもの尠からさるも今更及はす負け惜みに左の如く讀むを要すと云ひつゝあり。

『リベルテ』（ポアン）『エガリテ』（ポアン）『フラテルニテ』（ポアン）即ち自由も平等も博愛も決て實現せすの意なり。

右の如くにして『マッソン』團は『エスペラント』語の普及を助け其他凡て萬國主義の事に盡力す

るを以て猶太人とは意氣投合す。

四、『マッソン』團に多數の猶太あり（此事は吉野博士も承認せらる）猶太人に非るも猶太人に頤使せらるゝあり例へは過般日本を退去せしめられたりと聞く露國大佐『ザヴオイコ』氏は元提督の子にて名門の出なり『マッソン』の第三階級に屬すると稱せらる、猶太人『モルガン』家の手先となりて屢極東に往來せしか彼の赴く所悉く倒れさるはなし『ケレンスキー』に對したる『カルニーロフ』將軍又其後『デニキン』『コルチヤック』『セメノフ』等彼か惟握に參するとき倒れさるものなし、殊に後貝加爾州『ハダブラク』に於て『セメノフ』を欺き、反日本的宣言書を發せしめ以て『セメノフ』と『ロフイッキー』其他の反過激派との分裂を助けたる功績は吾人の記臆に新たなる所なり、而して彼の活動を思ふ毎に、同く米國より歸り『ルイ』十六世の信任を得たる『マッソン』團員『ラフアイエット』將軍の活動を聯想せさるを得す勿論『マッソン』團は猶太人のみにて成るにあらす他の貴顯高官も之に加入しあり。『エドワード』七世陛下『コンノート』殿下『ロイドジョージ』『ウイルソン』大統領等も之に數へられあり、果て何れ迄の秘密會議に參與し得るやか問題なり。

之を要するに猶太の秘密と『マッソン』の秘密とか全然同一のものなりと斷定する事は秘密の正體を兩方共に適確に突止め得さる以上は過早なると同時に、又其秘密は猶太人のものとも異なりと斷定するを得す況んや何等の危險なしと斷定するは即ち危險なり。

今聊か蛇足として算式にて此の關係を現はさん、先つ方程式の左邊を世界の諸運動とし、右邊を

之より現はれたる現狀とせん。

$$M+J+S+A=B \cdots (1)$$

M は『マッソン』の運動

J は猶太の運動

S は右以外の秘密を含める運動

A は秘密を有せさる運動

B は現狀

$$\left.\begin{array}{l} M=FXm \\ J=jXz \end{array}\right\} \cdots\cdots (2)$$

Xm は『マッソン』の秘密

Xz は猶太の秘密

人あり(2)よりして直に(1)を

$$(F+J)X+S+A=B$$

と書き直さは是速斷なり之は $Xm=Xz=X$ なる關係が成立したるとき始めて成立し得る事柄なり、然れとも猶太と『マッソン』とに共通の未知數Xありて。

$$Xm=mx \quad Xz=zx$$

なる式か成立すれは(2)は

$$M=Fmx \quad J=jzx$$

となり玆に始めて(1)を

$$S+A=B$$

なる式に改むるを得即ち猶太人と『マッソン』結社とを、共通なる秘密により、同類項とし

$(Fm+jz)X+$

て一括して取扱ふを得へし

但しXなるものか單簡なる一事項の秘密なるときは右算式の結果は滑稽となる例へは『カイゼルウイルヘム』に世界統一の秘密ありたりと假定し、猶太にも之ありとて、之を同類項に括るは滑稽なり『カイゼル』に秘密ありとせは、皆(1)式のSに入るへきものなり佛國革命に於ける共同動作及ひ兩組織に同一人物か屬する等既に擧け來りし有力なる共通點は即Xなる共通の秘密として擧け得へし。

第五節　猶太人と世界革命

附　過激派

之迄說ける所により猶太人と革命との間に大なる關係ありし事は略ぼ察するに餘りあり、然るに茲に一節を設けて更に縷々說く所あらんとする所以のものは、單に猶太人か革命の煽動者なりとの意味にて之を毛嫌ひ的に排斥するは獨、露反動派の亞流たるに終り、結局却て彼等に乘せらるゝの虞あるを以て、先つ世界の著名なる革命と猶太人との關係を列擧し、次て何故に此の如き關係を生するに至りたるやを究め以て吾人か猶太人に對する方策を定むるの資に供し殊に目下彼等一派の指導して止むこ

となき世界革命に對する吾人の態度を定むるの資に供せんとす。

先つ猶太人の參加せる革命中顯著なるものを擧けんに

一、千七百八十一年の米國革命は猶太人の活動に大なる機會を與へ『ロバートモリス』（猶太人）は獨立戰爭の藏相として大手腕を揮ひ共和國建設の殊勳者なりき、卽ち彼は佛國より私債を爲し之を米國に提供して千七百八十一年『ワシントン』の軍隊をして『ドウヴア』波止場より『ヨークタウン』に輸送するを得せしめたり（『レーヴィン』著新復興民族『パレスタイン』の部）

二、佛國大革命前の思想界は全く獨乙猶太の泰斗『メンデルスゾーン』の思想に支配せられつゝありたり（大英百科全書）

三、佛國大革命は猶太人の指導せし Communes, jacobins, Girondes 等の働きに負ふ所多し。

四、佛國大革命は其の八年前猶太人の努力を以て米國に行はれたる革命より取りたる點多し。例へは千七百八十九年七月末以來國民議會の要求せし市民權は大體『フイラデルフイア』ヨリ『ラ・フワイエット』か持ち歸りしものなりしなり（la Révolution）

『ラ・フワイエット』は『マッソン』團の第十九階級に屬し『マッソン』の巨將『ワシントン』の親友にして、彼の革命を助け後佛國に歸り佛國の爲に此く働きしものなり、世界大戰の際米國總司令官『マッソン』團員『パーシング』將軍か巴里に來るや先つ『ラフアイエット』の墓を訪ひ『ラフアイエット』よ我米人茲にありと述へ生きた『マッソン』か精神界の『マッソン』にに肺腑よりの誠意を披瀝せり。

（米國の「フリーメーソン」機關雜誌「ゼ、ニューエージ」千九百二十年第十號五十四頁及第四百七十七頁）

此の如きを以て當時議員の一員叫んて曰く何事ぞや一國民の爲に働くとは！吾人か今市民權を要求するは凡ての人類の爲、凡ての時代を通し、凡ての國家の爲にするものにして世界の模範たらんか爲なり（「ラ、レヴオリユシオン」第八十四頁）

即此時より萬國主義を鼓吹するものにして猶太思想の發現なり。

五、佛國大革命に於て一旦『ルイ』十六世の死刑宣告に贊成の投票をなしたる三百八十七人中には流石に國王か斷頭臺の露と消ゆるを氣の毒に感し刑場は水を打ちたる如くなりしか其間平然として斷頭の任務を果したるは猶太人『サムソン』なり、實見者『サンテール』の談によれは『サムソン』の勇氣は全く其宗教より來りしものならん（「ラ、レヴオリユーシヨン」第二八六頁）

六、佛國大革命には既に猶太人『カル、マルクス』か後に唱導せし共産（コムミユニスム）の思想發露せり而して其失敗も既に經驗せり。

千七百九十三年四月十九日猶太派 Commune に屬し巴里市長を以て自ら任したる『パッシュ』は議會に出頭し極左的請願を提出せり、即ち物價の最高價格 Maximum を定め之を超て高く販賣せしめさること之なり、之れ純然たる社會主義にして而も左の主張を附加せり。

何人も所有權を以て抗議するを得す、地上より生産する凡ての物は空氣と同樣全人類に屬すれはなり。

國民議會を驚倒せしめたること此の請願の如きは無かりしと云ふ、議會は之を特別委員の審議

に附せしか、猶太『コンミユーン』黨は、食糧問題にして解決せさる間は、革命狀態は繼續すへしとの脅威を與へたる爲憲法も終に此の脅威の前に屈伏し五月四日最高價格を定めたり、此の日より『コンミユーン』の勢力隆々たり（「ラ、レヴオリユーシオン」第二九八頁）

【註、今日過激派の爲す所も異曲同巧なるを感す即ち一國に革命起れは外國よりの輸入と國內の生產停止し貨幣の値下りて紙幣は紙屑の如く物價は騰貴して停止する所を知らす即ち之に苦む多數の愚民に同情する社會主義的の政策を以て之を率ゆること益々容易なるに至るへく古今一徹にして亦彼等革命屋の常套手段なるか如し】

然るに最高價格『マキシマム』も何の効果なかりけれは千七百九十四年には之を全廢せり、是れ農民は之を不服として穀物を出さゝれはなり、里昂市の如きは全く五日間『パン』の姿を沒したることすらあり（「ラ、レヴオリユーシオン」第三九四頁）

七、佛蘭西大革命中採用したる曆は猶太曆に非るか。

佛蘭西革命成効後革命者は從來の曆を改め其の正月元日を九月二十二日と定めたり今日迄の說明にては正月當時は『ヴアンデミエール』と稱へ葡萄の熟する時なりと聞けり、然るに今日猶太曆を手に入れ、猶太人と共に其正月を迎へて佛國革命曆の說明を追懷すれは、表面は如何なる說明となり居るとも陰陽曆、希臘曆とも全く隔絕したる九月二十二日を元日としたるは猶太曆を採用したるならんとの信念に達す。

八、千八百四十八年三月匈牙利の革命に參加す。

其年維也納市以外の猶太人居住税は低減せられたりしか、猶太人か三月の革命戰に參加したる科により再ひ重税を課せらるゝに到れり（大英百科全書）

而て右革命は同年の佛國二月革命の影響を受けて始まりたるものにて而も佛國は現今の勞農露國の如くには露骨ならさるも左の如く婉曲なる方法にて革命を外國に勸めたる所を以て見れは墺匈國革命の火元たる佛國の二月革命に、猶太人の參加せるや論するの要なし。

『フランス』は猥りに隣國の人民を煽動して革命的暴動を起さしめんと欲するものに非すと雖も苟も民主々義を唱導するものの爲には應分の助力を與へて其主義の實行を速成せしむるに吝ならさるへし。

言甚た巧なれとも事實上墺匈國、獨逸、伊太利に暴動を起さしめたり。

九、千九百〇五年日露戰爭末期の露國革命勃發するや、『ブント』（露國、波蘭及『リテュアニア』の共產主義猶太勞働黨）は活躍を開始し、從來勞働問題にのみ關係せし『プログラム』を變更し、猶太人の爲に民族の文化的自治を許されん事を請願せり、此くて恐怖時代の到來すると共に猶太人居住地域內の貧民階級間に更に幾多の猶太社會主義團隊を形作るに至れり（『コーヘン』著近世猶太生活第百七十六頁）

十、千九百十七年露國第一次の革命には他に利用すへき原因は多々ありたるも要するに世界猶太殊に英米猶太か露國猶太救濟、世界猶太解放の爲に決行を助勢したることは旣に縷々各國猶太勢力の部に詳述したるを以て之を略す、唯一言附加すへきことあり、該革命當時『ペトログード』にありし露國將官の直話を聞くに、不穩の噂はありしか前日には軍服を着用せる猶太兵の多數

集會するを見、何か猶太人か劃策しつつあるならんと思ひ居る內果然翌日革命の勃發を見たり云々。

十一、千九百十七年十一月の『レーニン』革命と『プンド』との關係は其政綱の何れも共產的極左なりと云ふ如き觀察よりするに非すして現に其革命の花形中に多數の猶太人を交ゆるを以て明なりとす例へは其の二、三を列擧すれは左の如し。

政府當局者僞名	猶太本名
『トロツキー』	『ブロンシテイン』
『カーメネツフ』	『ローゼンフエルド』
『マルトーフ』	『ツエデルバウム』
『ジノーウイエフ』	『ゲルシ』
『ハリトーノフ』	『レベンソン』
『スハーノフ』	『ギンメル』
『ラデク』	『トーベリソン』
『ザマルスキー』	『クロフマク』
『ステクローフ』	『ナハムケス』
『ラドムイスクスキー』	『アプフエリバウム』
『ゴレツ』	『ゴリドマン』

『メシコフスキー』　『ゴリデンベルグ』
『ラリン』　『ルリエ』
『ソールンツエフ』　『ブレフマン』
『ウラジミーロフ』　『スチユパーク』
『リーベル』　『ゴリドマン』
『ダ　ン』　『グレーウチ』
『パルウース』　『ケリソント』

其他本名の儘のものには、『イオフエ』『ミノル』『ゴッ』『カッツ』『エプシケイン』『ツエトトリン』『シピッベルグ』『シテンベルグ』『コガン』『アブラモウイチ』『シレイデル』『ザルキンド』等あり、極東共和國に於ても猶太人の實權を掌握せしこと前述の如し、例へば『クラスチシチヨーコフ』事米人『トーベリソン』、『シヤートフ』『グロッスマン』『レーヴインソン』等の如し。

十二、墺國革命當時組織されたる勞兵會の實權を握りし有力者は、『ステルン』『ヘルッ』『レーウエンベルグ』『フレンケル』『イスラエロウイッツ』『ラウベンハイム』『セリグゾーン』『カッツエンスタイン』『スタットハーゲン』『ラウヘンベルグ』『ハイマン』『シレジングル』『メルッ』『ワイル』等にして悉く猶太人なり、又革命以後共和政府の財政經濟上の顧問として中央政府に勢力ある財政家、財政學者は、『マックスワールブルグ』『スタウス』『メルトン』『オスカル』『オッペンハイメル』『ドクトルヤッフエ』『イイチ』『ブレンタノ』『ベルンスタイン』『ストリック』『ラーテ

ナウ』『ワッセルマン』『メンデルスゾーン』等悉く猶太人なり、『ベルンハルト、フンク』氏の調査によれは社會黨三派中領袖株の地位にある猶太人を百分率にて現はすときは。

多數社會黨　一八　%
獨立社會黨　六五　%
共　産　黨　八七　%

の割合となる、猶太人と社會黨との關係は實に密接離る可らさるものなること明瞭なり。

何故に猶太人と革命とに此の如き大なる關係ありや凡ての世界の革命は、(『トロッキー』の所謂世界赤化を意味する世界革命を指すに非す)猶太人の指導に成ると言ひ又は猶太人の在る所必す革命ありとは明言の限りに非るも、主なる革命の蔭には猶太人か存在するものと見て確なり、然らは彼等は單に外國人の創めたる革命を利用し之に乘して自已勢力の擴張を圖るに止るや將又其革命の原因をも形作るやは一應討究の値あり、而して今日迄現はれたる事柄を綜合すれは後者か事實に近しと判定するを得る狀態にあり之か理由を箇條的に再錄せん。

一、第十八世紀の末葉米國を始め佛國に行はれたる大革命の前には猶太人『メンデルスゾーン』の哲學を以て爆發に必要なる瓦斯發散せられあり。

二、露國大革命の前には英、米猶太か露國猶太解放を叫ひ特に英國猶太は開放當初より猶太解放と露國の開化引續き獨逸の開化を理想として働きたること猶太人『ザングヴィル』の書に明なり。

三、革命は外敵の壓迫に對抗する爲の自衛的非常手段として用ひたるの意味は猶太人の著書に明な

り（「コーヘン」著新猶太生活一七九頁）

此に於て猶太人か從來は革命手段に依るの止むを得さりし理由を猶太人の立場に身を置き公平に觀察せん。

一、宗教的方面

彼等は已れの信する神こそ眞の神にて其他に神ある筈なし、基督を愚なりと云ふか如きは以ての外なり基督は猶太同胞の一人にて宗教上の革命兒なりと見做し、已れの宗教こそ昔ながらの、最も古き文學にて傳へられたる、言はば本家の教なりと確信しあり、然るに基督教國又は回教國は猶太教を信するを妨け、人類の自由を束縛し、而て所謂國教なるもの存在し、政府か之を支援する間は、政教一途に出て益々猶太教信仰の困難を感するのみなり故に僧侶の墮落、横暴の事實を組織的に研究し置き革命を以て一擧羅馬法皇の權力を殺き、又政教の分離を速成することに努力するの外手段なし、佛國大革命史を通覽すれは此關係は極めて明瞭なり。

二、政治形式に就て

君主の有る所必す之を中心とする民族的結束生し、神の選民『イズラエル』民族か天下を統一するの使命を果すこと困難なり、又縱令政教分離するも、君主か何等かの宗教を奉すれは必す其宗教は他のものに比し勢力を生するの傾向を免れす故に世界の君主か悉く倒るるは、猶太人の爲に最も都合善き事なり、從來革命の一過する所必す王冠の墮ちさるはなく北米が英國々王の羈絆を脫し、佛國か國王を失ひ、最近に至て支那、露國、墺匈國、獨逸の重もなる大帝國悉く

其君主を失ふに至れり。

三、猶太人の自由

猶太人には領土なく政府なし即ち各國に離散しある猶太人の利益を保護するは其の居住國の官憲なり、

然るに宗教其他古來の行懸り上猶太人は奴隷には非るも對等の權利なく住居の安定なきは勿論、生命財産すら侵害せらるるの弊あり、正當の手段にて權利を要求するも、其國に何等の危險なき泰平無事の日には何人も之に耳を傾けさりしなり玆に於てか戰爭革命等による國家の危機に於て(或は危機を設けて)權利の要求をなすに如かす、事實此手段により猶太の權利は年一年に恢復しつつあるなり。

右の觀察は頗る穿ち過きたるの感あるも、猶太人として當然の事と考ふ、又世界統一の野心云々を否認する猶太人あれとも、之を赤裸々に發表することか不謹愼なる爲、外國人に明言せさる迄にて、心中には考へ居ること當然なり、『ナポレオン』も『カイゼルウイルヘルム』も考へたる事ならん。

先にも述へたる如く、猶太教に秘密の部分あることは之等を考察すれは容易に諒解し得る所なりと雖とも尙秘密の點を列擧すれは。

一、外國版の經文には『シオン』の門の部を新式に改め、舊の如く稱するを禁しあり。

二、猶太教の禮拜中神を讃美するものの歌ふ文句は大略外國語の經文に載せあるも、列席せる婦人か感極て噓唏泣啼する如き要點は省きあり。

三、猶太人の著書中に『シオニスト』の秘密なる理想は聯合國側とは善く情意投合すへしとの意味を明記しあり（『スピール』猶太人ト大戰第三十五頁）

近來日本の學者にて少く猶太問題に觸るるもの著者の何人なるやを明にせす、之を購讀し、『シオン』に秘密なし等の英文の宣傳を輕信して説を立つるものあるは危險なり、凡そ否定は全稱否定は勿論一部否定にても容易なるものに非す『レーニン』『ゴーリキー』等の英國に於ける友人『ウエルズ』か過激派を猶太とも『マッソン』とも關係なき如く"Russia in the shadow,"なる書中に妄斷せるは、人を誤るの甚たしきものにて、又此等英米文士か書ける英文書類か、盛に日本に讀まるるを思ふときは盛暑猶冷汗を覺ゆ。

秘密はあるならん、眞言宗にも秘密あり秘密あるか故に之を破壞するの必要なし、佛國文學博士『マドレン』著佛國革命史にも左の名論あり、『愚民を急に山の頂きに運搬するより危險なるは無し、彼等は何等豫備知識なきに、徒らに眼界のみ擴かり下界の飫地を渴望す、中には約束の土地(La Terrre promise と云ひ、神か猶太人に約束したる『パレスタイン』附近を指す)を望むや未た期限に達せさるに之か使用を要望す云々。

故に民は敎へさる可らされとも、山に登るか如く眼界を逐次に擴けさる可らす、谷間にある間は周圍の連峯にて何物も見へす、此時代か即ち秘密時代なり無理に見んと欲せさるも孜々として登山を繼續すれは遂に一望千里の絕頂に達し得へし。

吾人は徒らに『シオニスト』の秘密を發くを要せす如何なる秘密はありとも、兵家の所謂其の備へある

を賴むの覺悟を要す已れを知らす敵をも知らすして、他人の宣傳にて安心し、遊離酸や、爆發瓦斯の臭氣を感して然る後之か除去に着手するときは、噬臍の悔を殘すことあらん。

然らは猶太主義は其根本に於て社會革命思想乃至共產過激の主義と合一するものなりや、全然合一はせさるも如何なる一致點を見るや、又如何なる點は反對ならさる可らさるやを研究せんとす。

一致點	反對の點
一、博愛平等相互扶助を旨とす（社會主義）	一、不平等を教ゆる點あり
二、横暴なる資本家を倒さんとす	二、金錢を尊ひ大資本家を有す
三、外國君主、特權階級を倒し盡さんとす	三、君主主義にて長老を尊ふ
四、非國家主義なり	四、國家主義にして『パレスタイン』を固執す

右の表を一見するときは不條理極まる矛盾の一列なるか如きも、細かに觀察するときは正に右の如しと信す其理由左の如し。

一、隣人を愛し、貧困者を隣れみ、凡て社會的設備に力を盡すことは、前既に猶太人の宗教、性質、『シオニズム』の分類の部に於て述へたるか如し、又實際猶太人は此種社會事業を實施するものあるを以て、或る意味に於ける社會主義者なり然れとも『モーセ』の十誡中に見るか如く神に背きたるものは三、四代の後迄祟りを及ほす事を誡めあり、現在の民族か全部受くる苦みを以て民族過去の罪業の酬ひに歸するか如きは其一證なり、既ち生れ落ちたる時既に身體の强弱、賢愚、性質の善惡等祖先よりの遺傳により各人同しからさることは猶太人は自ら承知しあり、此點

に於ては佛敎か善惡の報に三時あり、順現報受、順次生受を說き更に進んて順後次受を說くに及んて、全く『モーセ』の言に一致す、是因果律に屬する自明の哲理にして、東西古今洵ることある筈なき眞理なり、然るに何者の痴漢ぞや、民約論を以て自由思想を鼓吹せる彼れ『ルーソー』、人は生れなからに平等なりと呼號し、愚民下層民を惑はし、終に『マルクス』の如き輩を續出せしめて、今日佛敎の所謂惡平等を現出し、生きなからの餓鬼道末世を描き出せり、彼『ルーソー』若し人類を絕對なる神格に對するときの平等觀を說き、人類相互の間の差別觀を說きたらんには、彼の死後十年にして佛蘭西革命を生せさらしめ世界の平等化は徐々なりしも溫健に發達し來り、今日の如き病的狀態を生せさらしめたるならんか。

【『ルーソー』は猶太敎を信奉しありしと聞きたるも、記錄中に見出ささるを以て明言を避く、往々猶太人に見る赤毛(金髮に非す玉蜀黍の毛の如き色)の家なりしより『ルーソー』と云へる事に止めんとす】

若し猶太人自らは善く宿命論と順後次受を了解し、人類相互間に於ける不平等を信仰する一方に於て、絕對に對する平等主義の上より相互扶助を行ふは可なれとも、之より更に一步限界を蹈み踰へ、愚民竝に外國に向て其惑はし易き平等論の半面のみを宣傳するとせは、旣に猶太の神の矩を踰へ、眞理に非るものを傳へて、只管已れの民族の苦痛を速に脫する爲の小策を弄することとなるを以て、猶太民族には永く救世主の降來なかるへく、折角猶太勢力か世界を足下に蹈み付けたりと信したる時に於ても、正義を以て王道坦々として進む民族と接する場合、神風

一陣終に復ひ收拾すへからさる潰亂に陷るへきを確信して疑はす。

二、資本家として富を運用するに必要なる道德上、學識上、何等の資格なき所謂成金なるものの跋扈するは貧民を益々苦境に陷るるものにして、絕對に對する平等觀を離れたる場合は格別、否らされは人類の生存としては不可なること何人も異論なき所にて、敢て社會主義者、共產主義者を待て識り得る問題に非す、即ち富の倍加か非常なる加速度を以て進み、他人に害を及ほさる樣制轉機を操作する事は何人も異論なかるへきも、勞農露國の如く制轉機をかけ詰めにして運轉を中止せしむるか如きは、常識を備へたるものの解し能はさる所にして、之を敢てする『マルクシスト』の輩何等か禍心を包藏するに非すや、一應吟味の必要あり。

抑も猶太敎は資本主義を認むるものなりや又は過激派の稱ふる如く所有權を否認するものなりや。

此の問題は『タルムード』其のものを閱覽せすとも、千八百〇七年那翁か催したる『サネドラン』の宗敎裁判所の決議文を見る丈にて充分なり、即ち猶太敎は資本を認め、之か利子を認むること、猶太人の性質茲に佛國に於ける猶太人の勢力に就て述へたる所にて明なり、但し當時の取極めに『生活上の貸借には利子を附せさること商業上の貸借には利子を制限すること』と定めたるは尙ほ其間に社會主義的妙味の顯著なるを覺ゆ。

即ち猶太敎は過激派の稱ふる如く所有權を否認するものに非す。

然らは過激派内の猶太人は何故に其本來の宗敎に反する行爲をなすや又之に對する非過激派猶

太人の感想如何を研究するに、哈爾賓の有力なる一『シオニスト』は曰く『日本にも社會主義者あり、近來は共産主義者もありと聞く、猶太の『ブンド』一派も其の類にて誠に致し方なし、其數今日にては全猶太人の十分の一に過きす、吾人は彼等を敵視しあり』と、然れ共實際は同一猶太協會に入れ普通に交際しあり、何等對敵行爲の跡を認めす、是れ先に『ブンド』を航空隊に譬へたる所以なり、故に猶太人か『マルクス』を先頭に立て宗教と資本主義との打破を叫ふは心よりに非すして必すや爲にする所あるか爲なり、爲にするとは前項に述へたる如く一方に資本主義打破を稱へて成金的無慈悲の外國資本を粉碎し、然る後己れの資本を以て猶太主義による資本の運用を考へあるものと判斷せらる、從來猶太資本の最も多く蓄積しある米國には、過激派の攻擊最も手緩るく、而て露國革命政府の紙幣か米國の造幣所にて印刷して露國に多數持ち込まれ、其價格は印刷費、紙代の何分の一にも足らさる狀態に甘んし、以て露國の紙幣を紙屑同樣に下落せしめ、正貨たる金貨は盛に外國殊に米國に流出せしめ、金貨の値を貴くしあり、最近迄知多の勞働者の俸給か僅に一ヶ月金貨五留なるに注意せは、今後貨幣を以てする露國の征服か頗る容易なるの事實を了解し、而も同時に『ロマノフ』家の强壓政治―勞農專制政治の後に來るへきものは―猶太の金權支配の順序となるや略ほ察するに難からす。

猶太の正月中には西方より米國の紙幣哈爾賓に入り込みたるの事實を確認せり、玆に於て露國六百萬の猶太と米國三百萬の猶太は兄弟なることを考慮するを要す。

猶太宗敎の敎義に反する小策を弄し資本主義を破壞せんとするか如き運動を爲さは是亦略ほ成

効の域に達したるとき神風一陣、此の如き不自然なる事業を一掃し去るの日あらん。

三、外國君主を片端より倒すことか猶太の爲に有利なることは既に述へたる所なり、特權階級の存在も亦、猶太人か一國内にて出世し大勢力を獲る爲には邪魔物なりしなり、故に屢次の革命、平等運動を以て貴族僧侶の特權を奪ひ去りたり、然るに彼等自ら君主主義にして長老を尊ふとは、撞着も亦甚しき議論なりと言はんも、事實皇統一貫論、祖先崇拜論者なる事『ダビデ』の遺言其他經文を引用して宗教の部、性質の部に詳述せり、現に最近猶太教會内にて經文を示し、我等は最も熱心なる帝政主義者なるへき筈なり、過激派の如きは實に猶太教の敵ならさる可らすと力説したる猶太人あり、又他の場所にて猶太人の智識階級に屬する過激分子と論談を交へたる時、問題は帝政論となり彼等は露國に帝政復興の不可能なるを縷述せり依て、然り一旦落ちたる王冠を拾ふは山頂より谷底に落ちたる巨石を再ひ扛くるより困難ならん、然れとも政治學として之を如何に見るや人類に私心なく、嫉妬心大ならざれば立憲君主制か人類の最も適當なる政治形式なりとの説は露國有識者より屢々聞さるる所なるのみならす、貴公等猶太人も亦實は帝政主義にして、現に『ダビデ』の裔を秘密に準備しあり、時至らは之を以て猶太人の統一を爲さんとする事明なりとの説さへあるに非るやと突き込み、彼か如何に此の秘密風説を駁論するやを試みたるに、彼猶太人は顏は赭らめ暫く答ふる所を知らす、終に『然り左樣の説もあり』と述へ一言右の流説を反駁せさりき、素より此の一事を以て猶太人か帝王を選ひあることと確實なりとの證據となすを得されとも右流説と帝政論を告白せる猶太人の言とを對照すること

きは何者かの伏在するを疑はしむ。
又貴族を尊ふことも祖先崇拜の遺風よりして自然に起る問題なり、猶太人間の貴族は此の意味の貴族にして國家に功勞あり又は大なる富を擁するの意味に於て貴族とし貴ぶに非す、即ち我邦の公卿華族の類かと思はる、『ベンジャミン』『コガン』『コーヘン』等は今尙昔ながらの貴族を顯はすものとして誇れるか如し。
以上述ふる所を綜合すれは、猶太人か帝政を排斥するは、衷心より主義其ものを排斥するに非すして外國の君主を倒さんか爲の努力に過ぎす、『ダビデ』か其子『ソロモン』に與へたる遺訓に『吾々の家族以外のものにヘブライ人の統御を委す可らす、幾代の後迄も吾々一家のものか首長ならさる可らす』とあり、現今迄二千年程中絕したるを以て彼等は今猶太の王政復古、大維新の改革の爲に、智力と財力とを傾けつつあると考へさる可らす、武力は彼等に無きを以て他國のものを利用し相戰はしめ今回の大戰のみにて最大王冠三ヶを打落し、今や最も根底深き帝冠に手をかけんす。
四、猶太人か一面非國家主義にして又國家主義なりと言はば一見大矛盾を呈す。
『猶太人と大戰』なる猶太人の著書に曰く
『國家は人の爲に設けらるるものなれとも、人は國家の爲に造られたるものに非す』
是れ明に非國家主義にして此の議論よりせは、國家の爲に身を犧牲にするか如きは以ての外の愚論となる譯なり、然るに猶太人の投する此毒藥(國家主義ニ取リ)も恰も『モルヒネ』なる毒藥か醫療上

大偉効を有するか如く、適當ならさる國家主義者に對する注射なり、即ち一國の國是か其國の文化を輸出し人類の幸福を增進するにあらすして、單に領土の擴張を計り、他の民族の損害を犧牲にして已れの民族のみ富榮へ、贅澤に暮さんとする國家主義なれは、滿洲大馬賊の規摸を大にしてたる組合に過きす、之なれは寧ろ國家なるものか無きに加かすとの議論に達すれとも、若し一の國家あり、其宗敎文化は以て全人類の幸福を增進するに足るものとせは、其國家に奉仕するは即ち人類の本能を發揮する所以にして、萬世に亘つて疚しからさる信念を以て國家に盡すを得ることとなる。

猶太人は以上の毒說を吐きたりと雖も全然國家を否認するに非すして之を認めあり『吾人は二ケの國家を有す、現住の國家及已れの出てたる猶太王國之なり』との意味の告白あり（千九百十四年八月二十七日アルシーブイスラエリツト）又大戰間英、米、等の猶太人か其國に盡すは正義人道に合する所以なりとし國難に殉したること少からさるか、之と共に佛國猶太人中に、若し此の流血か全然猶太王國の爲なりしならは吾人の勇氣は現在の勇氣に百倍したらんとの意を洩したる事も注意の値あり。

即ち猶太主義に適合せさる國家は片端より倒ささる可らす、之か爲には國家主義破壞の毒說を流布して憚らす、之に反し猶太主義の實行に都合よき組織の國家（米、佛の如き）は當分之を保存し此力を以て他の反猶太國を破壞するに努めつつあるの情態は世界大戰に關する猶太人の著書を閲讀せは歷々として明かなり。

故に曰く猶太人は元と國家主義なり、然れとも其國家は不正義なる國家にあらすして猶太敎の

の命する所に從ひ、又其の豫言者の豫言せる所に從ひ『ダビデ』の後裔を以て統治し『諸國の王は爾の僕とならん』を實現する國家なるへきなり。

『シオニスト』等か『ソロモン』王の考へたる大『パレタイン』は暫く措き差當りは小『パレスタイン』を以て滿足するの意を洩すを見ても半面に彼等終局の目的は猶太國の建設にあるや爭ふの餘地なし、即ち此大目的を達する爲には『インターナショナリスム』に共鳴し之と事を共にすることか最良の方法たる事亦明なり。

猶太人は此の如き君主主義、國家主義、階級制度主義、資本主義の國民にして而も過激派政治を包容し之を利用しつつあるの魂膽は察するに難からず、極東方面に活動する有力なる猶太人悉く共產の實施不可能なるを萬々承知し且つ『クラスノシチョーコフ』事『トーベルソン』(米國猶太)の如きは自ら共產黨に屬して而も日本に對しては極東共和國に共產主義を實行せさるを誓ふ、之と同時に彼の同胞にして而て彼の尊重する『トロツキー』事『ブロンシテイン』は、七月初旬『モスコー』の第三『インターナショナル』會議の發會式に臨んで演說して曰く『吾人の企劃する全世界革命と資本主義の打破とは不可分なり云々』即ち彼等は表面には猶太教の本旨に背ける共產過激の主義を提け、『インターナショナリスト』と結ひて(或は之を創造し少くも操從して)國家を葬り去りつつあるは、軈て眞の國家主義、資本主義の猶太王國を現出する序幕ならずや千九百二十年初め『モスコー』に於ける第八回過激派大會の決議。

吾人は須く共產主義を前衛となし、世界の無產階級を味方に引入れ以て有らゆる階級制度と

資本主義を倒すへし。

を熟讀するときは共産主義は前衛にして本隊に非ず、單に世界の人口の大部を占め兵員と勞働者を出す階級を味方に引入るる手段に過ぎず、其後方には或る本隊の續行し來ること明なり、本隊とは何ぞや――米國猶太の貯藏する金貨と、之を運用する資本組織と、之を擁護する所謂民主組織之なり。

以上認め了るや『ロイテル』電報は報して曰く、『トロツキー』は露都大企業會社の社長に任せられたりと。

第四章　日本帝國は如何に猶太人を取扱ふへきや

從來述へたる所により不完分ながら猶太人とは何者なるや如何なる文化を有し又世界に如何なる勢力を有するやを概説せり又世界の親猶太、反猶太の根原並に其の反響をも説けり。

之より日本帝國を主體に置き、其の國是より觀て如何に猶太を取扱ふへきかを研究せんとす。

茲に研究に踏み入るに先ち一の考慮すへき事あり、諸外國の猶太問題は多く自國臣民に多數の猶太人を有したる關係より起れり、然るに帝國は二、三、外人と結婚せるものゝ外には全く純血にして猶太人を交へす故に議論は極めて公正たり得ること是なり。

第一節　猶太親む可きか

四方の海皆同胞と思ふ世になど波風の立騷ぐらんとは。

明治大帝陛下か外國戰亂の續發を慨せられ口吟み給ひし聖旨なりと聞く、洵に叡慮の無邊なる、吾人帝國臣民の三唱し善く之を體得すへき所なり。

帝國は外國の如く口に人道主義、四海同胞主義を高唱せさるも、當に右の聖旨により其主義に向つて猛進せさる可らす。

『ヴェルサイユ』會議の際、帝國委員が人種別の撤廢を叫ひたるは聖旨の一端を發露せるものにて公明正大の主張たりしなり。

此の意味よりして猶太人か猶太人種なるか爲に世界の壓迫を受け、之に苦むとせは是れ極めて不正義の事なるを以て、帝國は宜く猶太人に同情し、彼等と親交を結ひ、四海同胞の共存共榮に努むるを要す。

問題は之にて解決し猶太親む可しと結論するの外他に何等論議を挿むの餘地なきか如きも蛇足として吾人か猶太人に感謝し之に共鳴し將來手を携へて事に當らさる可らさる所以と、物に陰陽、兩端ある如く猶太親む可らすとの議論を生する所以とを略述せんとす。

先つ以て猶太人か古來世界の科學殊に天文學醫學に貢獻し、『コロンブス』の如き大家を出したるは世界の一大國民たる立場より彼等に感謝し敬意を表すへき所とす、遺憾なから帝國は未た世界の物質文化に貢獻する大家を出さす、又日本の立場よりせは彼等が帝國の外債募集に應し、日露戰役の遂行を助けたること通商貿易上の利益を提供せること等も亦感謝せさる可らす。

次に日本人と猶太人との似寄りの點を列擧せんに。

一　猶太人は祖先崇拜皇統一貫論にて忠孝を尊ひ義理に固し。

二　弱きと貧しきを助くる點に於て日本古來の文明たる武士道に近し。

三　歷史上の確たる考證を手にせさるも猶太人と日本人とは血族上の關係ありとの說すらあり、哈爾賓の一猶太寺院の紋にはの外多數✡の菊の紋あり但し八ヶの瓣を有す。

猶太人か家にて祈禱をなすとき額に一ヶの黑色の小立方體を紐にてくゝり、其の紐の餘端を兩手に纏ひ欅狀を呈する所、勸進帳を讀む辨慶の扮裝を聯想せしむ。

此等は何等かの偶然なるへしと雖も潔癖なることと家の入口の柱に御守りを打ち著くることと媒介による結婚、男兒の生まるゝを喜ひ又兒なけれは去るの習慣等東洋風の所多々あり。

四　彼等の大部は西洋を放浪せるも出身地を亞細亞なりと考ふるときは、何となく親みの多きを感す、人種別撤廢の大義より考ふるに亞刺比亞風、波斯風の顏そばかす多き顏を提けて歐洲を漂ひ、豹は終に其斑點を去り得はすとて自殺せる青年を出したるを考ふる時、又頑是なき猶太小兒の遊へるを見之等か他日反猶太暴風の突發するとき、猶太人なるか爲に虐殺の悲境に遇はさる可らさるを考ふるときは覺えす熱涙の滂沱たるものあり、熟々有色人種の逆境を慨せさるを得す。

其他帝國は安寧秩序を紊さゝる範圍に於て信敎の自由保證せられあり、基督敎の各派は勿論『ジェジュイット』派の外人すら居住す故に西洋各國か猶太敎の信仰を壓迫したる如き行懸りは何等帝國に存在せす。

若し猶太人にして從來の古陋なる信仰を廣め已れの神を『イスラエル』の神なとゝ考へす、日本に渡來し天御中主神は祖先の祖先にして宇宙の中央に座し給ふ一柱の御神にて、猶太の神か別に存在する筈なきを擧ばゝ、釋然として悟る所あらんか。

然れとも生物の相互關係は相對的なり所謂片務的にては面白からす然らは猶太は我に對し親善的態度を持するや又は反抗的態度を取るやを考へさる可らす。

猶太は日露戰爭の頃迄は日本に對し何等の惡意を有したるを聞かす、（自由平等思想の注入等平和的手

段の外）寧ろ日露戰爭の際英、米、猶太は露國の凋落を喜ふ關係上日本に好意を有したるもの〻如く高橋藏相か財務官として出張中、猶太人の公債に應募したる恩誼を深く感し入られ、猶太人を德とするに至れるは此時よりなりと聞く、實際彼等の財政上の援助なく財政涸渇せは日露戰爭は帝國の不利に終りたるやも知る可らす、之を德とするは洵に日本人の日本人たる所以にて極めて美はしき點なりと思考す、然れとも猶太人より見れは其當時日本の武力を利用し露國を敗戰に導き皇室を倒し猶太人を解放せんとする策略より出てたるものなり、千九百〇五年の革命にて其一端は暴露せり又今回の大騷亂を以て『ロマノフ』家倒れ露國は猶太人の解放を通り過きて猶太人の天下となりたる以上は、早や日本の世話を要せす、寧ろ日本をも露國の運命に導く順序となれり『猶太人の一部（ブンド派）は貴國か帝國として存在する間は之に向てする攻擊を中止せさるへし』とは穩健派の一猶太人（博士）か哈爾賓にて言明せし處なり（大正十年三月）。又大正九年十月三十一日大連『ヤマトホテル』に於ける天長節祝賀會の際邦人か陛下の萬歲を三唱するに方り、別室客室にありし一猶太人か外人間に宣傳して曰く、『氣の毒なから日本人か陛下の萬歲を三唱するも今回か最終ならん』とて大正十年には日本に革命の起るを宣傳し、傍らの露人より日本は猶太人の宣傳位にて革命の起る如き薄弱なる國に非す』との反駁を受けて立去れる事實もあり、猶太人か露、獨、兩大帝國を倒したる後日本帝國に及を向くるものあるは自然なり米國系猶太人『トーベリソン』『即ち『クラスノシチョーコフ』が首領たる知多政權の機關新聞『ダリネウオストーチナヤレスプーブリカ』（極東共和國の意）か、大正十年五月八日の紙上に掲けたる排日的の論文の一節に『世界革命最後の蒸溜々罐は日本に破裂す、神聖神秘なる『帝』は其擁

護者たる軍閥と共に雲上に追ひ散され、勞働者は靜かに其政權を執るに至る』の意味を宣傳せり。右の記事は同政府外務次官『ゴジエウニコフ』か日本との通商開始を欲して浦鹽に往復する頃の事なるに想到すれは彼等の目的とする處は略察するに難からす。

又極東共和國の猶太系代表者か哈爾賓に於て四王天大佐と會談中にも、吾人の得たる信すへき情報によれは日本は最大限五ヶ師團を出征し得るのみ、若し之れ以上を出征せしめんとせは革命の爲內部より崩壞すへしとあり、吾人は之を信すと述へたり、何人が此かる情報を傳ふるやを知らさるも、此の如くにして彼等は益々帝國を侮辱するに至るべし哈爾賓にて知り得たる所によれは日本人にて彼等に內情を打明くるものある　如し。

要するに猶太人の一派か帝國の革命を希望する點は各種の場合に感知せらるゝ所なり。

然らは之に對抗する爲帝國は猶太人を敵とすへぎか是れ次節に研究せんとする所なり。

第二節　猶太敵とすへきか

然り猶太は敵とせさる可らさる場合あらん、然れとも其排猶太の理由は歐洲人の理由と異らさる可らす、面塊（ツラダマシイ）の氣に入らぬ事を言へは、日本人には猶太人より一層意地惡き面貌あり、色の純白ならさるものある點よりせは日本人には印度人馬來人に近きものあり、祖先崇拜の猶太敎か不可なりと攻擊せは神道は如何と反擊せらるへし。

故に吾人か猶太人を排する理由は左の三點にあらさる可らす。

一　猶太人は四海同胞の大義を沒却す。
二　猶太人は已れの文化を人に强ゆ。
三　猶太人は秘密諜報に長し國家の機密を暴露す。

猶太人は『インターナショナリスト』と聯合しある關係上四海同胞主義なるか如くに見ゆれとも、實は最も民族主義の堅固なるものにて其經文中にも常に『イスラエル』民族の爲に祈る事を敎へあるのみならす、明に『凡ての猶太人は兄弟なり』との意味にて結束せる事は彼等の著書に明記しあり（コーヘン著近世猶太生活第二十三頁）勿論此の命題のみよりして『猶太人にあらさるものは兄弟に非す』との命題は論理上出て來らさるも、先に猶太人の性質及宗敎の部に述へたる如く、兎角排他的に流れ、他の民族は神の選民に非す、となすを以て、之か爲め從來他の民族との間に溝渠を生したり、又千八百〇七年那翁の催したる『サネドラン』の猶太會議に於て造物主を神と信するものには正義と博愛とを以て對することを敎ゆるも、其他に及はす（「ヴェルサイユ」會議に於て日本の主張を支援せさりしは之か爲とも見ゆ）即ち猶太人の文化には善き點はあるも凡てか餘りに民族本意にて其世界的なるは已れの民族を以て世界を統一せんか爲の世界的に見ゆ此の點に就ては是非共猶太人の反省を求むるを要す若し彼等之を聽かさらんか、恰も支那か往年中華を以て誇り、日東帝國に對して無禮を加へたる時、帝國は起て之に膺懲を加へ以て小國と雖とも侮る可らす世界は四海同胞共存共榮の主義ならさる可らさる事を了解せしめたると同樣に、猶太を膺懲せさる可らず、猶太にして既に歐米諸國を金權の力により籠絡し得たる餘威に乘し、帝國を其流儀にて軟化し、猶太主義の前に屈伏せしめんとするも、帝國には神州正大の氣磅礴として猶嚴存せり、幼少より英、米に學ひたる邦

人又は其の亞流者中には不智不識の間に英、米の空氣を通して猶太空氣中の此の毒氣を吸收したるものあるへけれとも、有識階級の大部は猶健在なり、寶刀は常に百練の精鋏を斷つの魔力を有す、自ら猶太人の手先たるを知らずして彼等の手先となりて働く連中は、此の寶刀を賣り　ひて金に代へんとし、參謀本部の廢止論なとを高唱しつゝあり、此の如き連中は再び小研究の當初に戻りて猶太人の勇氣と米國の總司令官『パーシング』か人道主義の『マッソン』團員なることを了解するを要す『マッソン』團と雖とも殿堂には三ヶの圓柱あり、恰も吾人の三種の神器に象りたる如く智、仁、勇の三德を担はせり參謀本部の廢止と文部省の廢止を高唱する日本人は須く上海迄渡航し、『マソソン』殿堂の智勇の大圓柱を除却して猶天井の支ゆるやを實驗せられたし、軍備の制限又は極端に之か撤廢なとを高唱するは全然武力を擁せす金權の力により世界を統一せんとするものゝ思ふ壺に入るものなるを知らさる可らす、頃日聞く、支那小學讀本に左の意味の一譬喩を加へたりと。

虎あり一日牛に遭ふ、直に飛ひ懸らんかと身構へたるか牛に角あるを見て思へらく今彼より攻勢を取るに非す、如かす彼れの角を撤せしめ然る後處分せんにはと、此に於て溫顏を以て牛に近つきて曰く、貴公の堂々たる體格は以て獸界を風靡するに足る、唯だ一の見苦き部分あり、頭上の二角之なり、獸類共存の文明世界に於て此の如く護身用の武器を露骨に携ふるは如何にも獸類の平和を脅かすの觀あり、見よ吾等には角の如き武器なきに非すやと牛之を聞て正義の叫ひとなし、直に兩角を取拂へり、其の終るや終らさるに虎は爪牙を現はし一擊の下に牛を斃せりと、是れ西洋の物語を燒き直したるやの感じあり然れとも財政窮乏の爲裁兵の議ある支那の朝野に此の眞理を露骨に教科書に掲くるの勇氣

あるものには敬服せさるを得す、實に牛か角を濫用し、又は之に滋養物の多量を吸收せられ又は角か重き爲歩行困難なるか如きは不可なれとも、角を撤廢するは無謀なり、牛か角を撤廢するは虎の如き猛獸か世界に跡を絶つに至りたる時なるを要す。

而て今後虎となつて働くものは米國の順番なることと歐洲人か大戰終了後直に唱導せる所なり、由來米國提議の露骨無邪氣なる所に米國猶太の特色あり、前に米國に於ける猶太勢力の部に於て記述せる如く、波蘭の猶太壓迫に天主教徒の參加を禁する樣羅馬法王より禁令を發せられ度旨『アメリカ』式の無邪氣を以て交渉せりとは佛國猶太の批評なり、無邪氣か有邪氣かを明にせさるも彼等米國は此種米國猶太の提議の如く晴天の霹靂的に各種の問題を起すなり。

『ノックス』の滿洲鐵道中立問題、華盛頓會議等は既に現はれたる問題なるか今後現はるへき西比利亞鐵道の米國管理論、又は國際管理論の如きは、決て猶太に不利なる提議ならさる可きは現大統領の屬する共和黨も亦猶太人を支援する事實か雄辨に之を證明すへし。

西比利鐵道は露國の現狀上之に委するときは到底改良の望無く、長く荒廢狀態を呈すへきを以て人道の見地より衆に先んして鐵道改良の事業に奔走するは誠に堂々の主張にして、米國の處置に對し一點抗議を申込むの餘地なきか如し、然れとも飜て日本帝國の過剩人口と其耕地面積の少きを見よ、老幼相携へて脊戶の段畑に陸稻を耕し、尙食糧品の不足を訴へて止ます、此の過剩人口を米國に送れは米國は有色人種として之を拒絕し、加奈陀濠洲亦然らさるはなし之を西伯利に求めんとせは日本は大陸に領土的野心を藏すると宣傳して之を喜はす、終に帝國に最後の蒸氣々罐を破裂せしめんとするは抑も

何の故なるや、日本民族か帝室を中心とする故か、造物主を神なりとする宗教を教へさる爲か、世界猶太總人口の半數を藏する露國と、猶太人口は又其の半數なるか富の大部を藏する米國とを太平洋方面より連絡する爲の途上に横り、猶太の思ふ壺に入る望少き爲之を破裂せしめんとするか、吾人之を適確に判定するは難しとするも豫想は爲し置かさる可らす、又極東共和國は米、露兩猶太の中繼點なり、西伯利の寶庫の番人となり、異教徒たる日本の侵入を經濟的にも許ささる爲の目的とも見ゆる點あり、凡て之等帝國に對する壓迫は異教徒に對する壓迫にして、已れの民族か二千年來苦められたる所を人に施すなり、米國必すしも正義の士なきにあらす『アウトルック』の所説には穩健なるものあり『ボストン』太學教授某は五ヶの理由として排日の不可なるを説き、『スタンフォード』大學の教授『トリート』氏亦日本の爲に辨護す、米國全部か排日に非ずして或る勞働階級又は之を操縱する一派か日本を敵視するを察し得へし、若し猶太人か異教徒を特別に扱ひ、之を壓迫して四海同胞主義、人種別撤廢主義を沒却し來らは、即ち彼等には終に救世主の降來無かるへし、是れ不正義にして實際に人種別撤廢の太傘を翳し、王道坦々として進む帝國の前には屈伏せさるを得されはなり（之か爲には日本の對鮮人、支人の態度を改めさる可らす。）

又已れの主義を外國に强要する程干渉の甚だしきはなし、凡そ國家は工業製作品の如く一時に多數同型のものを造るを得ず、即ち成立の歴史と其傳統とあり、米國に大統領政治か假に最も適當するとしても、米國人又は米國猶太人『トペリソン』等か之を日本に勸むるは餘計の御世話にて、之こそ太なる干渉なり、日本より決して米國又は勞農露國に帝政を勸めたることなく又今後も勸むること無から

ん、然るに『トロツキー』事『ブロンシテイン』の勞農政府は世界の無產階級に號令して列國の內政、勞働政策に干涉を試み、『トーベリソン』の政府は朝鮮人數千を養ひ勞農韓國の設立を約し以て帝國の朝鮮統治に干涉し、而て中外殊に米國に向つては日本の駐兵を以て內政干涉と爲して惡宣傳至らさるなし。

單に西比利亞又は米國より絕叫するに止まらず帝國の樞要地にも猶太の機關は逐次整備されつゝあるか如し。

旣に性質の部に於て述へたるか如く猶太人は勤勉にして思慮周密、虛言の構成極めて巧なる外、金錢關係に於て便宜多き爲か頗る間諜勤務に適し又實際之に使用せらるる場合少からす、哈爾賓に於ける日本軍憲なとか中央部の秘密決議を手にする以前には猶太人には疾くに知れ渡り居るの感ある場合あり此の點は帝國朝野の大に注意を要する所なり。

然れとも猶太人間諜の眞の目的は決て之を命したる國の役に立つる爲にするに非ずして猶太人として役に立つる爲なり、勿論金錢を與へたるものに其の情報を呈すれとも之と同時に全世界猶太同盟の處には其情報到着する譯なり、其の機關雜誌に大戰中彼我の適確なる猶太人情報か載せらるるとせは、其他の情報の到着し居るへきは當然なり、世界大戰中『コッペンハーゲン』の如き中立地には多數の彼我間諜入り込み居りたるか漸次互に顏を知るに及んで妥協成立し一ヶ所に會して情報を交換し以て雙方共比較的精確なる情報を齎らし歸りたる事は當時同地にありし責任者の直談なり、勿論悉く猶太人なるや否やを明にせすと雖も、其中に猶太人を交へさるの理なし同地には『シオニスト』の事務所

ありたるに注意を要す、又往年巴里政界の問題となりし佛國猶太人砲兵大尉『ドレフユース』の軍機漏洩事件も猶太人は獨逸に機密を賣りたる事實なく全く寃罪なりと憤慨し、墺國猶太『ヘルツル』博士をして『シニオスム』の運動に一身を投ずるの覺悟を起さしめたりとさへ傳ふるも佛國の軍界の空氣を熟知せる者の眼より見れは、彼の自由國にて、決て輕々に人身の自由を拘束するか如き事なし、恐らく『ドレフユース』か機密書類を取出したるは事實なるも、之を獨逸に賣るか目的に非ずして猶太の爲にする目的に盜み出したるに非るやとも考へらる、今回の大戰當時『ドレフユース』の良友『サロニカ』方面軍司令官『サライユ』將軍、其部下同く猶太人憲兵大尉『マチウー』と共に軍機を敵國に賣りたる嫌疑にて問題を起し罷免せられたることあるか、是亦米國方面の猶太本部に情報を傳ふる爲にて強ち獨逸に賣る目的ならさりしやも知れず。

大正十年五月殖民地長官會議の際某猶太新聞の有力者は、責任ある日本人に向ひ若し會議の內容を精確に知り得は本社の財政裕ならすと雖も少くも三千金を出すへしと言明せり、該責任者は三千金は愚か三萬金三十萬金を積むも日本人の口より漏ることと無しと喝破せるに、否とよ、探り得たる特派員に賞與として提供するにて勿論日本人に提供するに非ずと誤魔化し去れり。

又曩に『シオニスト』の分類の部無所屬黨の宣言に於て述へたる如く彼等は猶太の諸機關中に明に情報局なるものを設けあり、表面上の任務は世界各地に離散しある同胞に關する情報に任すと云ふ、嘗て哈爾賓在住の一猶太人其兄弟か米國に赴きたる儘暫く音信絕えたるを以て、情報局に聞き合せたるに米國に健在の報を得たり、此の情報局は一國警察權の及はさる猶太窟の內部迄の情況を知り得るもの

と見ゆ、從つて勞農露國内の情況等も詳しく承知しある筈にて充分なる連繫なけれは能はさる所なり、何故此く猶太人か情報に熱心なるやを考ふるに勿論從來已れの屬する國家の代表機關たる領事なとか熱心に世話をなさざりし關係より自營にて造りしものと思はるるも、一は米國猶太の『コングレス』の議長『ブランデイス』か聲明せる如く米國猶太は全世界猶太問題の解決に必要なる政略上、社會問題上、經濟財政上の責任を取り得ることを覺悟しあり、此點よりして凡ての情報を集め置くの必要あるは極めて見易きの理なりとす以上述べ來れるか如く猶太人か自已の排他的、獨尊的主義を秘密手段、非常手段、に訴へてまで逐行せんとするは不正義なり、終に再び彼等の神の怒に觸るるや明なるか、帝國として之を放置せは彼の失脚に先て倒るるの虞あり然らは如何にして之に對抗せんとするか。

一、猶太人の指導する國家を敵とするか。

二、猶太人を敵とするか即ち日本への移動居住を禁し又は之に大なる制限を加ふるか。

猶太人の指導する國家と言へは、勞農露國、極東共和國竝に最も之に同情を表する理由ある米國なるか、彼等は飽迄表面には親善を求め來り、決て敵意を有するを仄かさす、前節に述へたる知多政府機關新聞の如きは、哈爾賓にありし外務次官より、直に注意の電報を發し、日本軍憲には其の不謹愼に對し遺憾の意味を言明せり、此の如きを以て、當方より正面彼等を敵とするは困難なり、彼等は凡て責任を回避し得る如く豫め計畫しあれは、之を捕ふるは中々に難事なり、之を戰場に譬ふれは、兩軍鐵條綱を張り壕を堀り、地雷迄諸所に設けて對峙したるものか、彼等側より陣地を撤し、諸障碍物も除去して平和の意を表し、當方か未た全然撤去せさるを見て、野心あり戰爭再興の意ありと宣傳し呼號

しつゝある一方には、既に久しき以前對陣中より準備したる坑道により地下數十米の深さに至る迄、二三層の坑道を堀進めて大内山に向へり、又其の飛行機は暗夜帝國の陣地内に爆彈を投し、參謀長を倒し我軍より起て之を咎むれは當方の飛行機に非す、證據を示せと云ふ類にて、一筋二筋の縄にて縛し得る代物に非す。

此の如きを以て、彼等を敵とする場合は充分研究し置かさる可らさるも、我より進んて之を擊つは、極めて正々堂々の理由を發見し得たる時に非れは不可なり、彼等は世界の同類に檄を飛はし、敵國を孤立の位置に置くを努む可けれはなり。

此に於て、我も亦對坑道を設けて敵の前進を阻止するを要す、地表面上の對敵行動終りを告くれは、之より外に方法なし。

彼若秘密主義を以てすれは我亦秘密行動を以て對抗するの外なし。

然らは彼等の秘密行動を取締る爲には何を爲すへきや、猶太人に一々警察の尾行を附するは不可能なり、縱し之を附したりとて猶太語は勿論英、露の語にも通せさる尾行者か百人附き纏ふも唯訪問先を知る位に止り大なる益なし。

然らは猶太人に移動居住の權を與へす、又は之を制限するか、露國の反猶太主義者は吾人に勸むるに此の方法を以てす、露國は始めに入國を寛にし、後之に壓迫を加へたる爲に倒れたり、即ち南京蟲其他の害蟲の侵入に委し然る後其害毒を知り之か驅除の爲に盛に除蟲粉を燃やし爲に已れも目を痛め咽喉を害し臥床の止むなきに至りしとき、害蟲は同類は世界大戰てふ大努力を以て外部より戸や壁に穴

を穿ちて毒瓦斯を排除して同類を救ひたる一方、臥床中の露人を襲撃し之を半殺にし、目下は害蟲か其家屋の主人然たる有樣となれり、獨逸も亦然り然るに日本には未た猶太人多からす、今に及んで制限を加へ又は全然猶太人の爲に門戸を閉鎖するに如かす。

是れ事實に立脚したる一應の理窟なるか如し然れとも之は人種別撤廢の大義に戻りたるものなるを以て、米國猶太竝に英國猶太か、己れの樂土とし安全なる避難地とせる米國竝に英領加奈太、濠洲に日本人を排斥するを止めさる時に於て始めて持出し得る問題なり、其迄は

先帝陛下の叡旨を體し四海同胞の大義に則り行動するの外なし、又猶太壓迫の歷史より考ふるに、第十五世紀の末葉西班牙葡萄牙は猶太人壓迫を斷行するの止むなきに至りたるも猶太人を驅逐し終りたる時より今日の衰運に向ひ、西班牙系の南米殖民地は、多數の猶太人を包容する北米合衆國の爲に逐次西班牙を離れて合衆國の勢力を迎ふるに至り、近年米西戰爭を以て『フイリピン』諸島をも米國の手に渡ささるを得さるに至れり。

日露戰爭終了後、米國か日本と反目するに至りたるは、日本か充分に門戸を開放せさりしによるとの議論あるも、其眞意は米國猶太か、己れの思ふ樣に西伯利、支那の問題を解決し得す、折角日本を助け、露國を追ひ拂ひたるも何等の益する所なかりしに憤慨し、玆に日本に對する殺意を生し、排日の氣風を到る處に助長しつつあるに非る無きか、去れは帝國か此の上猶太壓迫の西洋歷史を繰り返すときは、徒らに全世界に散布せる猶太の反感を益々高め、其の得意の宣傳力を用ひ、猶太人以外の民族をも日本に敵せしむるに至るを以て、單に日本に害を及ほすの虞ありとて之を排斥するは取らさる所

なり。

帝國は宜しく一視同仁、四海同胞の大度を以て猶太人に接し、彼若し我に害を爲すものあらは國法に照し處斷し敢て假借せす、此關係は他の外國人と何等異らさる可きを要す。

基督敎の文句を借りて言はしむれは、神は日を正しきものの上にも正しからさるものの上にも照らし給ひ、雨を正しきものの上にも正しからさるものの上にも降らせ給ふ、吾人は猶太人か帝國を顚覆するの非望を藏すと聞くも之か爲直接何等其の事實に關係なき猶太人に迄迷惑を及ほすを不正義と考ふるものなり。

然れとも猶太敎に、神は全智全能にて、人か口に出ささるも心に思ふ事迄能く知ろし召し賜ふとあるか如く、正しからさるものに日を照らし、雨を降らすには沒分曉漢にて行ふに非す、與ふへきものは正當に與へ置き、而て天罰は其人又は來世又は子孫に及ほし一點一毫の罪過も其儘には濟まささるなり、之と同樣に吾人の猶太人に對するも與ふへき權利は充分に與へ、又活眼を開き彼等の爲す所謀る所を明察し而て罰すへきは罰し討つ可きは討たさる可らす。

英國猶太人『ザングヴィル』氏の所謂『反猶太は同類か非同類を怖るるなり』との宣傳的言論に安堵し何等之を硏究せさるか如きは不可なり、日本の社會主義者(共產?)大庭景秋氏か勞農露國入りの途次大正十年六月哈爾賓の日露協會語學校生徒に行ひたる講演なるものを聞くに之と同意味にて聯合國か西伯利に出兵し之に干渉するは勞農政治か人生に最大幸福を齎らすものなるや、之に反するものなるやを確めすして之を破壞せんことを企てたる愚策にて畢竟不明瞭なるものを怖るるの憶病心より出て

たりと宣傳せりと云ふ、即ち猶太人『ザングヴイル』氏の反猶太觀と符節を合するか如し、然り吾人は其正體を確めずして之を毛嫌ひするは男らしからす、又正義に非るを以て之は不可なり、宜く古來歷史上の事實と現在の活歷史とに照らし充分了解したる上に行動するを要す、『ビスマーク』の述へたる『反猶太は愚者の社會主義なり』も亦味ふへし。

又猶太人は空氣の如し、世界到る處に擴かり居れり、目に見えされとも存在はするなり、空氣か害をなすことありなどとは愚なり、空氣は人生の必要物なりと空嘯き、粗末なる小屋を建て、支柱をも施さされは、其夜暴風一過丸潰れとなり、壓死の不幸を見ることあらん、されはとて空氣は不都合なり有害なりとて自己の家を密閉し、排氣鐘を以て空氣を除外すれは外部は高壓となり、內部は低壓となり、氣壓の爲に潰さるるに至ること西班牙、帝政露國の如し。

哈爾賓の猶太新聞の有力なる一記者亦空氣の例を執て曰く、帝政露國か從來猶太人を壓迫せるは猶太人を知らさりしか爲なり之を極度に壓迫し盡すを得るものと考へたるなり、見よ無心の空氣を取り密閉器中に壓迫せよ、二氣壓堪ゆへし、三氣壓、四氣壓猶堪ゆへし、然るに十氣壓二十氣壓に至らは、何れかに欠隙を設けて空氣は逸出するに至らん。云々

是亦反猶太に限らす民心の凡ての機徵を現はし得へし。

昭憲皇太后陛下の御製　『淺しとてせけば溢るる谷川の心ぞ民の心なりける』

との叡旨は以て外臣猶太人にも及ほし得へし、譬喩に水を取らず空氣を取れるは、日本人中に米國人英國人あるを知つて、目に見えさる猶太勢力の存在するを知らさるものあるを以てなり、然れとも

茲に尙考慮すへきは露獨人も『ビスマーク』の嘲るか如く、又前に引例せるか如く無心無害の空氣を捕へ密閉器内に壓搾して粉碎し盡さんとしたるには非すして、必すや有毒瓦斯と認むへきものを捕へて密閉器に入れたるならん而て材料强弱學より容器自からの抗力を量らすして瓦斯其のものに壓迫を加へ終に之を液體化し得るに先ち容器の破裂を來したりと認め得、然らは毒瓦斯を液體化する外には之を無害となすの方法なきや、例へは之に或る化學作用を施し分解同化せしむるの方法なきや是れ次節に於て研究せんとする所なり。

第三節　猶太利用すへきか

先つ歷史上に猶太を無害ならしめたる事實なきやを考ふるに、左の史實あり。

佛國革命前『メンデルスゾーン』の思想歐洲を風靡せるとき獨逸は遂に猶太人の民權を承認すへき準備をなせり、此に於て猶太人に對する種々の制限法は漸次撤廢せられたが、之と同時に猶太人は其固有の國民性を漸次喪失し、猶太敎に對する信念亦從て稀薄となりしなり、中には全然基督敎に歸依せるもの少からす、『ハイネ』『ベルネ』『エドワルド、ガンス』『レール』『メンデルスゾーン』(音樂家)及『ネアンデル』等の大家は何れも猶太人なるに拘らす猶太人としてよりも寧ろ獨逸人として其名を知られたりとあり(大英百科全書猶太之部)如何に彼等か猶太臭味を脫したるやを察するに難からす。

此の事實一ヶを取て考ふれは猶太人は壓迫すれは害をなせとも遇するに道を以てすれは何等有害なるものに非す、寧ろ國を富まし天下を益するを以て、多々益々猶太人を收容し之を好遇するを有利とす

るの結論に達するも、事實は而く單簡に非す。

又其後獨逸の作曲家『ウイルヘルム、リチャードワグネル（一八一三年生一八九三年死）も一時猶太人と基督敎徒間の深き溝渠に橋を架くる事の可能なるへきを考へ、其方法は猶太人か人類の向上問題に於て、基督敎徒と手を握れは足れりとなし、猶太人に向て曰く、虛心坦懷自我を捨てて吾人に合し、以て眞に人類の新生命に入られよ、然らは從來の如く差別なく、全く合一し得へし、然れとも兄等に加はる呪詛の重荷を避くる唯一の方法は猶太人たることを抛つにありと、然るに此方法も亦効を奏せす。

前者の例の不成効なりしは『ヘルツル』博士か『シオニズム』を高唱したる當時の猶太人一般の氣風の部に於て述へたる如く、獨墺人に爲り濟ましたるに拘らす、終に『シオニズム』運動の勃興を見るに至りたること、竝に當時此の如き猶太人同化運動を目して破廉恥的と評する猶太人を生するに至りしこと竝に本研究猶太人の性質の部に述へたる不同化性を綜合して考ふれは、猶太人を同化し之を融合するの如何に困難なるやを察するに難からす、國を漂ひ出ててより千七百八十五年に及んて祖國復興運動功を奏し、英國の保護國とは言へ、終に國を再興するの段取りとなりたる以上、彼等の民族的自尊心は益々助長せらるるのみなるを以て、之を同化して利用し行くか如きは益々困難なりとす。

其後今回大戰前に、獨帝か猶太人を利用し『ハンバーグ・アメリカ』線汽船會社長『バリン』なる猶太人に對し『親愛なる猶太人』を以てするに至りたる事及大戰間屢々猶太人懷柔を試みたる事並に之か効を奏せすして再壓迫の止むなきに至れる事は前章に於て既に述へたる所なり。

要するに從來諸外國の實例を見るときは、猶太壓迫を行へは反撥し、されはとて壓迫を緩むれは手加減

を此邊にて止めんと希望せる點に止まらす一層上方に撥ね上るの傾あり、第十八世紀の末葉猶太人壓迫の緩みたる結果米國の獨立革命、佛國の大革命を續發し、佛國をして猶太暦に類するものを採用せしむる迄に其の權威を伸張せるを見ても明なり。

以上述ふる所は全く基督教國の猶太壓迫――懷柔――反撥――再壓迫――壓迫者破滅の歴史なり。

日本帝國には基督教迫害の歴史あれとも未た猶太人壓迫の歴史なし、謂はば帝國は白紙なり、從來帝國より何等の壓迫も制限も加へたることなし、反對に猶太人か已れの樂土として尊重する北米、濠州加奈陀に於て排斥の不幸に遇ひたるのみ、又間接に『メンデルスゾーン』『ルーソー』等の傳播せし社會主義の毒瓦斯を放散せられ、幾分害蟲の驅除に(横暴なる富の獨占者等を指す)効ありしと共に、無邪氣なる青年を發狂せしめ又は催涙作用を起さしめたり。

我邦には猶太に關する本研究の如き初歩の研究にも目を通さす、一時の思ひ付き的、猿智慧的に、猶太は宜く利用すへしと爲すものあり、此く申す本研究者も一年前には左の説を有せしを自白す過激派を崩壞せしむるには之か指導役たる猶太と結ふか、過激派と結ふかにあり、兩者は一時の途連れに過きさる理なるを以て永く兩立する氣遣ひなし、而して過激派と結ひ之を敵に非すと稱するは千九百十七年『カイゼル』か『レーニン』の爲に全く背負投に遇ひたる二の舞を演するに過きす、握手は必す手を燒くに至るへきを確信するを以て斷して不可なり、寧ろ全世界の猶太と結ひ、之を利用して過激派を崩壞せしむるに如かすと。

然るに逐次猶太研究の進むに連れ、又『トロツキー』等猶太人の世界赤化の野心は『レーニン』が個人所

有權承認後三、四ヶ月の後に尙繼續し、過激派倒るゝとき之に代るものは猶太系の社會革命黨『ケレンスキー』の評判高く、旣に『プラーグ』に於て、巴里に於て其運動起れるを耳にせる時、猶太を利用する過激派の崩壞は、共產制丈は止め得るやも知れされとも全世界赤化の火は止め得るものに非るを悟れり、尙飜て帝國の年齡を算するに紀元二千五百八十一年を算し西洋紀元に先つ六百六十年なりと雖も猶太紀元を討ぬれは實に五千六百八十二年を算す素より彼れの歷史は『アフリカ』『アジア』を往復し次て全く國を失ひ、千七百八十六年の放浪生活を續け國際公法上の國家をなさゝりしと雖も、精神的には國家は亡ひさりしなり、即ち帝國の歷史は殆んと全部内爭の歷史にして（二、三外國との關係はありしも）猶太の歷史は外交の歷史なり、世界の隅々迄探險の歷史なり、商用旅行の歷史なり、法律硏究の歷史なり、哲學、科學、醫學硏究の歷史なり、世界各國の軍事外交の機微より農商工業の勝手元に至るまで悉く之を知悉したゝなり、此の俗に所謂海千、山千否海山五千七百の古狸を懷柔し之を利用せんとするか如きは桃太郎か猿犬を懷くるか如く容易ならす、寧ろ幼少なる大石主稅か略を以て大野九郞兵衞を懷柔せんとするの類に近からん。

故に曰く猶太を利用し懷柔するか如きは猶太人以上の狡智に長け經驗と學識を備ふるものに非れは不可なり帝國は斷して此の『マキャベリック』の術策を弄す可からす。

然らは對猶太問題は親善を主とし如何に進むへきか是次節に述へんとする所なり。

第四節　結論

以上述へ來りたる所により猶太問題か如何に天下の大問題なるかは略ぼ判明せり實に猶太問題を處理し終らさる間は、世界に平和は來らす、而て世界列强中此問題を最も公平に處理し得る資格を有するものは獨り大日本帝國のみなりと確信す、何れなれは他の列强中には猶太の金權既に其の死命を制し若し之に反抗する勢力の擡頭するときは國內の分裂を來す現狀にあるもの、又は然らさるも從來の行懸り上反猶太的暗流の輕視すへからさるものありと雖も、獨り日本帝國には從來猶太との行懸りなく目下は殆と白紙の如くなれはなり。

故に帝國か之より定む可き對猶太政策は、須らく國家萬年の長計に基き、俯仰天地に耻ちさる堂々たるものなるを要す、即ち國民全部、本問題の緊要なるを認め、眞摯なる研究を遂け、着實なる基礎の上に國策として確定せさる可らさるなり、然るに從來少く帝國言論界に親はるる猶太問題なるものには歐洲反猶太派の亞流に非れは米國猶太の宣傳を飜譯せる如き魔醉劑的のものあり、之にて枕を高うし安眠する時は本邦傳來の三種の神器より日本の民族的精神迄悉く盜み去られ米國富豪の骨董品を入るる土藏か、歐洲に博物館の一角を占むるの運命に立至るやの虞なしとせす、帝國臣民にして萬一右の運命に陷るも意に介せす、箱庭を弄ひ、謠曲か都々逸、浪花節を唸り、古池や蛙飛込む水の音を駄句り、鼓腹擊壤さへ爲し得れは統治者の誰なると、世界文明か如何なる趨勢に向ふとは吾か關する所に非すと云ふ如き支那下層民の氣風に成り果て、『インターナショナル』尤もなり、猶太の統一亦致方なしと云ふ人物あらは、宜く其害毒を他人に及ほささる間に勞農露國と協定して國籍と共に之を彼の地に送り『インターナショイル』の治下に醉生夢死の動物的生活欲を滿足せしめ、其他の日本人即ち世界

に冠絶せる國體と帝國獨特の文化（クルツール）（物質方面に非す）を提け、世界の百鬼夜行狀態を矯正し以て民族國家三千年來の使命を果すの良心と勇氣ある眞正の日本人を以て帝國を組織するを優れりとす、此の如き忠良なる日本人にして始めて猶太問題を熱心に研究し眞面目なる國策を案出するを得へし。

露國の文豪『マキシム、ゴーリキー』か千九百十六年露國人の猶太問題に無頓着にして終に國を誤るを虞れ智識階級に向て絶叫したる事は玆に抄譯して他山の石たらしめんとす。

（前略）人間の最大罪惡に數ふへきものは將來の運命に無頓着、不注意なるにあり、而て此の無頓着は吾人露國人の代表的欠點なり、露國に於ける猶太人の狀態は吾々に取りて實に耻つへき事なり、之亦悉く各自の自我に對する無爲と、正義の大問題に對する不眞面目より來るものなり云々（千九百十六年七月猶太解放）

露國人の猶太問題に無頓着なりしは六百萬人の猶太人か國内に猶太人として棲息し苦悶しつつあるを見て猶ほ無頓着なりしものにて、『ゴーリキー』の憤慨は至當なるか、帝國か從來無頓着なりしは猶太人か僅に三、四百人にして而も英、米等の國籍を有したる關係上他の外國人と同樣に、單に異人さんとして尊敬したるに止りたるものにて、深く咎むへきに非すと雖も、既に對米、對露の問題に多くの猶太問題を含むのみならす、帝國内に活動する猶太勢力に大なる注意を要するの時代に達せるを以て從來の無頓着を許し得さるに至れるなり。

之より愈々本問題たる對猶太策を展開するに方り玆に從來述へたる所を綜合し猶太の進路を判定せさ

る可らす。

大體に於て猶太は正義を以て世界を統一すへき神の使命を果さんとしつつあり。

穩健派は右路を取り世界無敵の金力を提け宗教的結束を堅くし徐々に進行す。

急進派は左路を取り明かに赤旗を飜へし我邦の階級と資本とを葬り去らんとす、而して其運動は秘密なれとも急激なり。

即ち右の作戰方針を以て堂々と進み來る猶太に對する帝國の方策は左の如くなるを要すへし。

右路よりの攻戰は素より正義人道を標榜し來るものなるを以て、之に對しては飽く迄正義的に對應せさる可らす、即ち之に何等他の外人以上に制限なとを設くる事なく、全く四海同胞の大義を實現し、而て彼等と自由競爭を行ふなり、露國人か百餘日の祭日を休み『ウォツカ』に醉ひ而て猶太人か働き經濟上、學術上の實權を握るに至るを恐れ之を壓迫したるは不正義なり、已れか横はりて仕事をなし、他のものか立て働くを憤るは不正義なり『ビスマルク』の口吻を以てすれは此意味に於て『東歐諸國の反猶太主義は怠惰者の社會主義なり』と謂ふへし。

帝國は此かる關門制限を附す可らす、猶太人にして帝國大學へ入學の希望者あれは之を容るへく、商業、殖産凡て彼等に特別の制限を附せす、外人に許し得へきものは悉く之を許すを要す但し邦人か此競爭に勝つ爲には國民全體は非常の勤勉と、節制と、人格の向上とを必要とす。

嚢にも述へたる如く吾人か年始廻りの屠蘇酒に醉ひ、車上に醜體を横へ、終日人間を動力とする器械に乘り廻る頃は、彼等猶太人か一堂に會して神に祈り又年頭の祝詞は交換し終る頃なり、人あり之は

臥薪嘗膽の爲なり日本帝國は普通の事を行へは可なりと曰はば、是れ未た時勢を悟らさるものなり、獨、墺、露の三大帝國を屠りたる大勢力か今や帝國に向けられつつあるは、既に說く所にて疑ふの餘地なし、然るに今尙元祿時代、鎖國時代、天下泰平時代の舊慣に捕はれ、悠々毛筆を弄し、出所の古き陳文漢語を搜し出し、人に讀み得さるを以て已れの誇りとなすか如き惡風は存續し繁文褥禮跡を收めす、之にては勤勉なる猶太人の實行式なるものと比肩し常に後れを取るに至るへし、尙此方面よりの攻擊に對し最も緊要なるは彼等の武器を無効ならしむる處置之なり、換言すれは彼等の擁する大金力をして何等邦人を腐敗せしめさること之なり、彼等の金の流入するは多々益々歡迎するや勿論なり、然れとも猶太人の性質拜金射利の部に揭けたる猶太人『スピール』の警告は亦以て吾人の警告とせさるへ可らさる所なり、即ち猶太人か拜金射利に努むるは徒らに一身の歡樂を求め又は子孫に美田を買はんか爲に非すして、實に猶太民族復興、正義による天下統一てふ大目的の爲にするものなり、其理想を見すして其の骸形を見て之を羨み、之を眞似んとするか如きは、眞に鵜を眞似る烏にて溺れさらんとするも能はさるなり。

單に射利其のものを眞似るを警むるのみならす、黃金による腐廢を防止せさる可らす、今日既に此の害毒は侵入せり、今後は益々甚たしからん、是れ帝國毒殺の最有効手段となれり、然らは如何にして此の緩徐なる毒殺を免るへきや、宗敎の力、敎育の力、言論の力、社會制裁の力を以て不當なる無意味の黃金欲求熱を解熱し、一方には生活の安定を與ふる方法を講し以て饑へたる者は食を擇はすの流儀にて毒饅頭に飛ひ附く者なきに至る樣指導せさる可らす、是れ洵に言ふへくして行はれ難き所にて天下

滔々として黃金に向て走り共產黨の元老大杉榮すら大邸宅を構ふるの報傳はるの秋、此の大勢に逆行し、武士は食はすも高揚枝、渴しても盜泉の水を飲む勿れ、不義の富貴を求めて煩悶せんよりは宜く淸貧に安んせよと呼號するも天下に耳を傾くるもの少し、去りとて之を放置せは此勢は益々助長せらるゝのみなり、故に黃金の害毒關係を帝國の有識者有力者に充分了解せしむるを要す。

先つ宗敎家は區々の敎派宗派の爭を止めて外來の敵を迎ふへし、敵を迎ふると云ふも羅馬法王や『ルーテル』か猶太敎に對したるか如き戰鬪を交ふるに非すして已れの宗敎の眞髓を善く普及し、善く實行し、以て天下の眞理は猶太敎の神も、佛敎の眞如も悉く唯一無二なることを現はし、猶太敎の神を以てする統一の外人類融和の通なしとするは、偏見利己の僻說にして、帝國は四海の同胞民族の共存を以て理想とする所以を明にし、以て猶太敎を抱擁し去るの慨なかる可らす。

宗敎統一なるものは帝國の雄大無邊なる憲法か否認する所なるを以て、强て國敎なるものを建つ可らすと雖とも、少くも正月の元日、二日より宗敎上の祭祀をなし、民族的結束と其文化運動に努むるか如き熱情ある宗敎を有するに非れは終に猶太人の下風に立たさる可らさるに至るを虞る。

又敎育の力も偉大なるものにして文部省の改良擴張をこそ望め之か廢止なとは以ての外なり、此方面よりして眞面目なる、動かさる國民精神か發動し來らさる可らす、帝國大學は最高學府にて之には各種の新思想も先つ到著し解剖され一方敎育の淵源たる文部省に報告され一方は國民の前に展開せられさる可す此關係は陸軍の技術本部か列國軍用技術の趨勢に注意し最新の發明は直に同部にて研究審查の上陸軍省に報告せらるゝと同樣と考へらる、然るに往々吾人の眼に映する處にては、『スピノザ』『メン

デルスゾーン』『ルーソー』『マルクス』等の猶太系の人物か、『タルムード』の中より汲み、又は『タルムード』實現の方便として說ける反面の理論を取て直に最も最良のものとなし、先つ之を白紙の如き大學生の頭腦に注入し以て知らす識らすの間に猶太の世界統一を助長しつゝある輕忽なる學者先生絕無と言ひ難きを感す、『スピノザ』の哲理を講し『メンデルスゾーン』の思想を了解せんとせは彼等の沒頭して研究したる『タルムード』に遡らさる可らす、殊に『メンデルスゾーン』は先に述へたる如く三歲の時より『タルムード』の研究を始めたりと聞く、吾か帝國大學中に少くも露國文豪『マキシム・ゴーリキー』の如く『タルムード』を研究したる學者幾人ありや、之にては誠に心細き次第なり宜く優秀なる文科の卒業生數名を『エルサレム』に派遣し、各國の研究者一萬餘人と共に數年間『タルムード』を研究せしめ、然る後『スピノザ』『メンデルスゾーン』等の學說を解剖せしめ而て後帝國竝東洋諸國の文化を顧みしめは思ひ半ばに過くるものあらん、露都の大學生たりし猶太人にして頻りに日本文化の偉大なる力と、範とするものあるに敬服せるものあり而て我は已れを捨てゝ『ルーソー』『マルクス』を渴仰す、愚と言はんか狂と笑はんか。

又敎育の力に次て(或は之を凌て)國民の思想問題に觸るゝもの否、寧ろ無遠慮に私塾を開き何萬の弟子を有するに至るものは新聞雜誌なり而て其内には穩健眞面目なるものあれとも營業を主とし人氣に投し賣れ高の大なるを以て目的とするもの少からす、之等は宜く社會の木鐸なる看板を撤し新聞屋となり、宮衙に至らは供待部屋に居を占むへきものなり、何となれは此等の人は單に學問と云ふ有形上の道具を擔き居るのみにて其内面的敎育に至つては無敎育者と何等異らされはなり此等の新聞雜誌こ

そ最も速に黴菌の附著し易きものなり、然れとも之を正面より壓迫すれは益々反抗を釀し愚民を毒すること益々多きを以て一方此かる低級言論の顧みられさる如く眞面目なる刊行物を以て之に對抗し一方は新聞雜誌の記者の待遇を豊ならしめ以て亂書濫發を少からしめさる可らす。

此の如く擧國一致して大國難を迎ふるの覺悟ありて始めて帝國は泰山の如く安く眞の正義は世界の一角に富嶽の如く屹立し得へし。

昔北條時宗は無禮なる元の使を斬りたり、帝國は目下此使と折衝中なり、素より彼は暴力を以て我を屈伏せんとし此は正義の假面により徐々に我を無能力者たらしめんとするものにて之か對策は一ならす然れとも國難の來りつゝあるは一なり。

唯前者は急性腸胃加答兒の如し數日の後には玄海灘に満月を望み國難の去りたるを賀し得れとも、後者は肺結核の如く、徐々に進行し來れり國難の到來は目に視るを得す、前者は畏くも 皇室より津々浦々の賤か女に至る迄眞に擧國一致して天神に祈り地祇に禱し以て國難に當れり、今回の國難には壹岐、對馬の諸島守早や其の懷柔心醉する所となりて『元』の手引となりて帝國に及向ひ、一體日本か別に一國を建つるか誤りなりとの謬迷論を振り廻すなり、此くては徐々に來る此の國難を切り拔くるは困難なるへし。

然らは左[illegible]より進む猶太人に對しては如何に對抗すへきか。

之とて眞向より侵略戰爭又は爆裂彈を投し來るに非すして、言論戰を以て、秘密宣傳を以て、直接我か無產階級に迫り來るなり故に之に對しても眞向より鐵拳を振ふときは淺野內匠頭か吉良上野介に及

傷に及ひたる如く、我は流血の責任を負ひ御家斷絕を覺悟せさるへからす、故に彼先つ暴力に訴るか又は暴力によるの外正義を救ふの道なきに非れは我より暴力を用ひさるを可とすへし、然れとも先にも述へたる如く先方は世界最後の蒸氣々罐を帝國に破裂せしむる爲に床下に向て坑道を堀り、一方は暗夜窃に乞食を使用し石油を繿縷に注きて木造家屋に點火せしめつゝあるなり、又『ペスト』『コレラ』患者の糞便又は屍體を暗夜に乘し隱防をして勞働者の巢窟を目懸けて抛擲し歩かしめつゝあるなり、然るに帝國の某有識者にして思想を防止するに銃劍を以てし又は警察力を以てするは誤なり、胃腸呼吸器さへ健康なれは『コレラ』も肺『ペスト』も恐るへきものに非すとなせり、是れ一應尤もの理窟なれとも不幸にして世には胃腸の弱きもの呼吸器の弱きものあり、故に一方衛生法、健康法を施すと共に此等病毒を故意に散布する惡漢（邦人）及ひ之を操縱する黑頭巾を捕へて嚴罰に附せさる可らす、警察力不足なれは憲兵を以てすへく、尙不足なれは軍隊を用ふるに至るへし而て其の黑頭布の逮捕は極めて困難なり是れ曩に述へたる如く市街を彷徨する其れらしきものに非すして何々社員、何々店員の肩書を有し餘暇を以て民族の幸福の爲に働くこと恰も殖民地の邦人か本業の外に居留民會の一役員として公職に盡すと同樣に心得而も秘密に行動すれはなり、此に於て此の取締りの必要上日本に居住し又は往復する外國人には悉く國籍の外に宗敎を調査するの必要を生す。

然れとも此取締りは一の消極衛生なり之無かる可らさるも之を以て滿足するを得す。

木造家屋、麥桿屋根は可成速に改造を要す。

秘密なる火附け人足か火を附け得たりとも之か類燒せしめさるを要す、之か爲市街の屋根の材料に藁

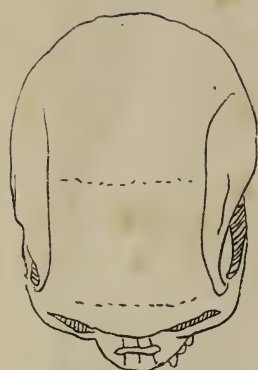
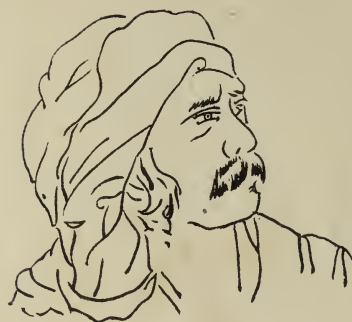
を用ふるを許す可からす即ち不當なる富の倍加、不當なる富の用法（成金振り）不當なる權力の濫用、不當なる政黨團結の行動等にも制裁を加へ又人類相互扶助の大義により老廢を憐み、貧困者を扶くる等の諸社會政策を自ら斷行して彼等に容喙干渉の餘地なからしむるは火の附き易き物料を取拂ふに等し、又戰術に就て言へは突角の如き攻擊し易き點を少くし以て難攻の陣地となすに等し。

然れとも之亦消極的の範圍に屬す、眞に不燃物にて建築し又過て『コレラ』菌を嚥むも差支へなき迄に健康ならしむるには豫防接種を必要とす、即ち猶太主義とは此の如きものなり、『マッソン』とは此の如きものなり、共產過激の主義とは此の如きものなりとの大意を下級民に至る迄各個に懇切に敎育し置くにあり此の豫備智識を與ふる際には多少發熱するもの、眞に病み附くもののあるやも知れされとも醫者の監視の下なれは危險なし、豫防注射液は一度動物體を經て充分無毒となりたるものなるを要す、毒其のものを直接注入す可らさるは勿論なり、佛國は自由、平等、博愛の本家の如し、過激派的猶太運動か最も速に成効すへくして成効せさるは人民に豫防接種行はれ居り免疫質となり居れはなり。

日露戰爭當時巴里にて發刊せる初等經濟學書を見るに、簡易にして勞働者にも讀み得る程度のものなり、此時既に各種の社會主義の説明をなし之に批判を加へ、最後に共產主義をも揚け此の如き馬鹿らしき富の分配法か如何にして此の現世にて行はれ得るや、誰が分配係となるや、終に僧侶に依賴すへきや、僧侶亦不公平の分配をなすやも知れすと痛罵せり、著者若し十五年後の今日、勞農政治の不公平、猶太人『コミッサール』の横暴獨占の形態を見れは必すや其の先見の明を誇り居るならん、兎も角此の如き豫防注射は佛國下層民をも免疫質となしたりと考へ得へく、以て帝國の他山の石とすへし、社會主義的邦人の訴ふる所を聞くに、帝都に於て演説會を開き共產黨を攻擊せんと欲して『働かさるものは食ふ可らすとは共產黨の主義なり』なと口走るときは、其次の説明を與へさるに先ち、臨席の

は一層の危險を伴ふ可しと信す。

之を要するに左路より進む猶太人に對しても鐵拳を以て之に臨むに非すして、極めて公平なる立場より之を遇し彼等をして終に施すに術なからしむるにあり、然るに若し猶太人にして飽く迄帝國を倒し以て自己民族の世界統一を實現せんとして猛進し來り、朝鮮を煽動し、日支を爭はせ、日米を鬪はせ又は日露と事を構へしめ以て日本を弱めんとするの意を改めされは、是明に帝國の正義を無視し神明に反抗するものなり、茲に一家相傳の寶刀を拔き放ち、公然猶太人を敵となし、猶太敎徒を以て世界の平和を攪亂するものとなし、一時世界各國を敵とする覺悟を以て猶太の不正義を天下に呼號するを要す、猶太人か財權を握り政務の要機を執り言論界を掌る國は、其指導により責任を日本の野心に轉嫁し、猶太側に立つに至らん、然れとも帝國軍は軍人精神の銷磨せさる間は容易に屈伏せす、此に於て各國の基督敎徒と猶太に苦められたる國民殊に人種別撤廢運動の恩誼に感すへき諸國民は、日本側に立つに至るべし、帝國か正義に由て行動する間、國民の大部か正義による民族的精神を失はさる間は復ひ神風突發して猶太勢力は一敗地に落ち、大なる窮地に陷るへし、然れとも帝國は羅馬帝國の如く之を奴隷とし壓迫することなかるへきを以て、茲に猶太は帝國の德に感し神の選民は『イズラエル』民族のみに非す、絕海の孤島中にも天御中主神の選ひ給ひ三千年間搖籃中に置き、山紫水明の樂地に於て眞の正義による民族的精神を養はれたる大和民族あるを了解して、茲に東西握手して人道の爲に盡すに至るならんか。

吾人事を好むものに非す此の如き大衝突に至らさる前猶太人か一層日本文化を悟り我と握手するに至るを望むや切なり。　（完）

附圖第一、

各種猶太人ノ骨相

頭蓋骨ノ長キモノ

頭蓋骨ノ短キモノ

（「モルチリエ」氏ノ説）

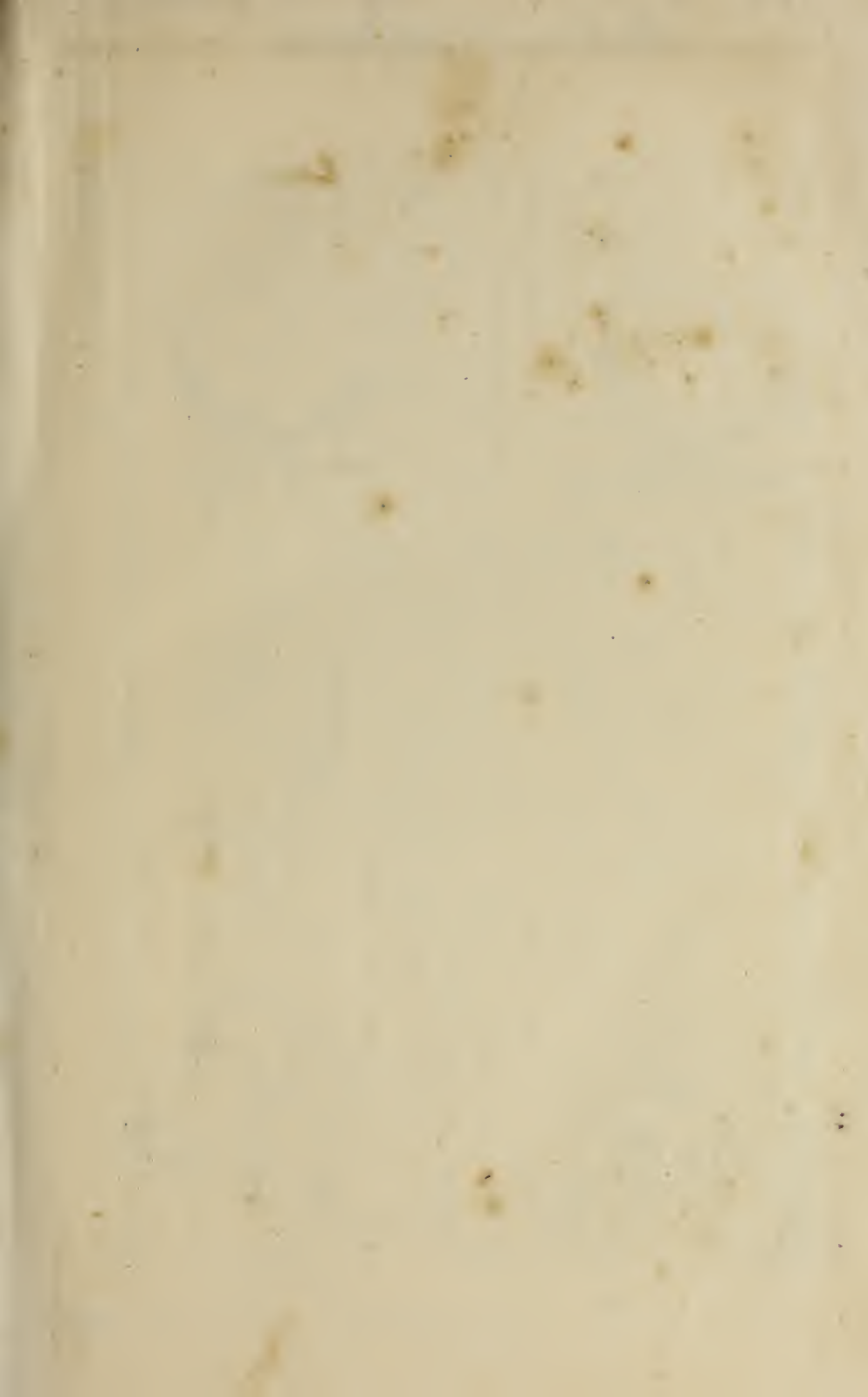
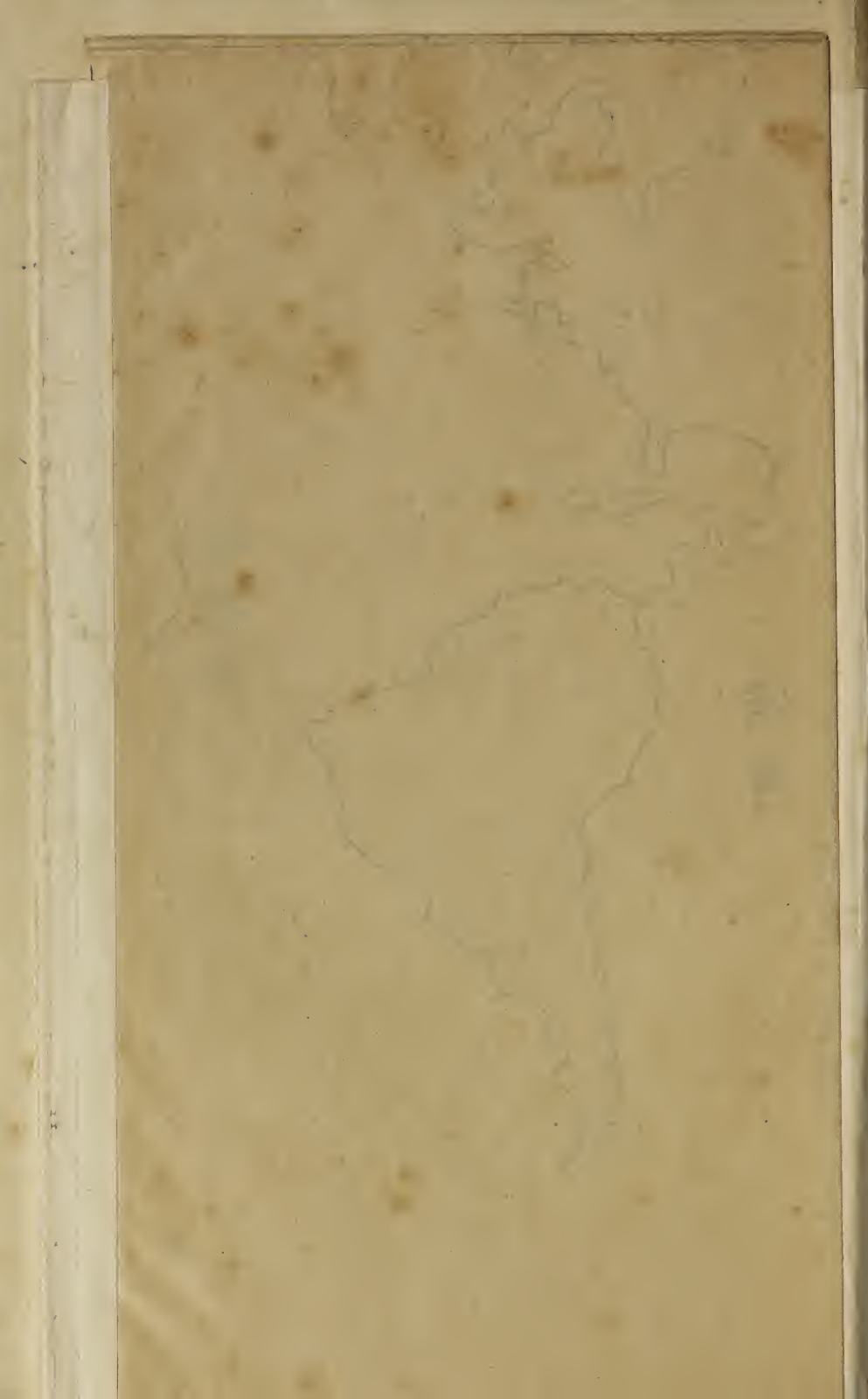
「ヒテイット」

「ヒテイット」

現代ノ「セミット」

「アモレアン」種ノ猶太人

（想像ニヨル「ソロモン」ノ子「ロヴォアム」）

附圖第二
世界ニ於ケル猶太人分布概見圖
備考
一、分布ノ密度ハ精密ニ非ズ
二、朱点一点ヲ以テ約一千人ヲ標準トセルモ一市街ニテ十万以上ヲ有スルモノ又ハ百人位ヅツ離散スルモノ共ニ精確ニ現ハシ居ラズ
三、大戰後ノ統計明ナラザル為戰前ノ國境ニヨレリ

大正十年十一月七日印刷（代謄寫）（非賣品）

大連市近江町ム區五十五號地
印刷人　吉田又雄

大連市近江町ム區五十五號地
印刷所　東亞印刷株式會社大連支店

北滿洲特務機關編